

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財報告書第329集

# 西館跡発掘調査報告書

一般県道前沢・東山線 緊急地方整備工事に伴う緊急発掘調査

(財)岩手県文化振興事業団

埋蔵文化財センター

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財報告書第329集

# 西館跡発掘調査報告書

一般県道前沢・東山線 緊急地方整備工事に伴う緊急発掘調査

# 序

本県には、旧石器時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地が各地に分布しております。これら先人の貴重な文化遺産を保存し、後世に伝えていくことは私達県民に課せられた重大な責務であります。

一方、現代社会を豊かにし、快適な生活を送るための地域開発も県民の切実な願いであります。埋蔵文化財の保護・保存と地域開発という相容れない要素を持つ事業の調和のとれた施策が今日の課題となっております。

当事業団は、埋蔵文化財センターの創設以来、埋蔵文化財保護の立場にたって、県教育委員会文化課の指導と調整のもとに開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡について発掘調査を行い、その記録を残す措置をとってまいりました。

本報告書は、前沢・東山線県道建設事業に関連して、平成9年度・平成10年度に発掘調査を行った胆沢郡前沢町西館跡の調査結果をまとめたものであります。調査によって、中世の堀・土坑・繩文土器・石器が伴う遺物包含層のほか、かわらけ・陶磁器片等の貴重な資料を提供することができました。

この報告書が広く活用され、斯学の研究に寄与するとともに埋蔵文化財に対する関心と理解をいっそう深めることに役たつことを切に希望いたします。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成にご協力とご支援を賜りました水沢地方振興局、前沢町教育委員会をはじめとする関係各位に心より感謝申しあげます。

平成12年3月

財団法人 岩手県文化振興事業団

理事長 船越昭治

## 例　　言

1. 本報告書は岩手県胆沢郡前沢町生母字西館46番地に所在する西館跡の発掘調査の成果を収録したものである。
2. 本遺跡の調査は、一般県道前沢・東山線に係わる改良工事に伴う事前の発掘調査である。調査は岩手県教育委員会と水沢地方振興局土木部との協議を経て、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが担当した。
3. 岩手県道路台帳の遺跡番号はNE 57-0139、調査略号は調査年度ごとにND-97、ND-98である。
4. 発掘調査期間、調査面積、調査担当者は以下のとおりである。

平成 9年 8月 1日～ 9月 30日	菊池 貴広	晴山 雅光
平成 9年 10月 1日～11月 7日	菊池 貴広	村上 拓
平成10年 8月 3日～11月 11日	菊池 貴広	半澤 武彦
調査面積 平成9年度 4,720m <sup>2</sup>	平成10年度 4,130m <sup>2</sup>	
調査面積合計 8,850m <sup>2</sup>		
5. 室内整理期間及び整理担当者は以下のとおりである。

平成 9年 11月 8日～平成10年3月 31日	菊池 貴広	晴山 雅光
平成10年 11月 12日～平成11年3月 31日	菊池 貴広	半澤 武彦
6. 本報告書の執筆は、菊池 貴広が中心に執筆を行った。
7. 地形測量・基準点測量・航空撮影・地形図のトレース・石材鑑定は以下の方にお願いした。

地形測量・地形図トレース・航空撮影	(株)ハイマーテック
地形図トレース	(株)ハイマーテック
航空撮影	東邦航空株式会社
基準点測量	第一航業株式会社 株式会社 コスモ測量設計
石材鑑定	花崗岩研究会
8. 本報告書の作成にあたっては下記の方々にご指導をいただいた。(順不同、敬称略)  
井上喜久男(愛知陶磁資料館)、藤沢良祐(瀬戸市埋文)、高田和徳(一戸町教委)阿陪一・及川マキ・小野寺義文(前沢町教委)、熊谷常正(盛岡大学助教授)、家田惇一(佐賀県立九州陶磁館)
9. 調査の成果はこれまでに調査略報に発表してきたが、本書の内容がこれらに優先するものである。
10. 土層の色調の観察は、「新版標準土色帳」(農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色原監修 1989)を用いた。
11. 本遺跡の調査で得られた一切の資料は岩手県立埋蔵文化財センターに保管している。
12. 図版に使用した記号やスクリーントーンは以下の内容を示す。



—— 石



—— 土器



—— 地山

# 目 次

序

弁言

## 【本文】

I. 調査に至る経過	1	3. 遺跡について	13
II. 遺跡の立地と環境	3	4. 曲輪について	13
1. 位置と環境	3	V. 検出された遺構・出土遺物	15
2. 地理的環境および地形	3	1. 繩文時代の遺構と出土遺物	15
3. 地質	3	2. 中世の遺構と出土遺物	16
4. 周辺の遺跡	3	3. 近世・近代の遺構と出土遺物	29
5. 遺跡の基本層序	7	4. 時代時期不明遺構と出土遺物	30
III. 調査の方法と室内整理	9	VI. 遺物包含層について	33
1. 野外調査		1. 遺物包含層の呼び名について	33
(1) グリットの設定	9	2. 遺物包含層について	33
(2) 粗掘りと遺構検出・遺構の精査と実測	9	VI. 本遺跡の出土遺物	38
(3) 写真撮影について	10	1. 繩文土器	38
(4) 遺物の取り上げについて	10	2. 石器	53
(5) 遺構名の付け方	10	3. かわらけ	70
2. 室内整理		4. 陶磁器	72
(1) 遺物の処理	10	VI. まとめ	78
(2) 遺構図面	10	1. 遺構	78
(3) 図版について	10	2. 遺物包含層	78
(4) 遺物の写真図版について	10	3. 遺物	78
IV. 西館跡について	13	4. おわりに	79
1. 城主について	13	参考文献	80
2. 主郭について	13		

## 【図版】

第1図 岩手県全図	2	第10図 1号櫓平面	19
第2図 周辺の遺跡	6	第11図 1号櫓断面	20
第3図～第5図 柱状図	7	第12図 現況地形測量図	21
第6図 遺跡の位置	8	第13図～15図 曲輪平面、断面図	23
第7図 遺構配置図	11	第16図 SK3・SK4・SK6・SK7・雨裂溝	
第8図 西館跡主郭・堀輪削図	14	平面・断面図	26
第9図 SK8平面図・断面図	15	第17図 遺物包含層B、雨裂溝SK7断面	27

第18図 SK4・SK6断面図	28	第26図～38図 繩文土器	40
第19図 SK2・1平面図・断面図	30	第39図～52図 石器	55
第20図 1号溝跡	31	第53図・54図 石器グラフ	69
第21図 1号溝跡焼土	32	第55図 かわらけ	71
第22図 遺物包含層A平面、断面図	35	第56図～59図 陶磁器	73
第23図 遺物包含層B範囲・断面	36	第60図 その他	77
第24図・25図 遺物包含層A分類別グラフ	37		

【表】

第1表 周辺の遺跡	4・5
-----------	-----

【写真図版】

写真図版 1 石器・陶器	83	写真図版 18 繩文土器(1)	100
写真図版 2 磁器	84	写真図版 19 繩文土器(2)	101
写真図版 3 空中写真	85	写真図版 20 繩文土器(3)	102
写真図版 4 空中写真	86	写真図版 21 繩文土器(4)	103
写真図版 5 1号掘跡	87	写真図版 22 繩文土器(5)	104
写真図版 6 1号掘跡断面	88	写真図版 23 繩文土器(6)	105
写真図版 7 1号掘跡・土坑	89	写真図版 24 繩文土器(7)	106
写真図版 8 土坑・調査前風景	90	写真図版 25 石器(1)	107
写真図版 9 調査前風景・1号掘状況断面	91	写真図版 26 石器(2)	108
写真図版 10 曲輪試掘	92	写真図版 27 石器(3)	109
写真図版 11 1号溝跡・曲輪トレンチ	93	写真図版 28 石器(4)	110
写真図版 12 1号溝	94	写真図版 29 石器(5)	111
写真図版 13 遺物包含層A	95	写真図版 30 石器(6)	112
写真図版 14 遺物包含層A完掘・土坑・ 包含層B断面	96	写真図版 31 石器(7)	113
写真図版 15 土坑群・雨裂溝・完掘・断面	97	写真図版 32 かわらけ	114
写真図版 16 土坑群・雨裂溝・遺物包含層	98	写真図版 33 陶磁器	115
包含層B完掘	99	写真図版 34 陶磁器	116
		写真図版 35 陶磁器・その他	117
		写真図版 36 古貨幣	118

## I 調査に至る経過

西館（城館跡）は、「一般県道前沢・東山線 緊急地方道整備工事」の施行に伴って、その事業区が城内に位置することから発掘調査をすることとなったものである。

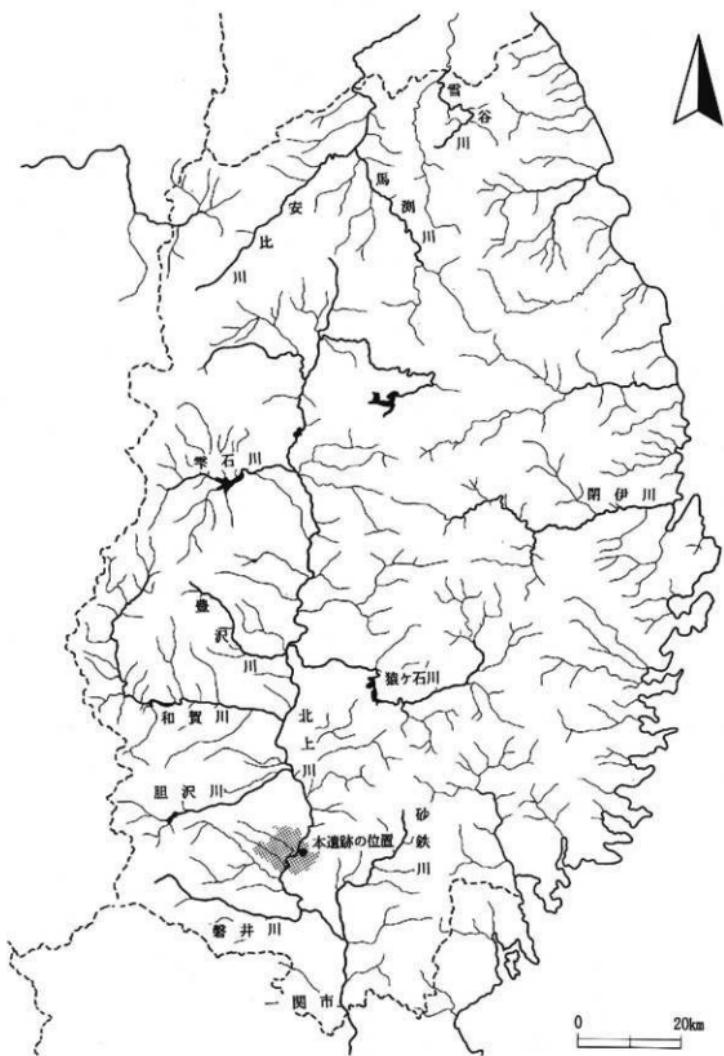
「一般県道前沢・東山線 緊急地方道整備工事」は、前沢町から東山町を経て県南部の三陸沿岸に通じる最短ルートで極めて重要な路線でありながら、生母字町地区は幅員4.0mと狭小のため大型車の交差が困難で家屋の軒先に接触している現状である。また、近くには母体小学校があり朝夕の学童の通学等に大変危険な状態となっている。これを解消するよう地元からも要望があり、町地区を迂回し西館地区を通る道路改築事業として、産業経済の発展および観光の振興に多大な貢献を果たすものとして確信し実施するものである。当事業の施行にかかる埋蔵文化財の取り扱いについては、岩手県土木部水沢土木事務所から平成8年9月2日付け水土第1006号「道路改良工事に伴う、埋蔵文化財の分布調査について（依頼）」の文書によって、岩手県教育委員会事務局に対し分布調査の依頼をしたのが最初である。

依頼を受けた岩手県教育委員会事務局では、平成8年9月27日に分布調査を実施し、その結果を平成8年10月7日付け教分第568号「道路改良にかかる埋蔵文化財の分布調査について（回答）」で水沢土木事務所へ回答し、その際工事施行範囲内が西館（城館跡）の範囲内であること。今後の進め方について改めて文化課と協議するよう付記された。

回答を受けた水沢土木事務所では、平成8年11月8日「埋蔵文化財の分布調査の、今後の進め方について」の手続きを電話で文化課に伺ったところ、道路改良事業の進捗に合わせ全体調査面積の約半分の5000m<sup>2</sup>を平成11年1月13日文化課から電話にて、平成9年度の本調査予定の範囲と面積が分かる図面の提出及び調査に取りかかれる月日の問い合わせがあり、平成9年1月17日郵送にて平成9年度本調査申請面積5.700m<sup>2</sup>と、調査開始可能月日の平成9年8月始めを記載した着色図面を提出した。

これにより、平成9年度は、平成9年7月30日に契約を締結し、平成9年8月1日に開始し平成9年11月7まで継続し、4.720m<sup>2</sup>について調査を行なった。

平成10年度は、教文902号により、平成10年度7月31日に契約を締結し、平成10年8月3日に発掘調査を開始し平成10年11月11日まで継続し4.130m<sup>2</sup>について調査を行った。



第1図 岩手県全図

## II 遺跡の立地と環境

### 1. 位置と環境

本遺跡は、胆沢郡前沢町生母字西館46番地ほかに所在し、JR東日本東北本線前沢駅からほぼ東に約4.3km、北上川からほぼ東へ約1.5kmに位置し、北上川左岸に発達形成された更新世段丘上の1つに立地している。地形は南北両側を深い谷に開析され、北上川の浸食により急な崖となっており北上川との河床と約23mから約50mの比高がある明瞭な段丘崖となっている。丘陵先端部に3つの舌状台地を形成している。

本遺跡の標高は、東側で約52m、西側で約43mで、調査区南側に西館跡の主郭が位置する。(第8図参照)。遺跡の北西約5kmには川岸場遺跡がある。

### 2. 地形

西館跡の所在する胆沢郡前沢町は、岩手県の南に位置し、北は水沢市に、西は胆沢層状地台地で胆沢町に、南は衣川村と平泉町に、東は山重なる北上山地の中で東磐井郡東山町に接している。東西に約13.3km、南北に約9.0km、総面積は72.34kmである。

地形を区分すれば、東部の北上山地西縁の山麓丘陵地区、町の中央部を南流する北上川両岸に発達する冲積低地及び後述の低位段丘面を含む低地地区、町の西部に広く形成された段丘地区に3区分される。

北上川と、これに注ぐ大支流の河川は、中流域の両岸に、殊にも右岸部(西側)に大規模な扇状地とこれを刻む河岸段丘地形を形成してきたが、前沢町はこの地形発達区の中央部、胆沢層状地の先端部の南端に位置している。

### 3. 地質

地質は、胆沢層状地に形成された河岸段丘の基盤の地層、新第三系、更新統の本畑(金沢層)である。本層は、夏油川流域の本畑(北上市瀬美温泉付近)を標準とする地層で、岩相構成は砾岩、砂岩、シルト岩、灰岩を主とし部分的に亜炭層を挟む。

上位の一層板段丘の構成層は、上部・下部2枚の砾層とローム層で、レンズ状に凝灰質の砂岩層がある。中位の胆沢段丘群の構成は折居砾層とこれを被覆する黒沢尻火山灰層とから成る。下位の水沢段丘(前沢段丘)は基底砾層と砂、粘土の互層で黑色帶の泥炭層を挟む。

北部の母体地域は母体層と呼ばれる変成岩(母体変成岩)が主体で、かつては古生界デボン系とされていたが、母体層の東側には蛇紋岩層が広がる。

### 4. 周辺の遺跡について

本遺跡周辺の縄文時代の遺跡としては、北羽毛遺跡、南在遺跡を始めとする遺跡がいくつか確認されている。ほとんどの遺跡は、発掘調査が行われていないため詳細は不明だが、本遺跡の南東約2kmに所在する上木遺跡は、縄文時代前期の大規模な遺跡であることが判明している。また、本遺跡とは北上川を挟んで対岸には、小林繁長遺跡や川岸場遺跡など縄文時代中期から晩期の遺跡が集中している。

本遺跡周辺の中世の遺跡としては、城館跡が最も多い。本遺跡が立地する北上川左岸の東幡山西麓丘陵縁辺には、1~2kmおきに城館跡が点在しており、鶴城館、柳沢館、下柳館、羽場館、赤生津城、月館、二反田館が所在する。なお本遺跡の北東約1.5kmには中世~近世の製作と推定される磨崖仏が近年発見されている。

第1表 周辺の遺跡

番号	遺跡名	種別	時代・遺構・遺物
1	龍ヶ馬場	散布地	縄文・平安・縄文土器・土師器・須恵器
2	鶴野木新田法師塚	塚跡	中世・塚
3	須江館	城館跡	中世
4	鶴野木新田南	散布地	縄文・平安・縄文土器
5	鶴野木新田	散布地	縄文
6	堤尻館(堤尻沢館)	城館跡	中世・平場
7	大沢	散布地	縄文・縄文土器(前・中期)
8	元天神前I	散布地	縄文・石塚
9	浜田	散布地	縄文・平安・縄文土器・土師器・須恵器
10	堤尻下	散布地	中世・陶器
11	館I(中野城)	城館跡	中世・土塁・副郭・平場
12	観音堂II	散布地	縄文・縄文土器・石器
13	馬塚館	城館跡	中世・石の枕・仮壇用祭祀器
14	中平東II	散布地	縄文・石礫
15	中平館	散布地・瑠璃製跡	中・近世・濠・土塁・單郭
16	二ノ瀬	散布地	平安・中世・土師器・須恵器・陶器
17	経塚	山城館跡	中・近世
18	谷	散布地・城館跡	中・近世・濠
19	折居館(要害)	城館跡	中・近世・濠・土塁・單郭
20	漆林I	散布地	縄文?古代・剝片・土師器
21	鶴城館(黒石古館)	城館跡	平安・中世・土師器・須恵器・石器・平場
22	旧黒石中前	散布地	縄文・縄文土器(中期)
23	北館	環濠屋敷跡	平安・中世・土師器
24	栗林	経塚・屋敷跡	中・近世・一字一石経塚
25	黒石	散布地	縄文・縄文土器(中期)
26	大久保	散布地	縄文・石礫・石匙
27	龜城	散布地	縄文・平安・縄文土器(後・中期)・須恵器
28	幅	散布地	縄文・平安・縄文土器・土師器・焼土
29	内城吹張	散布地	縄文・平安・縄文土器・土師器
30	鳥子沢	散布地・城館跡	平安・中世・堀跡・土師器
31	八郎館(高代寺)	散布地・城館跡	平安・中世・堀跡・土師器
32	宗角館	散布地・城館跡	
33	九朗館	城館跡	中世・堀・郭・平場
34	中畑城	城館跡	中世・堀・土塁・郭
35	五輪	散布地	縄文・縄文土器・フレーク
36	下柳館(下谷木館)	城館跡	中世・土塁・空堀・單郭
37	丹波山	散布地	縄文～中世・縄文土器・土師器・須恵器
38	十三坊塚	塚跡	中・近世・塚群
39	丸森経塚	塚跡	中・近世・経塚(索焼き甕・砾)
40	柳沢館	城館跡	中世
41	白石沢	散布地	縄文
42	金山水沢	散布地	縄文・縄文土器
43	経塚	山経塚	中・近世・経塚
44	古城方八丁	散布地	縄文・縄文土器
45	川岸場II	散布地	縄文・弥生・縄文土器(後期)・弥生土器・続縄文土器
46	川岸場I	散布地	注口土器・甕・高杯・皿・瓶子
47	小林繁長	散布地	縄文・縄文土器(中期)・石器・土偶
48	大麻生城(上麻生城)	散布地・城館跡	縄文・中世・縄文土器(後期)・石塚

第1表 周辺の遺跡

番号	遺跡名	種別	時代・遺構・遺物
49	田 高 II	散 布 地	縄文・平安・石斧・土師器・須恵器
50	田 高 散 布 地		縄文・縄文土器(中期・晚期)
51	登 満 羽 毛 経 塚 経	塚	近世
52	北 羽 毛 散 布 地		縄文・石器
53	清 水 沢 散 布 地		縄文・縄文土器(中期)・石器
54	阿 倍 館 城 館	跡	中世
55	一 字 一 石 塚 経	塚	近世・石碑・経石
56	南 在 集 落 跡	跡	縄文・石鐵・縄文土器
57	赤 板 散 布 地		縄文・石匙
58	前 沢 城 城 館	跡	中世・空堀
59	道 場 散 布 地		縄文・縄文土器(中期)
60	羽 場 館 城 館	跡	中世
61	泊 ケ 崎 散 布 地		縄文・平安・縄文土器(中期)・土師器・須恵器
62	古 城 館 城 館	跡	空堀
63	赤生津城(東館)	城 館	跡
64	赤 間 館 散 布 地		縄文・石鐵
65	生 母 上 木 散 布 地		縄文・縄文土器(中期)・石鐵・石斧・石匙
66	新 城 集落跡・城館跡		縄文・平安・縄文土器・土師器・須恵器
67	乙 羽 道 散 布 地		縄文
68	赤 間 館 散 布 地		縄文・石棒
69	白 鳥 館 城 館	跡	中世
70	笹 森 集 落 跡	跡	縄文・石鐵
71	前 水 散 布 地		縄文・石鐵
72	照 井 館 城 館	跡	中世
73	小 沢 口 散 布 地		縄文・縄文土器
74	月 館 II 城 館	跡	中・近世・主郭・堀・土塁
75	月 館 I 散 布 地		縄文・中世・縄文土器・石器
76	月 館 III 散 布 地		縄文・縄文土器(中期)
77	東 副 寺 I 散布地・社寺跡		縄文・平安・礎石・縄文土器
78	経 塚 山 経	塚	中・近世・土塁・主郭・平場・副郭
79	新 山 権 現 社 散 布 地		縄文・縄文土器(中期)・石器
80	二反田 I (内館)	散 布 地	中・近世・堀・主郭・平場・副郭
81	二 反 田 II 散 布 地		縄文・縄文土器
82	滝 ノ 沢 散 布 地		縄文・縄文土器
83	道 綱 館 (内館)	城 館	跡
84	滝 ケ 板 散 布 地		縄文・縄文土器
85	高 館 (衣川館)	散布地・城館跡	縄文・平安・土塁・堀・平場・主郭・副郭・かわらけ
86	無 量 光 院 社 寺	跡	平安・近世・伽羅遺構・かわらけ・陶磁器
87	阿 弥 陀 堂 社 寺	跡	近世
88	長 島 燐 窯	跡	近世・製陶資料
89	下 田 散 布 地		縄文・縄文土器
90	中 村 II 散 布 地		縄文・縄文土器
91	飯 岡 散 布 地		縄文・縄文土器
92	経 塚 板 経	塚	中・近世
93	経 塚 長 根 経	塚	中・近世・一字一石経石
94	下 西 風 II 塚	跡	中・近世
95	下 西 風 I 経	塚	中・近世



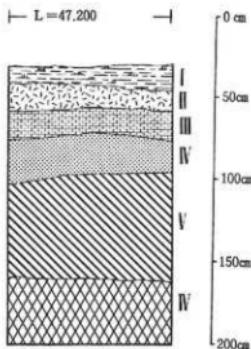
第2図 周辺の遺跡

(1 : 50,000 水沢)

## 5. 遺跡の基本層序

平成9年度の調査区の土層の特徴は、水田造成土を剥がすと地山という状態で、水田造成時にかなりの削平を受けていた。調査区大グリットのIII E区が自然堆積層が確認されたため、その試掘の土層図を基本層序としてあげた。

I 層	10Y R5/2	灰黄褐色	粘土質シルト
(酸化鉄が含まれる) 層厚10cm~20cm 耕作土			
II 層	10Y R4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト
層厚 13cm~20cm 旧水田面			
III 層	10Y R4/1	褐灰色	粘土質シルト
層厚 13cm~22cm			
IV 層	10Y R4/2	灰黄褐色	粘土質シルト
層厚 16cm~40cm			
V 層	10Y R3/4	暗褐色	粘土質シルト
層厚 20cm~80cm			
VI 層	10Y R8/4	浅黄橙色	粘土
層厚不明 (地山)			

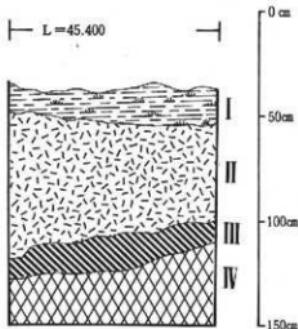


第3図 柱状図

平成10年度の調査区の土層は、削平を受けている部分が多く、水田層を剥がすと地山という状況であった。本文では曲輪の試掘と大グリット II C区で確認された遺物包含層Bを本遺跡の基本土層としてあげた。

## 曲輪試掘

I 層	10Y R4/1	褐色	粘土質シルト
層厚 11cm~20cm (耕作土)			
II 層	10Y R7/2	にぶい黄褐色	粘土質シルト
層厚 30cm~70cm (水田造成時の盛土)			
III 層	10Y R4/6	褐色	粘土質シルト
層厚 10cm~30cm (盛土・酸化鉄を含む)			
IV 層	10Y R8/2	灰白色	粘土
層厚不明 (地山)			



第4図 柱状図

遺物包含層B

I層 10Y R 4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト  
層厚 4cm～20cm (水田造成時の盛土)

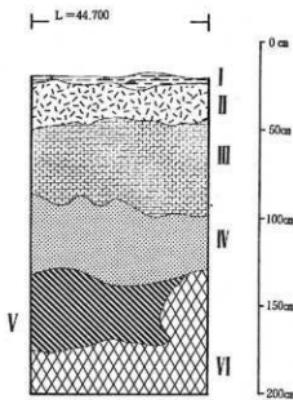
II層 10Y R 8/4 浅黄褐色 粘土質シルト  
層厚 3cm～28cm (水田造成時の盛土)

III層 10Y R 4/4 褐色 粘土質シルト  
層厚 20cm～80cm

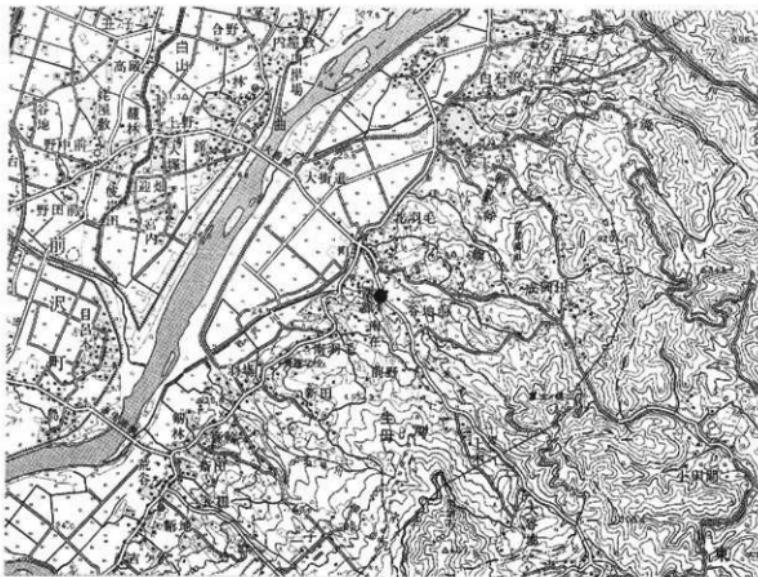
IV層 10Y R 2/3 黒褐色 粘土質シルト  
層厚 4cm～48cm (遺物包含層)

V層 10Y R 3/4 暗褐色 粘土質シルト  
層厚 5cm～49cm (遺物包含層)

VI層 10Y R 5/8 明黄褐色 粘土質シルト  
層厚不明 (地山)



第5図 柱状図



第6図 遺跡の位置

(1 : 50,000 水沢)

### III 調査の方法と室内整理

#### 1. 野外調査

##### (1) グリットの設定

平成9年度の調査区の設定は任意の基準点1・2を2点間が直線を通るように設定し、基準点を直交する直線を座標の基準線とした。各基準点の平面直角座標第X系による成果は次の通りである。

基準点1(平成9年度) X = -105180.000m, Y = +29980.000m, H = 49.443

基準点2(平成9年度) X = -105180.000m, Y = +29920.000m, H = 47.610

グリットは、20×20mのメッシュで、97年度の調査区を区画したこのメッシュの北西端を基準に南北方向の北からI・II・III……の番号を付し、東西の方向の西からA・B・C……のアルファベットを70等分の大グリットとした。更に、この大グリットを4×4mの小区画に細分し、南北方向の北から数字の1~5、東西方向の西からアルファベットのa~eを付し、大グリットを25等分の小グリットに区画した。

調査区の名称は、大グリットではIA区・IB区、小グリットでは、IA1a区・IB1b区というように呼称した。平成10年度は、平成9年度のグリットに付け加えるように、20×20mのメッシュで、大グリットを組んだ。任意の基準点と同じように1・2を2点間が直線を通るように設定し、基準点を直行する直線基準線とした。各基準点の平面直角座標軸第X系による成果は次の通りである。

基準点1(平成10年度) X = -105160.000, Y = +29840.000 H = 45.218

基準点2(平成10年度) X = -105160.000, Y = +29860.000 H = 46.112

前述したように、平成9年度のグリットに付け加えるように、北西端を基準に南北方向の北から、I' II' III'……の番号を付し、東西方向の西からA'・B'・C'・D'・A・B・C……のアルファベットを付し、小区画については、前述に記したように付した。

調査区の名称は、曲輪・堀等の中世の遺構と考えられる区域はそのままの名称で、その他の調査区は大区画のグリットの名称で、遺物包含層については、小区画のグリットの名称で区別した。

##### (2) 駿掘りと遺構検出・遺構の精査と実測

平成9年度は、雑物撤去・刈払い作業から開始し、試掘トレンチ、粗掘り、遺構検出・精査の順に進めた。表土・耕作土の除去には、重機を使用し、検出された堀に関しては、壁面と底部とベルトを除いて重機で掘り上げた。検出された遺構は、堀一条・土坑2基が検出された。堀の精査に関しては、1:100の縮尺で平板図を使用し、断面図は、1:20の縮尺で精査を行なった。他の2基の土坑に関しては、1:20の縮尺で精査を行なった。

平成10年度の調査は、調査前から曲輪と考えられる平坦部・堀と考えられる沢状の長い落ち込みの地形を確認していた。始めに現況の地形測量を行うため、雑物撤去を行いそれと併行して、曲輪にはカタカナの「ヰ」の字型に試掘を行なった。雑物撤去終了後地形測量を行い、その後重機(パワーショベル)を使用し、その後人労によって遺構の検出を行った。堀は、上流部・中流部・下流部に試掘溝を設定し、当初は人力で粗掘りを行ったが底面が深くなる事が予測され重機を使用したが、地盤がもともとゆるいことと、降雨により試掘溝が崩壊し、今後の調査にも危険が伴うことを考えて、調査を中断した。曲輪・堀以外の調査区は、人力による試掘を行い、遺構の有無を確認した後重機を使用し、その後検出を行った。

検出された遺構は、平面図は1:20の縮尺又は、1:30の縮尺で平板図を用いて行ない、断面図は1:20の縮尺で精査を行なった。現況地形測量においては1:100の縮尺で測量を行った。

#### (3) 写真撮影について

写真撮影は、適宜調査前の調査区、遺構の断面、遺構の埋土、遺物の出土状況等遠近距離からの撮影を行なった。写真撮影は35mmモノクロームとカラースライド各1台と6×7のモノクローム1台を使用した。また、平成10年度は現況地形測量を行い、測量時に現況の空中撮影を行なった。調査終了時も、空中撮影を行っている。

#### (4) 遺物の取り上げについて

平成9年度遺構内出土遺物については、埋土上位・中位・下位に分けて取り上げた。遺構外出土遺物については、調査区に設定した小グリット別、または調査区の名称別に出土した層位を記して、取り上げた。平成10年度も9年度と同じ遺物の取り上げ方をしたが、遺物包含層については、単層については任意で上層・下層に分けて取り上げ、層が分かれているところは、層位別・小グリット別に取り上げた。

#### (5) 遺構名の付け方

堀・溝は1号堀などと名称し、土坑については、SKと遺構の名付けをした。

## 2. 室内整理

#### (1) 遺物の処理

遺物は水洗、注記を行い、必要なものについては接合、復元作業を実施した。これらの作業終了後、遺物の登録を行なった。遺物の登録後、実測・拓本・写真撮影・トレースを行い遺物図版を作成した。

#### (2) 遺構図面

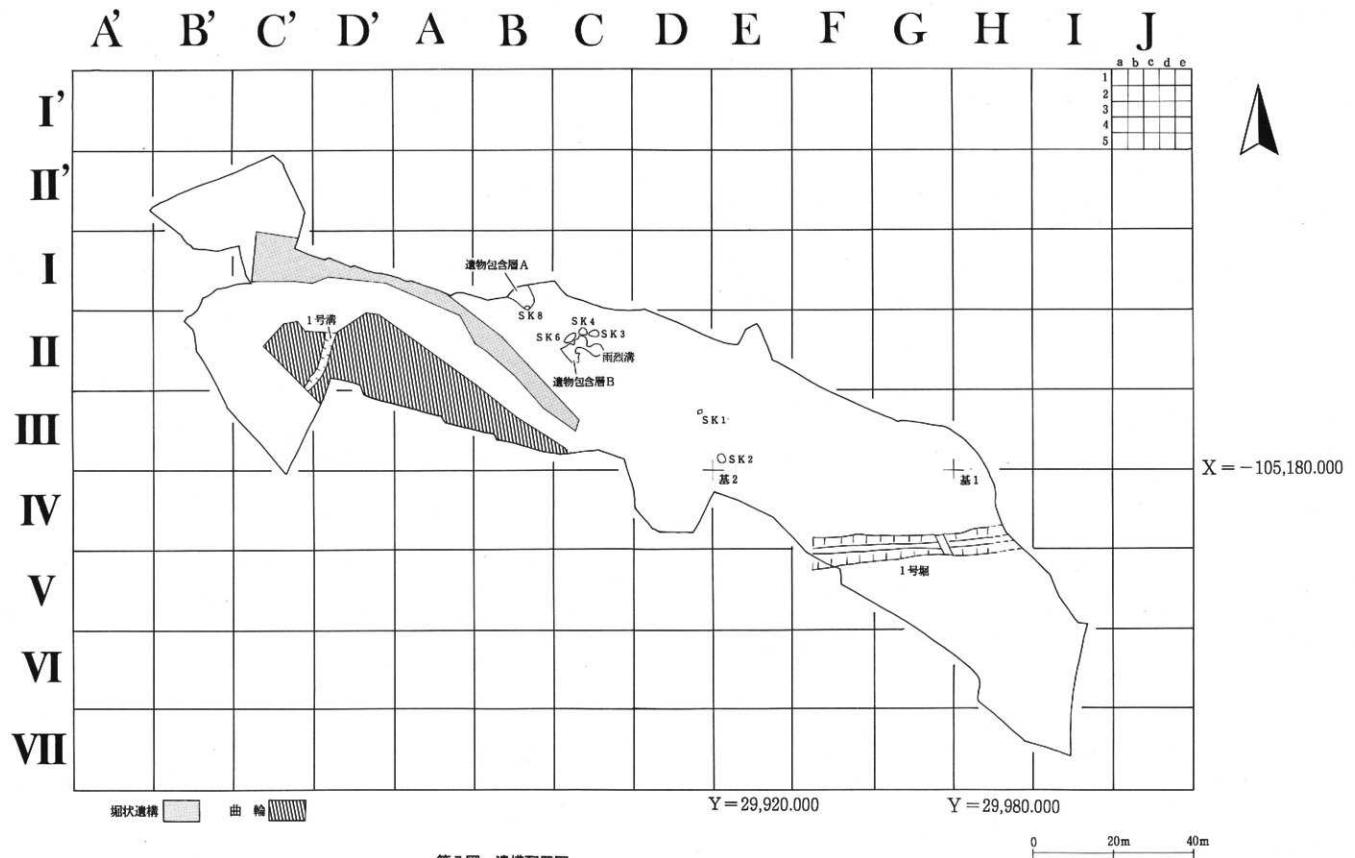
野外調査で作成した実測図は必要なものについては第2原図を作成した。その後トレース・遺構図版作成の順に進めた。

#### (3) 図版について

遺物の図版は遺構内・遺構外を一括し、縄文土器・石器・かわらけ・陶磁器等毎にまとめ、さらに形状・時代毎に分類し、作成・掲載した。縄文土器実測図3分の1・拓影図3分の1・剥片石器2分の1・砾石器・石皿品3分の1・陶磁器3分の1・かわらけ2分の1である。なお、各図版にはそれぞれスケールを付している。

#### (4) 遺物の写真図版について

遺物の写真図版の縮尺は、剥片石器・かわらけが約2分の1・古貨幣がほぼ原寸である。その他の遺物は約3分の1である。



第7図 遺構配置図

## IV 西館跡について

### 1. 城主について

西館跡が所在する前沢町は鎌倉時代に源頼朝によって奥州總奉行に任せられた葛西氏の所領であった。前沢町内の葛西氏の支配下にあった21ヶ所の中世城館が存在する中に西館跡がある。

西館跡の城主については、「仙台藩古城書上」・「安永風土記」に「千葉民部天正年中まで御住居」となっている。中世の西館跡は、葛西氏の家来である千葉氏の居城であったと推測される。

豊臣秀吉の奥州仕置によって天正十八年（1590）葛西氏は取り潰しに合い、葛西氏の家来である千葉民部は帰農し没落したものと推定される（鈴木透 1976）。

江戸時代は、前記した千葉民部の後、内崎氏が西館に居城することになる。安定した行政を行っていたと推測されるが、宝曆10年（1760）頃に当主が叔父を殺害したため、改易となっている（鈴木透 1976）。その後西館跡に城主が居をかまえたかは定かでないが、文献から中世末から近世中頃まで城主が存在していたと言えるだろう。

### 2. 主郭について（第8図）

城の規模については「安永風土記」「仙台領古城書上」に記されている。「安永風土記」は「本丸 東西十八間 南北二十一間 二ノ丸 東西十四間 南北二十一間」とし、「古城書上」は「本丸 東西十四間 南北二十二間 二ノ丸 東西二十一間 南北十八間」と両者の本丸と二ノ丸が逆になっている。鈴木透氏は現地調査をし「古城書上」が一致しているとしている。

第8図において、スクリーントーンで本丸・二ノ丸の推定範囲を示した。

### 3. 堀跡について

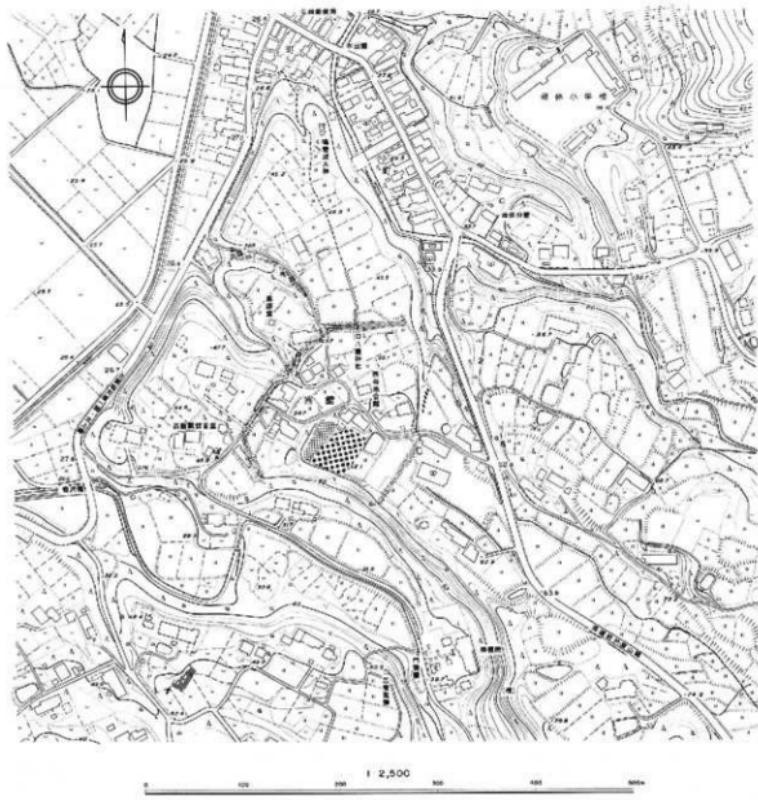
平成9年度調査において、主郭から北西方に延びる堀跡を一条検出した。平成10年度の調査では、堀状遺構一条を確認し、また、前沢町教育委員会で堀を一条検出している。

これらの検出された堀跡と鈴木透氏の推測している堀と検討し、第8図において、西館跡の堀跡の概要をスクリーントーンで、推定範囲を示した。

### 4. 曲輪について

西方に張り出す3つの舌状台地があるが、舌状台地の1つが本遺跡の調査区になった。この舌状台地は平成10年度に調査した堀状遺構が舌状台地を東西方向に横切る様に位置し、舌状台地段丘崖の上の平坦部となっていたり、地形と堀状遺構との関係から曲輪と推定した。

残り2つの舌状台地においても、調査は行われていないが、曲輪の可能性があると思われる。なんらかの館跡に伴う遺構が存在する可能性はあると推測される。



第8図 西館跡主郭・堀範囲図

## V 検出された遺構と出土遺物

平成9年度・平成10年度にわたって調査した結果、検出された遺構は、土坑7基、壙2条、溝1条、曲輪1カ所である。

### 1. 繩文時代の遺構と出土遺物

#### S K 8 (第9図)

(位置) 調査区 I B グリット区北西の遺物包含層A内

(検出・調査状況) 遺物包含層を掘り上げた後、円形状のプランを確認した。土坑内には、径30cm~50cm石が約10個入っていた。石を除去後、精査を行った。

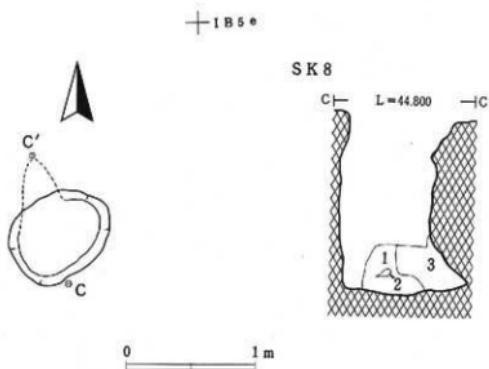
(形状・規模) 平面形は、円形を呈し規模は、約0.8m×0.6m、深さ約1.3mである。断面形は、底面が張り出しが、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

(埋土) 埋土は、石を取り除いたため、底部に残すのみであるが、黄褐色土に黒褐色土粒が混入する層が主体である。

(出土遺物) 繩文土器・石器が出土した(第44図)。

(時代時期) 繩文時代に属すると思われる。

(性格について) 出土した繩文土器は、小片のため土器の詳細は不明である。遺物包含層Aが形成される前の土坑と言えるだろう。



第9図 SK 8 平面図・断面図

## 2. 中世の遺構と出土遺物

### 1号堀（第10・11図）遺物（第55・56・60図）

V F 1 b から V H 1 d のグリットの線上にかけて、東西に約50m程延び、東端は段丘崖となっており、西端は、調査区外で野道にぶつかる。堀の上幅は9m～7m、下幅は1.5m～0.7m、深さ2.5m～2mである。堀は、主体部の北側を囲うように検出された。

埋土上半分は宅地または、水田の造成による客土である。埋土中位以下は、グライ化が著しく、緑灰色・青灰色の層で、その中で黒色土が2層入っており、第11図の断面図Bの5層と10層は、腐植土と考えられ、堀の底が一時安定して、保たれた事を表わすと思われる。埋土中位以下の層は、風雨による流れ込みや、堀の壁面が崩れたものと考えられる。

断面の形状は薙研状である。しかし、西端の堀の形状は異なっているが、西端の壁面が随時崩れてくることから、作業の安全を考え、底面までの掘り下げは中止することにした。

堀からの出土遺物は、埋土中位上部から變と思われる陶器片・埋土中位から18世紀頃に肥前で製作された陶器鉢片・17世紀中頃に鹿戸で製作された片口の陶器片・18世紀中頃に肥前で製作された磁器皿・古銭5点が出土しており、古銭の内訳は熙寧元寶1点、皇宋通寶1点、他の3点は摩耗が著しく銭文は判別できない。堀底面から高台跡のある素焼きの土器片1点（かわらけ？）・その他馬の歯が7本、獸骨の大脚部が出土した。

### 1号堀状遺構（第8図・写真図版9図）

現況は水田で、明治頃は沢であった。調査区の曲輪を横切り開析し北西方に向てゆるやかな弧を描いて標高が下がる地形である。規模は、総延長約90m、幅約5m～3.5mである。

調査は、曲輪を開むために人力によって掘られた掘跡か、もしくは、自然地形を利用した堀跡なのか確認するとともに、壁面・底面の状況を把握することを目的とした。

実際の調査は、堀状遺構の上流部・中流部・下流部に曲輪の斜面上から試掘溝を設定し、当初人力で約1.5m掘り下げていったが、底面がさらに深くなることが予測され、重機に変更して掘り下げたところ上流部で約3.5m掘り下げたところで砂疊層に到達し底面であることを確認した。

元々地盤がゆるく雨が降った日は湧水が著しいことから、すぐに調査に着手することはひかえ、調査員が底面の状況・断面の状況を把握するため、断面の土層注記・底面の状況の記載と写真撮影を行い土層図の作成は、状況を伺いながら行うこととしたが、降雨により3ヶ所の試掘溝は崩落し土層図の作成はできなかつた。アスファルト道路が崩壊する恐れがあるため、早急に重機により埋め戻しを行った。

上流部試掘溝の断面の土層注記・写真撮影等は行ったが、中流部・下流部は、前述した調査を行うことが出来なかつたため、埋土・底面・壁面の状態は不明である。

上流部の埋土は、表土から約40cm～50cmは水田造成層その下は自然堆積層である。自然堆積層は、大き分けると2層に分かれる。自然堆積層の上層は褐色土、下層は黒褐色土からなる。断定はできないが、自然地形（沢跡）を利用した堀と推定される。

#### 曲輪（第12・13・14・15図）

1号掘状造構が北側の平坦部を囲む地形から、館跡に伴う曲輪と想定し調査した。本稿では曲輪と称することにする。

現況の地形は雑壇形の水田であった。造構を確認する目的と本来の曲輪と思われる地形を把握するために、試掘溝を設定した。

地権者の話では、水田前は畑地で西方に緩やかに下る斜面を重機（パワーショベル）で雑壇状の水田に造成したということだった。試掘を行ったが、中世の整地層を確認するには至らなかった。水田造成時の削平が著しく、わずかに、旧畑地層を確認するのみであった。

試掘後、土層図の作成を行い、作成後重機により、耕作土・水田造成層を除去し、地山面での検出を行ったが、館跡に伴う掘立柱建物跡等の遺構は確認するに至らなかった。

底面に焼土遺構を作り溝跡を確認した。当時の地形が残っていたと考えれば、本来の溝跡は深かったものと推測される。溝跡の可能性も考えられるだろう。

#### S K3（第16図）

（位置） 調査区II C グリットの中央部に位置する。

（検出状況） 水田造成された盛土を重機で除去した後、地山面で検出した。

（形状・規模） 平面形は縦長の楕円形を呈し規模は約2.2m×約2.0m、深さは約1.5mである。断面形は、底面の角がトンネルまたは水抜き穴のように張り出す形状を呈している。

（埋土） 埋土は、5層にわかれ、粘土質シルトの黒褐色土が、主体をしめるが、壁面・埋土下位では、にぶい黄褐色土・灰白色土の地山に黒褐色土・暗褐色土粒が混入している。自然積積と推定される。

（出土遺物） 繩文土器片・石器が出土（第39・42・44・46・50図）。

（時代時期） 出土遺物は繩文土器・石器が出土しているが、隣接しているS K7埋土下位・遺物包含層B下層からかわらけ・須恵器片が出土した事から、周辺の遺構との関係から、中世に属すると思われる。

#### S K4（第16・18図）

（位置） 調査区II C グリットのS K3東隣に位置する。

（検出状況） 水田造成された盛土を重機で除去した後、地山面で検出した。

（形状・規模） 平面形は略楕円形を呈し規模は約1.1m×1.0m、深さは約1.8mである。断面形は、底部両端が張り出す形状をしている。

（埋土） 埋土は、26層にわかれ。底部から水が常時湧いてくることから、グライ化が著しい。

（出土遺物） 繩文土器片・石器が出土（第38・40・41・42・43・46・49図）。

（時代時期） 出土遺物は繩文土器・石器が出土しているが、隣接しているS K7埋土下位・遺物包含層B下層からかわらけ・須恵器が出土した事から、周辺の遺構との関係から中世属すると思われる。

#### SK6 (第16・18図)

(位置) 調査区II C グリット SK7 の西隣に位置する。

(検出状況) 水田造成された盛土を重機で除去した後、地山面で検出した。

(形状・規模) 平面形は歪な小判形を呈し規模は約3.6m×約1.7m、深さは約1.3mである。断面形は、歪な箱形を呈する。

(埋土) 黒褐色土が主体をなしている。自然堆積と思われる。

(出土遺物) 断面図(第18図)1・2層から近世の陶磁器片数点(第56図)が出土し、3層以下は縄文時代の土器片・石器片点出土している(第40・41・43図)。

(時代時期) 出土遺物は縄文土器・石器が出土しているが、隣接しているSK7埋土下位・遺物包含層B下層からかわらけが出土したことから、周辺の遺構との関係から、中世に属すると思われる。

#### SK7 (第16・17図)

(位置) 調査区II C グリットのSK4南隣に位置し雨製溝に接する。

(検出状況) 水田造成された盛土を重機で除去した後、地山面で検出した。

(形状・規模) 平面形は、略楕円形を呈し規模は約3.3m×約3.0m、深さは約2.0mである。断面形は、不整形で所々に小穴があり、断面を見る角度によるが、陥し穴状の形状を呈している。

(埋土) 上層は灰色土が主体をなしている。1層下は、黒褐色土・灰白色土・黄灰色土を主体とする。自然堆積と推定される。

(出土遺物) 縄文時代の土器片・石器等が主に出土し、1層から近世の陶磁器片が出土したが、埋土の下位からかわらけ片・須恵器片が数点出土したことから、中世に属すると思われる(第33・35・37・40・42・48・55・56・60図)。

(時代時期) 出土遺物は縄文土器・石器が主に出土したが、埋土下位から須恵器・かわらけが出土しており、中世に属すると思われる。

#### 雨製溝(第16・17図)

(位置) 調査区II C グリット南西に位置し、SK7と接する。

(検出状況) 水田造成された盛土を重機で除去した後、地山面で検出した。

(形状・規模) 北西方向に標高が下がり、SK7と接する。長さ約6.0m、最大深さ約0.6m、幅約1.0～約0.7m。

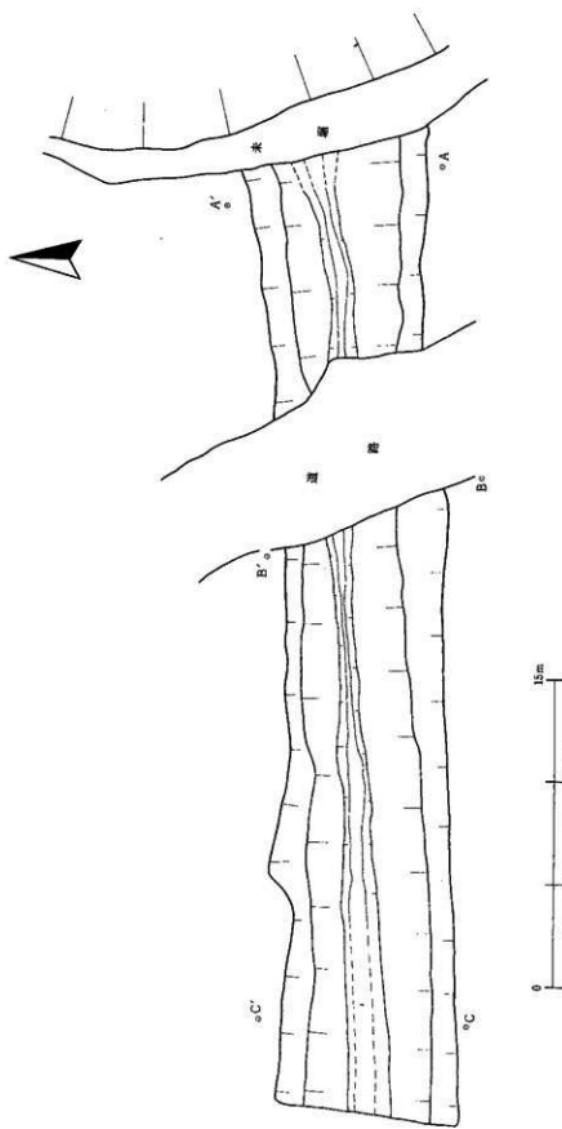
(埋土) 暗褐色土を主体とする。

(出土遺物) 縄文土器・石器が出土(第37・39～42・44・49・50図)。

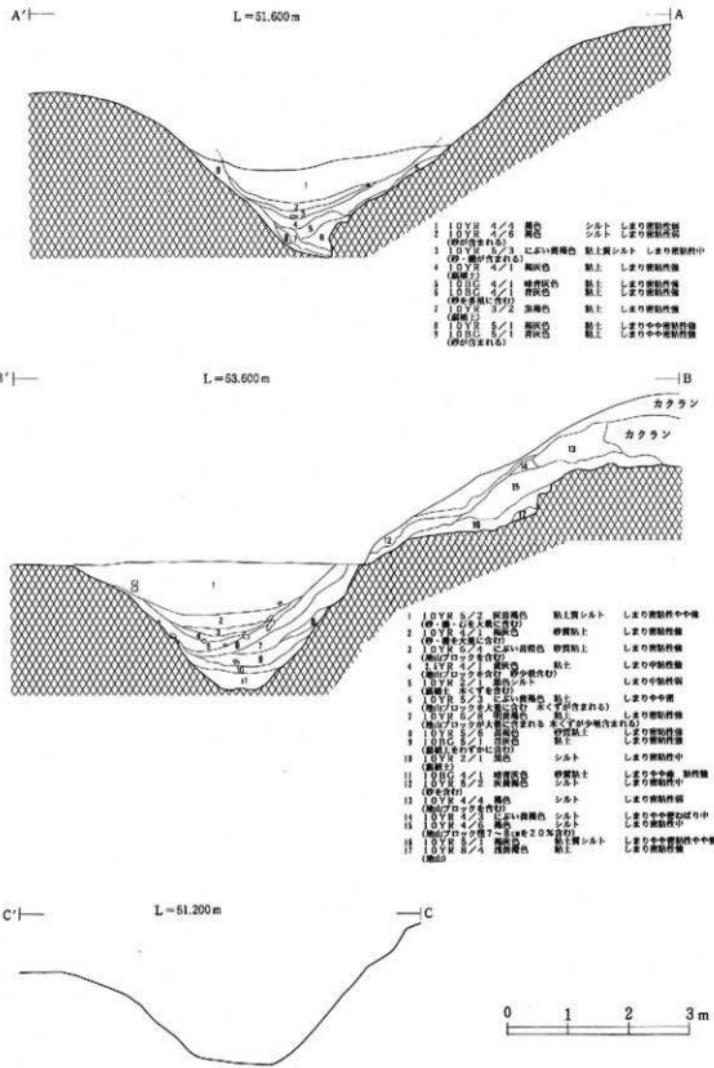
(時代時期) 出土遺物は縄文土器・石器が出土しているが、隣接しているSK7埋土下位・遺物包含層B下層からかわらけ・須恵器片が出土した事から、周辺の遺構との関係から中世に属すると思われる。

#### SK3・4・6・7 雨製溝・遺物包含層Bについて

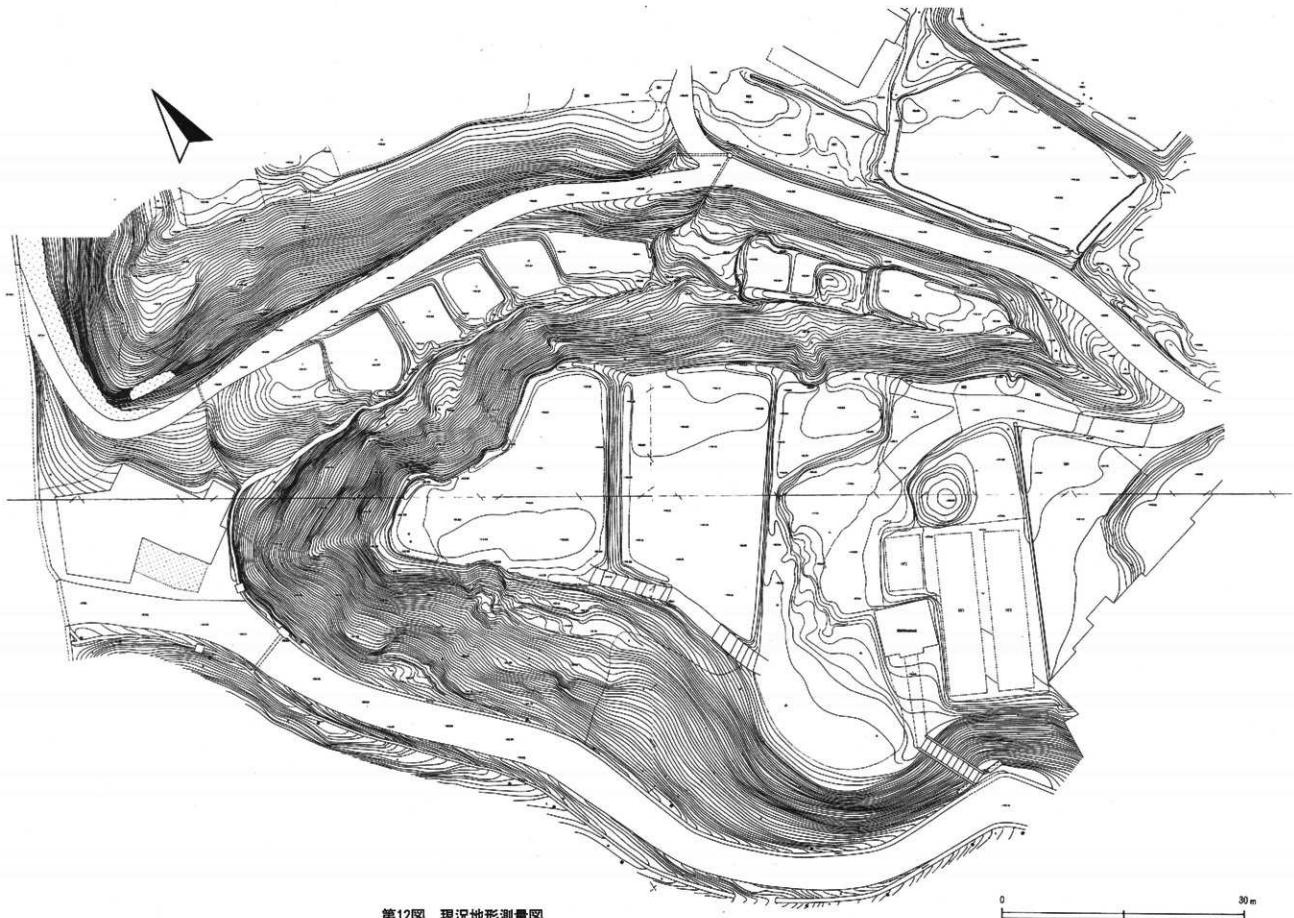
土坑群は、水田造成のため当時の地形はとどめていないものの斜面上に形成された土坑群と考える。SK7の底面は、柱穴状土坑・陥し穴状の穴が不規則に存在する。人為的な遺構と考えたいが、雨製溝と称した溝跡はSK7に流れ込み、深い窪地を形成し、雨等の湧水でSK7で溜まった水が遺物包含層Bに流れ込み、さらに曲輪を横切る堀状遺構に流れ込むと推測される。前述したかわらけがSK7と遺物包含層B下層から出土している事から中世に形成されたものと考えられる。



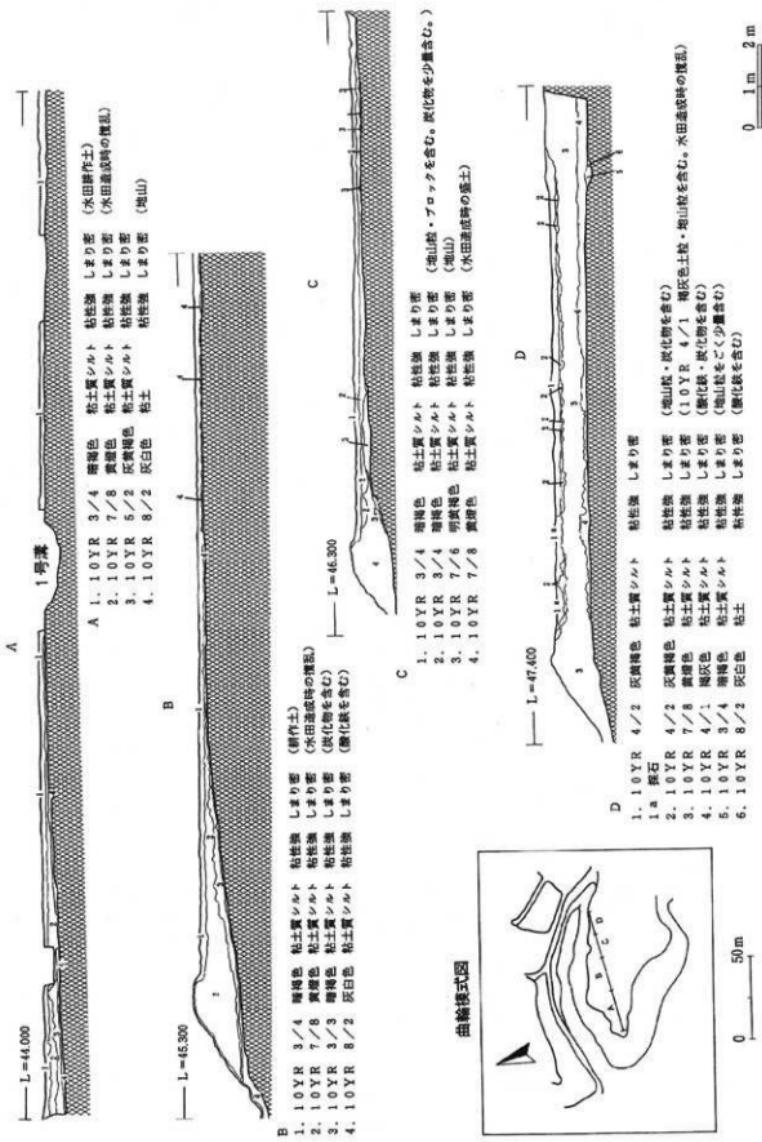
第10図 1号掘平面

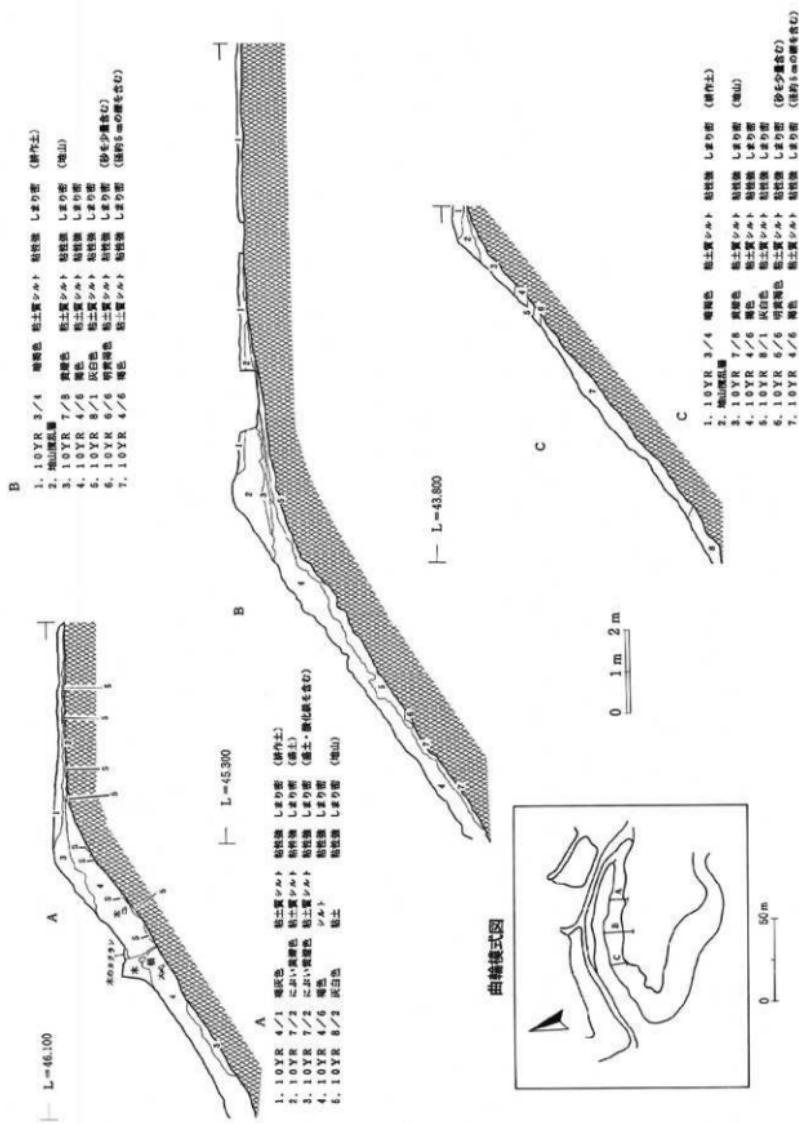


第11図 1号掘断面



第12図 現況地形測量図

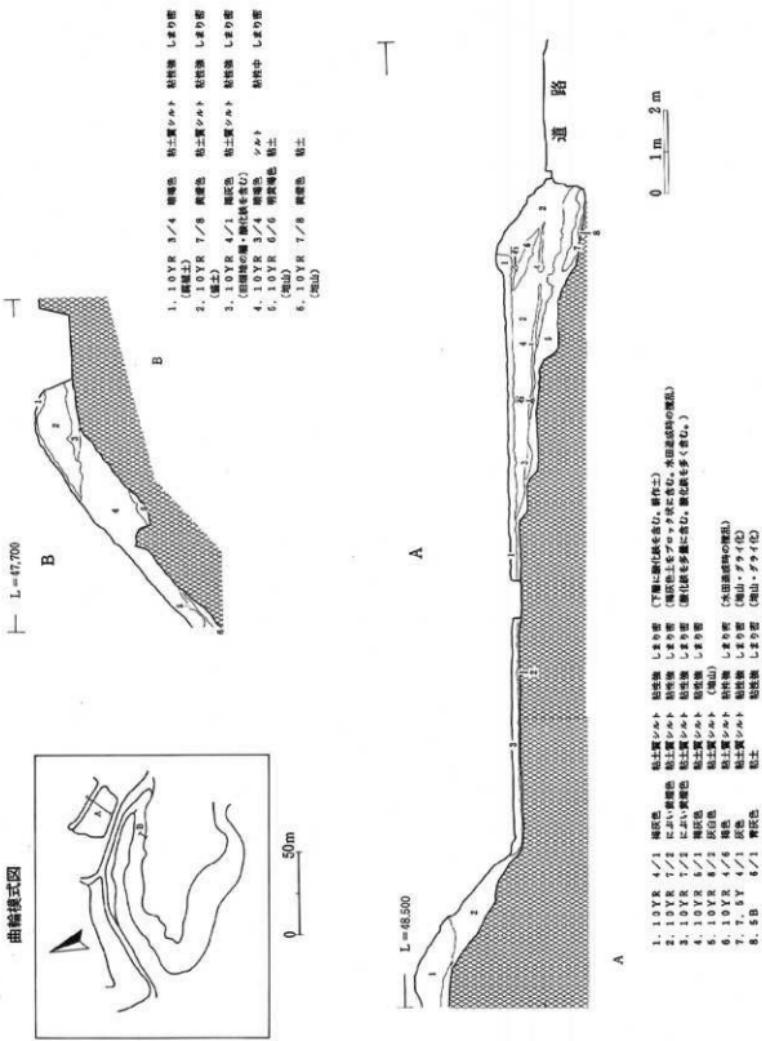
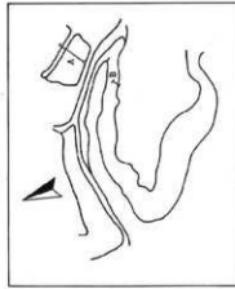




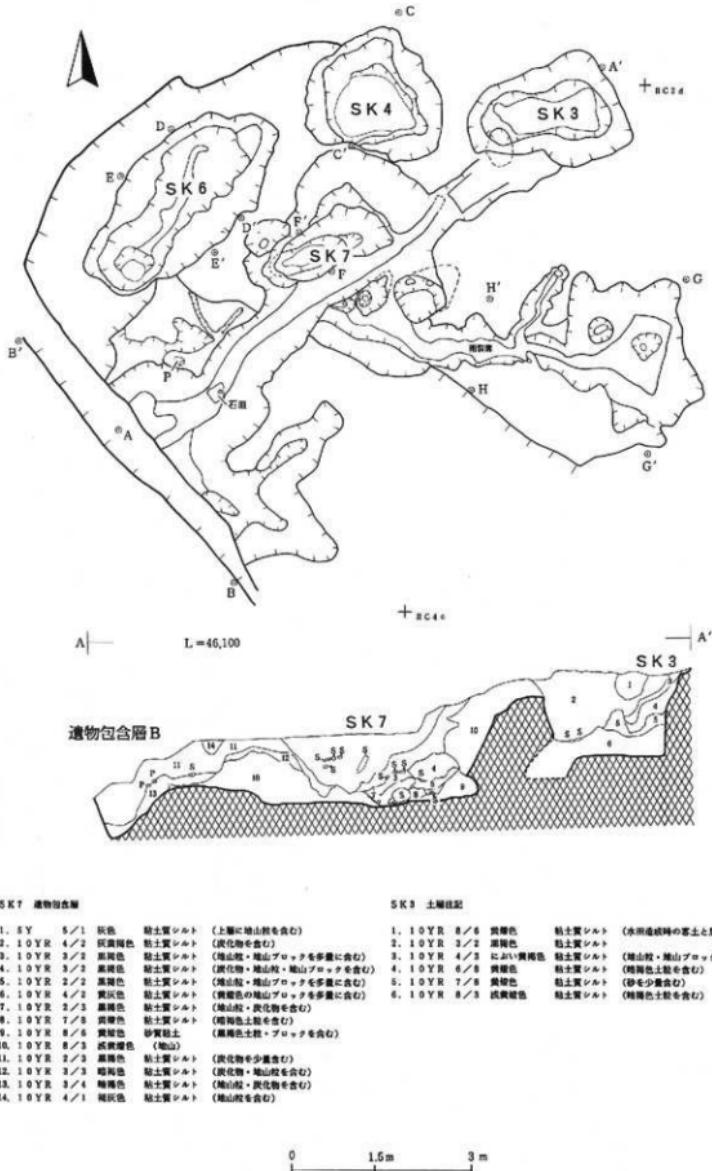
第14図 曲輪平面、断面図

曲輪模式図

L=47700

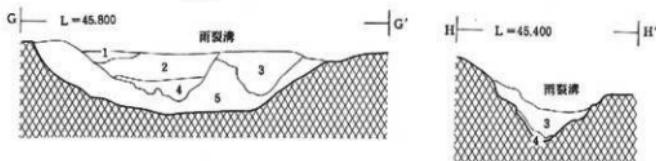
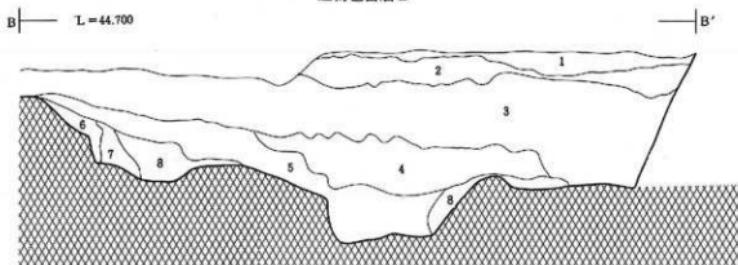


第15図 曲輪平面、断面図



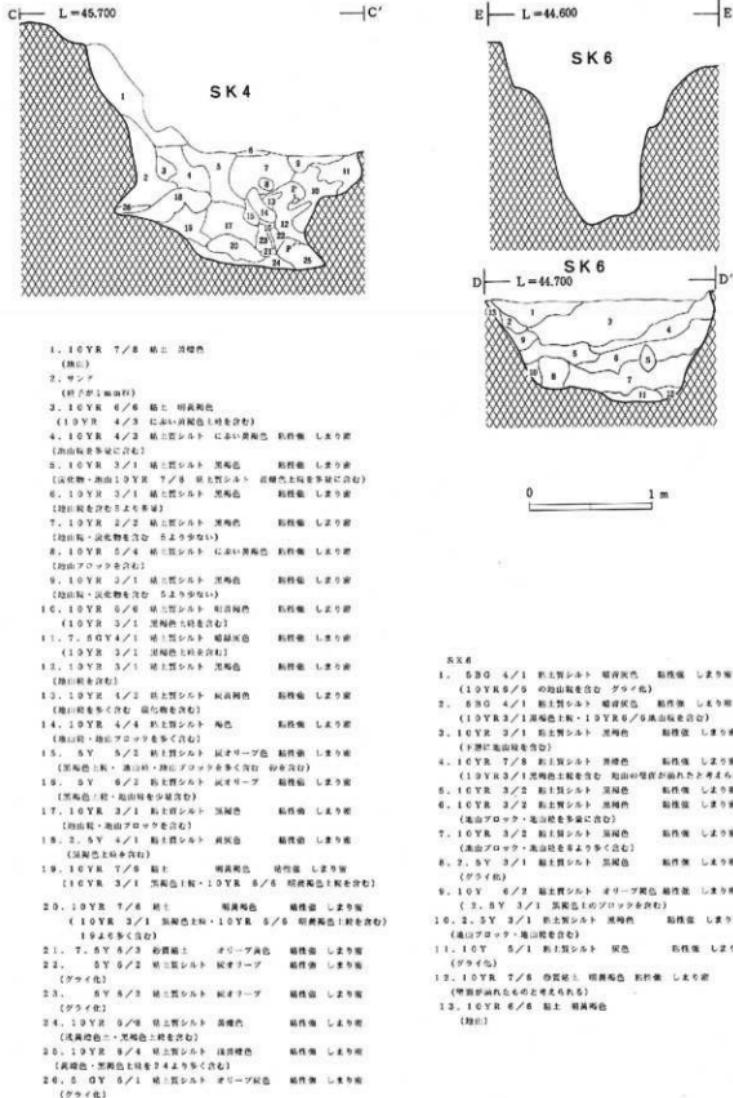
第16図 SK3、SK4、SK6、SK7、雨裂溝、遺物包含層B、平面・断面図

遺物包含層B



0 1 m

第17図 遺物包含層B、雨裂溝、SK 7断面



第18図 SK 4、SK 6断面図

しかし、時代は異なるが岩手県一戸町の御所野遺跡の粘土採掘坑は、これらの土坑群と形状が類似していることから、一戸町教育委員会生涯学習課 課長補佐高田和徳氏からご助言をいただくことにした。高田氏に図面・写真等を実見していただいたところ、「土坑群の形状・埋土の状態が類似している」と助言をいただいた。粘土採掘坑と考えた場合「白色粘土（良質な粘土）をもとめて、掘っていくため不規則に穴が掘られていく」と高田氏は述べられた。

高田氏の考えをもとに西館跡の土坑群を考える際、SK3・SK4のように土坑の底面の角だけ掘られた穴・SK7の底面の柱穴状土坑・陥れ穴状土坑などは、良質の粘土をもとめて掘られた可能性はあると言えるのではないだろうか。いわゆる「白色の粘土」とは土色帳の表現では、灰白色・浅黄褐色（本遺跡の地山）があげられるだろう。これらの土坑群は、著者の力量不足で、人為的掘られた土坑群か自然地形の窪地なのか断定できないが、自然地形の窪地・粘土採掘坑の二つの可能性を含む土坑群と考えられるだろう。

### 3. 近世・近代の遺構と出土遺物

#### SK2（第19図）

（位置） III-Eグリットの南西に位置する。

（検出状況） 地山面で検出した。

（形状・規模） 平面形は概ね円形を呈し、開口部径は約2.5m×2.4m、底面径は1.2×1.2mである。検出面からの深さは0.8mである。断面の形状は、井戸の形態をしているが、井戸枠などの出土遺物はなく、桶の底？が出土している。

（埋土） 木質繊維・炭化物をごく少量含んでいる。径30cm～50cmの石が数個入っていた。

（出土遺物） 桶の底？

（時代時期） 近世？

#### SK1（第19図）

（位置） III-Dグリット区の北東に位置する。

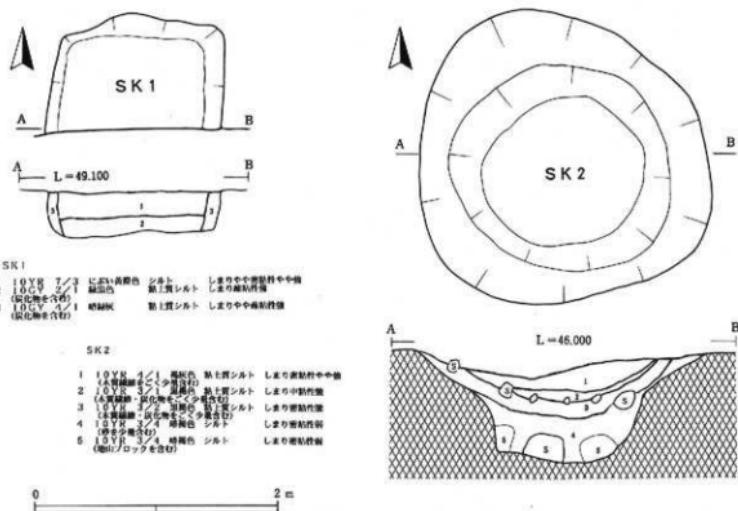
（検出状況） 旧水田面で検出した。

（形状・規模） 平面形は約1.2m×0.7mのほぼ長方形をなし、底面は約0.9m×0.6mを測り検出面からの深さは約0.3m。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

（埋土） 炭化物を含んでおり、グライ化が著しい。

（出土遺物） 幕末に製作された瀬戸・美濃産の磁器の端瓦瓶、18世紀頃に製作された肥前磁器皿の小片、近代に製作されたと思われる磁器碗・壺・など計6点が出土した（第56図）。

（時代時期） 検出面・出土した遺物から近代と考えられる。



第19図 SK 1・2図平面・断面図

#### 4. 時代時期不明遺構・出土遺物

##### 1号溝(第20図・21図)

(位置) 大グリットⅡD'区西側・大グリットⅢC'グリット北東に位置する。

(検出状況) 水田耕作土を除去した後、地山面で検出した。

(形状・規模) 長さ約17m、上端約2.9m～1.3m、下端約12m～0.6m、深さ約0.6m～0.3m

(埋土) 暗褐色土を主体とし、炭化物・焼土を多く含む。

(出土遺物) 繩文土器5片

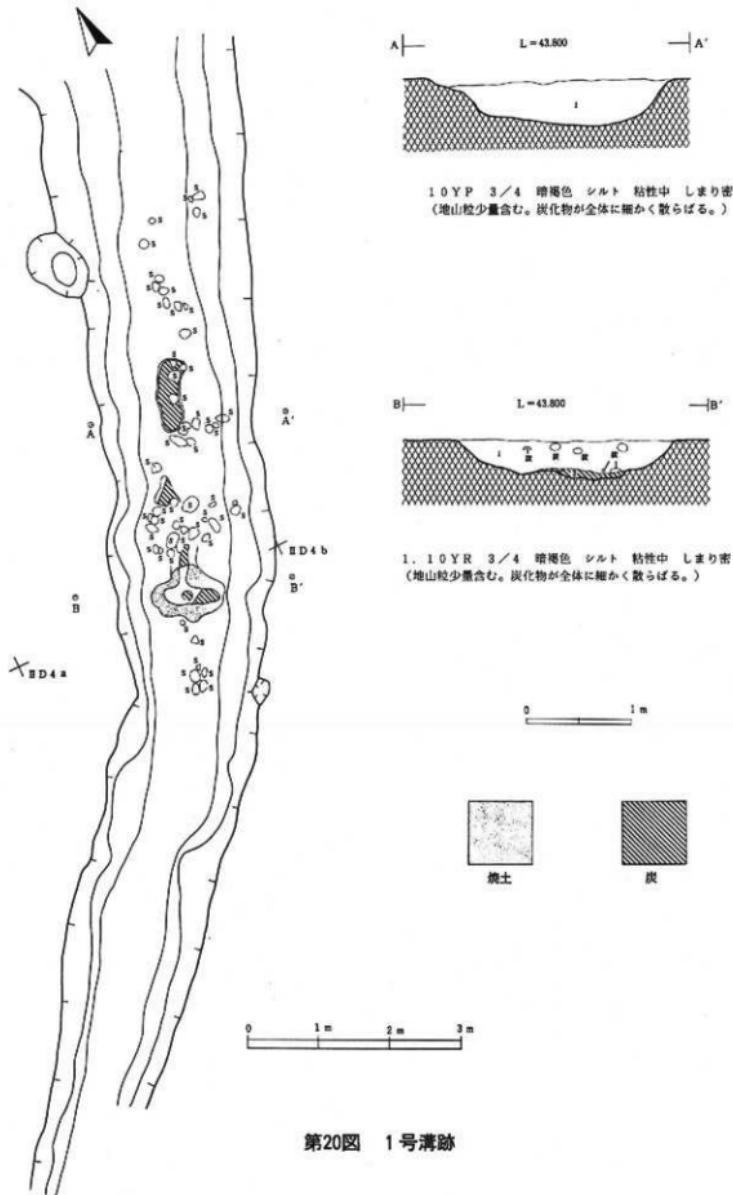
##### (調査過程と性格について)

曲輪を横切る1号掘状遺構に向かってレベルが下がっていく。焼土粒・炭化物が埋土下位に掘り下げるに従って、量も多くなっていった。その過程のなかで石組?と焼土を確認した。石は規則的に配置されていたわけではなく、石のレベルは、溝の底面より高く、石圍炉と判断できない。平面図で、石と焼土遺構を実測さらに石を取り除いて、さらに検出を行ったところ、3つの焼土遺構が確認された。この焼土遺構は、焼土A・焼土B・焼土Cと称する事とする。(第21図参照)

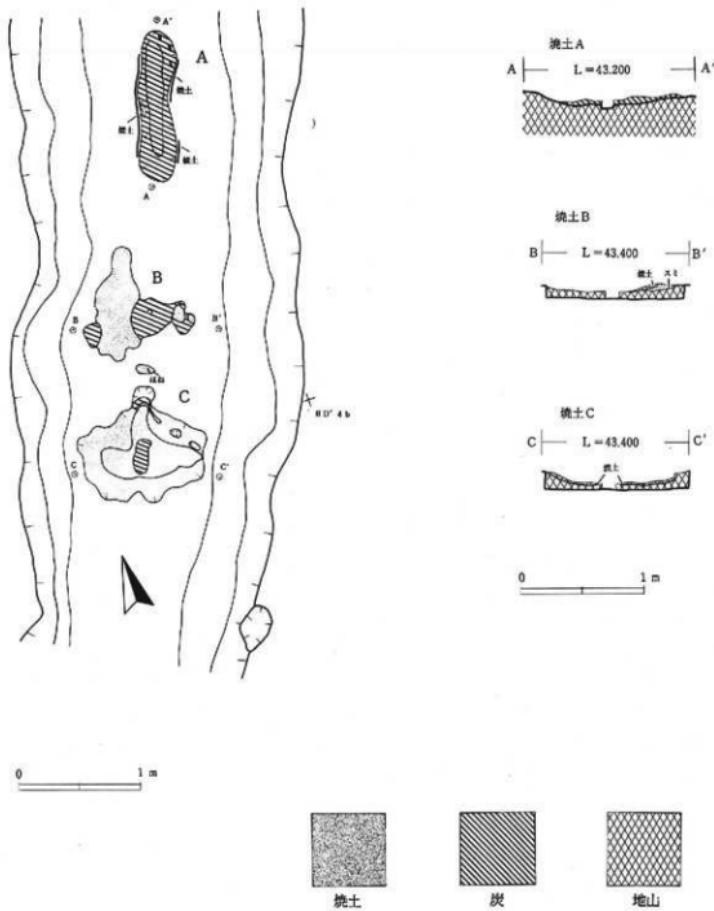
焼土Aの規模は、約1.25m×約0.3m、焼土Bの規模は、約1.0m×0.8m、焼土Cの規模は約1.0m×0.9mである。焼土Aは焼土を微量に含むが、ほとんどが炭化物である。焼土Bは、平面形では中央に炭化物があり、炭化物を焼土が帯状に囲む。焼土Cは、ほとんどが焼土であるが断面の焼土の厚さが薄い。

焼土Cからは、小動物の骨が出土している。この3つの焼土遺構は、溝の底に規則的に配列されている事から、何らかの目的を持つものと思われるが、性格については不明である。

溝は、水田造成時に削平を受けたため当初は、調査したレベルより深かったものと推測する。堀の可能性もあったと言えるだろう。



第20図 1号溝跡



第21図 1号溝跡焼土

## VI 遺物包含層について

### 1. 遺物包含層の呼び名について

本遺跡で確認された遺物包含層は、大グリットIB区の南東・小グリットIB4eとIB5eの範囲と大グリットIC区・小グリットII C3bの範囲の2ヶ所である。本稿では、前者で確認した遺構を「遺物包含層A」と呼び、後者を「遺物包含層B」と呼ぶ事とする。遺物観察表の出土地点等においても同様に「包含層A下層」・「包含層B上層」という表現を用いている。

また、「遺物包含層A」・「遺物包含層B」を確認した段階で、試掘溝を設定している。試掘溝から出土した遺物については、「包含層AT下層」・「包含層BT最下部」という表現を用いている。

### 2. 遺物包含層について

遺物包含層Aと遺物包含層Bの位置・検出状況等については、下記のとおりである。

遺物包含層A（第22図）出土遺物（土器第26～38図・石器39図～52図）

（位置） 小グリットIB4eとIB5eの区画に位置する。

（検出状況） 現況地形は、畠地であった。南北方向に幅約1m、長さ約10mの試掘を行ったところ、表土から約0.4m掘り下げたところで、黒褐色土層と縄文土器を確認、黒褐色土より上層は、耕作土と判断し重機・人力により耕作土を除去した後、検出を行った。検出の結果半円状の黒褐色土のプランを確認し、住居状の遺構と考え、黒褐色土のプランの中央部に試掘溝を設定した結果、底面が住居の床面のように、フラットではなく凹凸があり、住居状の遺構ではないと判断した。

（遺物の取り上げ） 層が単層であったことから、任意で上層・下層に分けて取りあげた。

（出土遺物） 縄文時代後期初頭～後期前葉の縄文土器片大コントナで16箱 石器類2.5箱出土した。土器は、摩滅が著しく、文様・原体が判別しにくいものがほとんどであった。石器は、石鎌・石匙・石錐・搔・削器・磨製石斧・剥片石器等が出土した。

遺物包含層B（第16・17図・23図）出土遺物（土器第26～38図・石器39図～52図・かわらけ55図）

（位置） 調査区小グリットII C3bの区画に位置する。

（検出状況） 現況地形は、水田であった。重機で水田耕作土・水田造成層（表土から約1.0m～0.3m）を除去したのち、黒色土の大きなプランを確認し、遺構が重複しているものと考え、南西・北東方向に試掘溝を設定した後、SK3・SK7の土坑を確認し、さらにSK7の南西隣に2層に分かれる遺物包含層Bを確認した。

（遺物の取り上げ） 土層は、2層にわかることから、層位ごとに取り上げた。

（出土遺物） 縄文時代後期初頭～前葉の縄文土器片大コントナで6箱 石器類1.5箱出土した。土器は、摩滅が著しく、文様・原体が判別しにくいものがほとんどであった。石鎌・石匙・石錐・削器・搔器・石皿・石斧・剥片石器等が出土した。縄文時代の遺物が大半を占めるが、かわらけが底部から出土している。

（時代時期） 縄文時代後期初頭～前葉の土器・石器類が出土したが、底部からかわらけが出土していることから、中世に形成された遺物包含層と考えられる。

（遺物包含層A・Bについて） 遺物包含層Aと遺物包含層Bの違いは、遺物包含層Bにおいて最下部にかわらけが出土したこと。土層が違う事が上げられる。共通点は、出土した縄文土器の時代が両遺物包含層と

ほぼ同じである。また、出土した土器・石器の遺物の状況を観察すると、土器は摩滅が著しく、石器は風化が見られる。自然現象（洪水・雨・地震等）の影響により、流され動かされた遺物の可能性が高いと考えている。

#### 遺物包含層Aについて

遺物包含層の性格については、どの過程を経て形成されたか不明であるが、包含層の土層は、明らかに自然堆積で人為的に埋められたものではないと考える。自然地形の窪地か、1号窪状遺構に流れ込む沢跡の可能性も考えられる。

土器・石器等の残存状態は風化・摩滅が著しく一次堆積で埋まったものとは考えづらい、何處か繰り返された自然現象（雨・洪水等）による流れ込みによって形成された可能性が高いと考えられる。出土した土器の時代は、縄文時代後期初頭・前葉と判断できるが、遺物包含層の形成時期については、出土した土器の時代より新しいと考えられる。

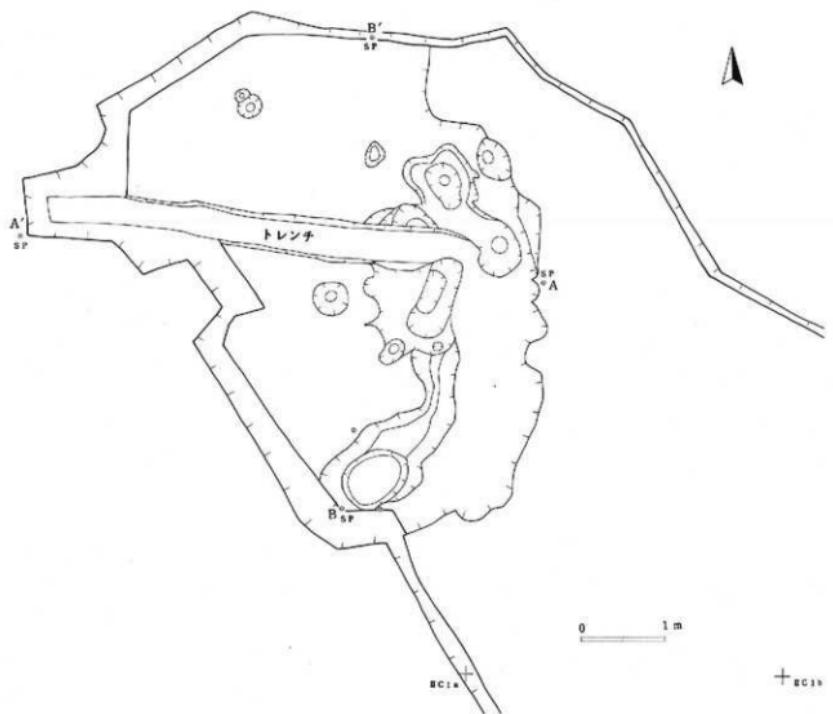
#### 遺物包含層Bについて

前記した様に埋土底部からかわらけが出土しており、中世に形成された遺物包含層と考えられる。

### 3. 遺物包含層A表・グラフについて（第24・25図）

遺物包含層Aから出土した土器（実測掲載）を表・グラフで出土した遺物の特徴をとらえようと、土器を層別・分類別にあらわした。出土した縄文土器については、1類を縄文時代後期初頭・2類を縄文時代後期前葉と分類した（P38・39参照）。上層では、1類が16点・2類が28点、下層では1類が17点・2類が11点という結果が得られた。しかし、前記したとおり、遺物の出土状況が良好でないこと、堆積状況が単層からなることから遺物の取り上げ方は、調査員の任意で行われていることから、出土遺物と層位の関係について特徴をとらえることは不可能であった。結果として、グラフと表についてでは、遺物包含層Aから出土した遺物の分類別個数と層位別個数を把握する程度のものと考えていただきたい。

遺物包含層Bでは、前述したように良好な遺物包含層と言えないため、表・グラフ化することは控えた。



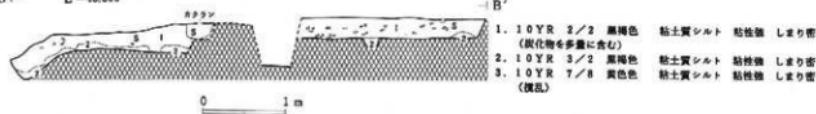
A) - L = 45.600



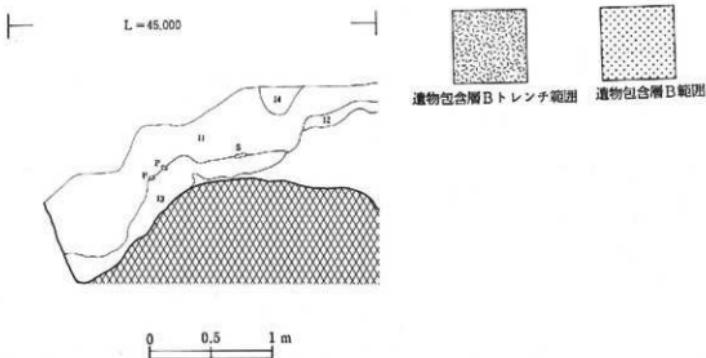
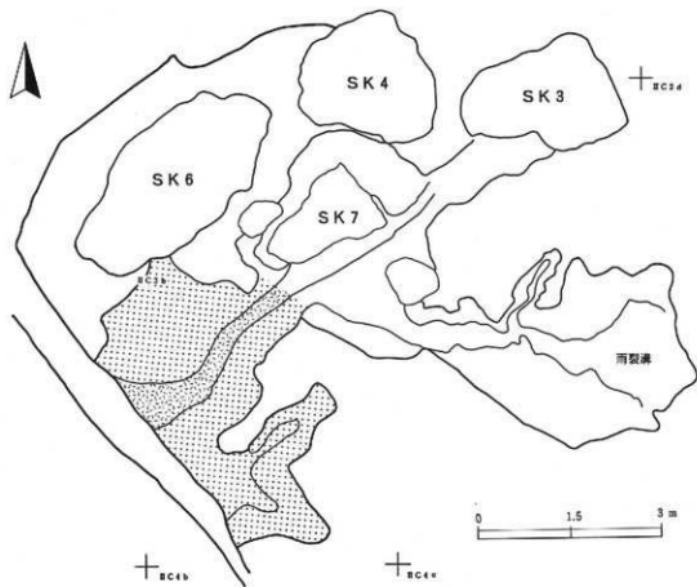
1. 10 YR 2/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり密  
(炭化物を多量に含む)
2. 10 YR 3/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり密  
(樹立層)
3. 10 YR 5/8 黒褐色 粘土
4. 10 YR 2/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり密  
(堆山粒を含む)
5. 10 YR 4/2 灰黒褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり密  
(堆山粒・炭化物を含む 旧耕作土)
6. 10 YR 5/4 ぶい青褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり密  
(盛土)
7. 5 BG 4/1 青褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり密  
(木による擾乱 グライ化)



B) - L = 45.300

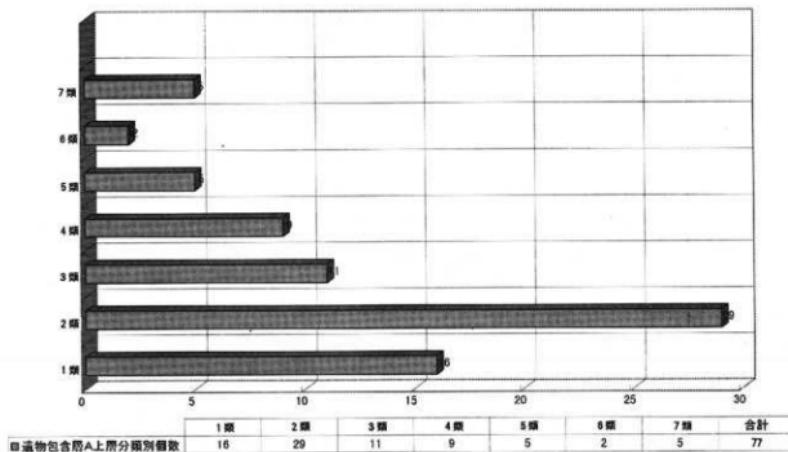


第22図 遺物包含層A平面、断面図



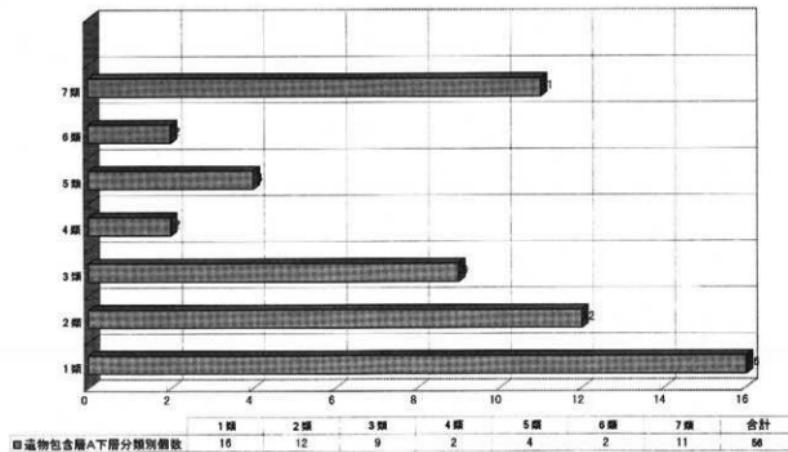
第23図 遺物包含層B範囲・断面

遺物包含層A上層分類別個数



第24図 遺物包含層A分類別グラフ・表(1)

遺物包含層A下層分類別個数



第25図 遺物包含層A分類別グラフ・表(2)

## VII 本遺跡の出土遺物

出土した遺物は遺構外がほとんどで（遺物包含層も含む）、遺構数が少なく・遺物包含層が形成された状況が良好でない事を考え、遺構内外・遺物包含層を一括して観察表と共に掲載した。縄文土器・石器・かわらけ・陶磁器・その他に分類した。

### 1. 縄文土器（第26～38図）

本遺跡で出土した縄文土器は、遺構内外・包含層を含め大コンテナで22（42cm×32cm×30cm）箱出土した。土器は、遺構・遺構外・遺物包含層を一括して観察表と共に掲載している。前記した2ヶ所の遺物包含層からの出土がほとんどで、残存状況は破片で摩滅が著しく、復元可能な土器は、まったく存在しなかった。土器の選別は、口縁部・文様が判別できるもの、原体が判別できるもの、底部に木葉痕等の痕跡があるもの、土製品と思われるものを本報告書に記載した。時代時期は、縄文時代後期初頭～前葉と考えられる。掲載点数は187点である。完形品がまったく存在しなかったため、出土した土器の全体の文様を把握するのは困難で、部位・文様等に着目し、また、盛岡大学助教授熊谷常正氏の労を賜り、土器片について助言をいただき、それと合わせて下記のように分類した。

#### 1類（第26～28図・1～47）

本類は、主文様が連鎖状隆起線文・ボタン状貼付文・隆起線・二重口縁等に着目し、それらを一括した。いわゆる門前式土器と呼ばれる又はそれと併行する土器群を本類とした。縄文時代後期初頭と考えられる。

1・2は中空把手である。3～20・22・24～28・30・31・34・35は連鎖状隆起線文を有する土器片である。19は隆起線に沈線を連鎖状文様としている。30・31・34・35は連鎖状隆起線文と沈線を伴うものである。

21・26・29・33・37・42の部位は口縁・頸部・胸部上半のものでボタン状貼付文・隆起線文を有するものである。42は隆沈線文によって文様が描かれている。38～41・43～47はいわゆる門前式と呼ばれる胸部と思われる。熊谷常正氏の「隆起線が三角形状の断面を呈しているものに門前式が多い」という助言からおそらく門前式土器の胸部と考え本類とした。32は口唇に浅い刺突を有し、連鎖状隆起線文・ボタン状貼付文はないうが隆起線の断面から本類とした。

#### 2類（第28～31図・48～97）

本類は、渦巻状の文様・沈線・刺突等に着目し、それらを一括した。いわゆる宮戸I b式と呼ばれる又はそれと併行する土器群を本類とした。縄文時代後期前葉と考えられる。

48・50は刺突列によって、連鎖状の文様を表現している。門前式土器のながれをもつものと思われる。49は連鎖状隆起線文を有するが渦巻文に着目して本類とした。53～55・57は山形口縁の突起部に刺突を有する土器類である。56・59～62にはボタン状貼付文を有し、沈線・隆起線で文様を構成するものである。66～68は口縁部の突起である。

69～82・97は地文に縄文を施し、無文帯は磨消縄文による。沈線文・刺突で文様を構成するものである。83～93は地文に撚糸文を施し、沈線文で文様を構成しているものである。94は無文帯に沈線で文様を構成している。95～97は刺突列・沈線で文様を構成している。

### 3類（第32図・98～120）

本類は、1・2類に属さない口縁部・頸部を一括した。出土した土器群と考え合わせて縄文時代後期初頭～前葉に属すると思われる。98・99は無文帯に二重の沈線文を施す。103・104は山形状の口縁に孔をもつ。105～115・117は頸部に隆起線・隆帯をもつ、うち二重口縁が退化したと考えられる隆帯（106～108・110・112・113・115）は縄文時代後期前葉と思われる。112は隆起線に刻をもつ。117は隆起線と沈線文を施す、器種は壺と思われる。119・120は地文が綱文で口縁部と平行に沈線が施される。

### 4類（第33・34図・121～140）

縄文・撚糸文・櫛齒状文を施している粗製の土器片を一括した。縄文時代後期初頭～前葉と考えられる。121～130は縄文である。123は結節がある。131・133・134は櫛齒状文である。132・135～140は撚糸文である。

### 5類（第35図・141～154）

注口土器・蓋・土器の突起・土製品と思われるもの。また、用途・部位は、不明であるものを一括した。出土した土器群と考えあわせて縄文時代後期初頭～前葉と考えられる。141は注口土器の口の部分である。142・146・151～154は土器の突起と思われる。142・146・152～154は沈線文を施している。縄文時代後期前葉に属すると思われる。151は摩滅が著しく不明である。143～145は蓋である。147は片口の口と思われる。148は不明である。149・150は土製品と思われるが詳細については不明である。

### 6類（第36図・155～159・161・165）

本遺跡から出土した底径が5cm以下のものを小型土器と定義する。本類は、小型土器を一括した。159は底面が丸みを呈している。161は底部に木葉痕が確認できる。

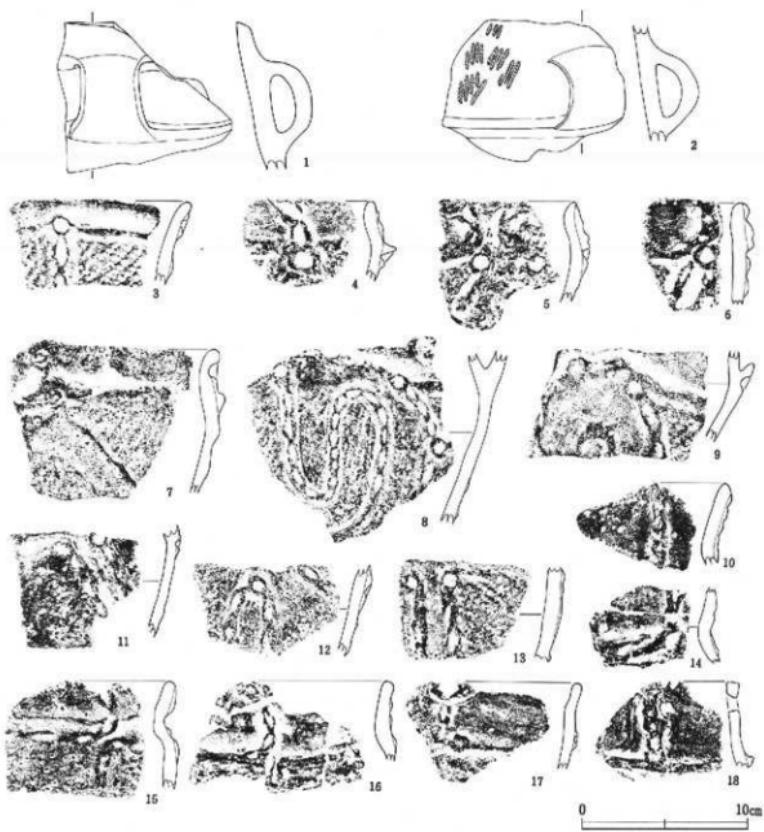
### 7類（第36～38図・160・162～164・166～187）

本類は、底部を一括した。底部は、約200点程出土した。その中から底部に木葉痕・網代痕が確認できるもの、底部が無文であるが残存状況が良好なもの、器形に特徴があるものを掲載した。

160は摩滅が著しいが、底面が丸みを呈している。167は片方が張り出す形状を呈している。166・170～178は木葉痕が確認できる。179～187は網代痕が確認できる。

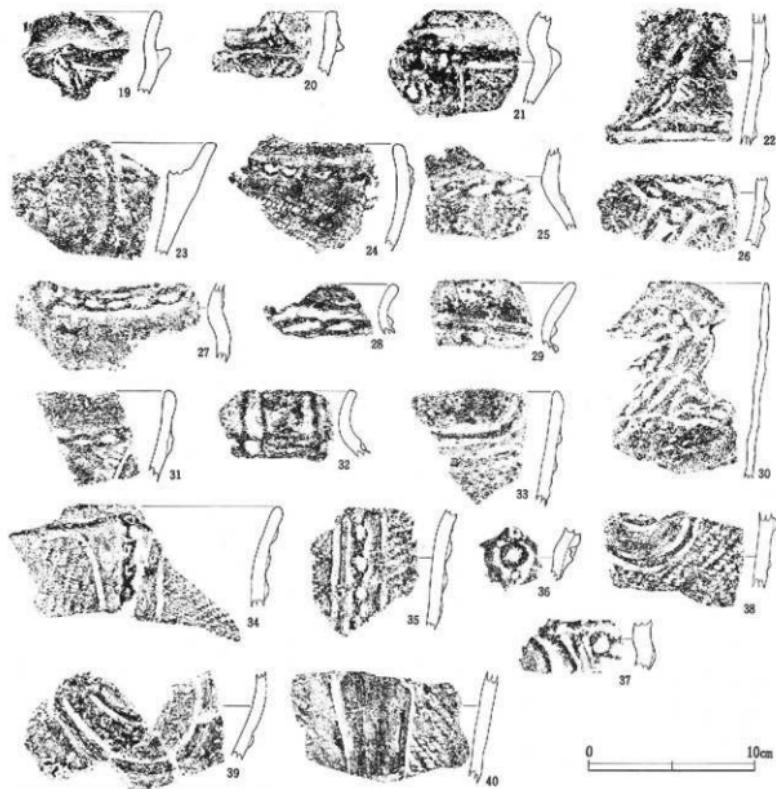
木葉痕について＝ホウノキ・カシワ・ササなどの樹木の葉の痕跡と思われる。

網代痕について＝本遺跡出土土器に使用されている編物の種類は、179・180・184・185・186は1本越え1本潜りと思われる。183・187は2本越え2潜り1本送りと思われる。



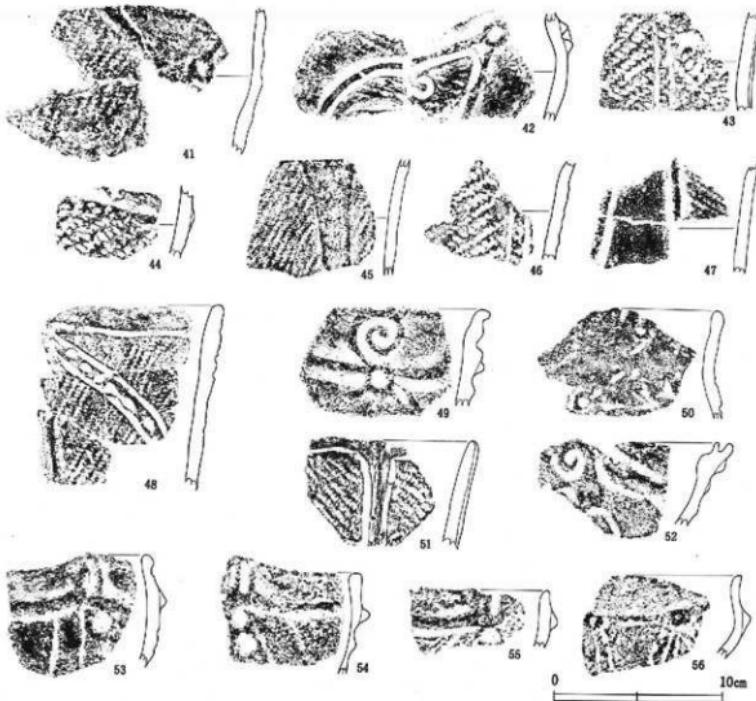
番号	出土地点	器種・部位	原体	文様の特徴	備考	分類
1	包含層A下層	盃 口縁部	中空把手	2と同一個体		1
2	包含層A下層	盃 口縁部	L R 中空把手	1と同一個体		1
3	包含層A下層	深鉢 口縁部	R L 連鎖状隆起線文・ボタン状貼付文・隆起線	胎土に砂・小石を含む		1
4	包含層B T上層	深鉢 口縁部	連鎖状隆起線文・ボタン状貼付文・隆起線	胎土に砂・小石を含む		1
5	包含層A下層	深鉢 口縁部	連鎖状隆起線文・ボタン状貼付文	胎土に砂・小石を含む		1
6	包含層B T最下部	深鉢 口縁部	連鎖状隆起線文・ボタン状貼付文	胎土に砂・小石を含む		1
7	包含層B T上層	深鉢 口縁部	連鎖状隆起線文・ボタン状貼付文	胎土に砂・小石を含む		1
8	包含層A下層	深鉢 脚部上半	連鎖状隆起線文・ボタン状貼付文	胎土に砂・小石を含む		1
9	包含層A上層	深鉢 口縁部	連鎖状隆起線文	胎土に砂・小石を含む		1
10	包含層A上層	深鉢 口縁部	山形口縁・連鎖状隆起線文	胎土に砂・小石を含む		1
11	包含層A下層	深鉢 脚部上半	連鎖状隆起線文・ボタン状貼付文	胎土に砂・小石を含む		1
12	包含層A上層	深鉢 口縁部	連鎖状隆起線文・ボタン状貼付文	胎土に砂・小石を含む		1
13	包含層A上層	深鉢 脚部上半	R L 連鎖状隆起線文・ボタン状貼付文	胎土に砂・小石を含む		1
14	包含層B T最下部	盃 ? 口縁部	連鎖状隆起線文	胎土に砂・小石を含む		1
15	包含層B T上層	深鉢 口縁部	連鎖状隆起線文	胎土に砂・小石を含む		1
16	包含層B T上層	盃 口縁部	連鎖状隆起線文・隆起線	胎土に砂・小石を含む		1
17	崩壊 埋下位	深鉢 口縁部	連鎖状隆起線文・ボタン状貼付文・孔	胎土に砂・小石を含む		1
18	包含層B T上層	深鉢 口縁部	連鎖状隆起線文・口縁部突端部に刻・孔	胎土に砂・石・雲母を含む		1

第26図 繩文土器(1)



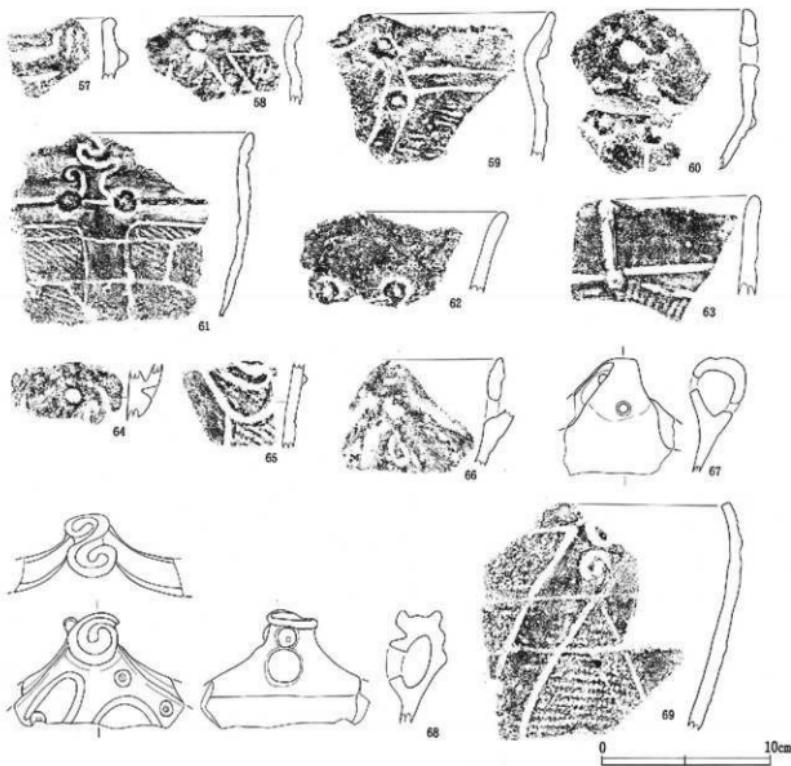
番号	出土地点	器種・部位	原体	文様の特徴	備考	個数
19	包含層A上層	深鉢 口縁部	R.L.	連鎖状隆起線文・二重口縁・隆起線		1
20	包含層A下層	深鉢 口縁部		ボタン状貼付文・隆起線	胎土に砂を含む	1
21	包含層B T上層	深鉢 口縁部	不明	ボタン状貼付文・隆起線	胎土に砂・小石を含む	1
22	包含層A下層	深鉢 脚部?		連鎖状隆起線文・隆起線	胎土に砂・小石を含む	1
23	包含層A上層	深鉢 口縁部		二重口縁・隆起線	胎土に砂・小石を含む	1
24	包含層A下層	深鉢 口縁部	L.R.	連鎖状隆起線文	胎土に砂・小石を含む	1
25	包含層B T上層	?	口縁部	連鎖状隆起線文	胎土に砂・小石を含む	1
26	?	?		ボタン状貼付文・連鎖状隆起線文		1
27	包含層B T下層	深鉢 脚部		連鎖状隆起線文	胎土に砂・小石を含む	1
28	包含層B T上層	?	口縁部	連鎖状隆起線文	胎土に砂・小石を含む	1
29	包含層A上層	深鉢 口縁部		ボタン状貼付文・隆起線文	胎土に砂・小石を含む	1
30	包含層A上層	深鉢 口縁部?		連鎖状隆起線文・沈線	胎土に砂・小石を含む	1
31	包含層A上層	深鉢 口縁部	L.R?	連鎖状隆起線文・沈線	胎土に砂・小石を含む	1
32	包含層A上層	深鉢 口縁部		口唇に刺突・隆起線・隆起線に刺突	胎土に砂・小石を含む	1
33	包含層B T上層	深鉢 口縁部		隆起線	胎土に砂・小石を含む	1
34	包含層A下層	深鉢 口縁部	R.L.	連鎖状隆起線文・ボタン状貼付文・沈線	胎土に砂・小石を含む	1
35	包含層A下層	深鉢 脚部		連鎖状隆起線文・沈線	胎土に砂・小石を含む	1
36	包含層A上層	深鉢 脚部?		ボタン状貼付文	胎土に砂・小石を含む	1
37	包含層A下層	深鉢 口縁部		ボタン状貼付文・隆起線	胎土に砂・小石を含む	1
38	包含層A上層	深鉢 脚部	R.L.	隆起線・磨消溝文	胎土に砂・小石を含む	1
39	包含層A下層	深鉢 脚部?		隆起線・沈線	胎土に砂・小石を含む	1
40	包含層A上層	深鉢 脚部	L.R?	隆起線・磨消溝文	胎土に砂・小石を含む	1

第27図 繩文土器(2)



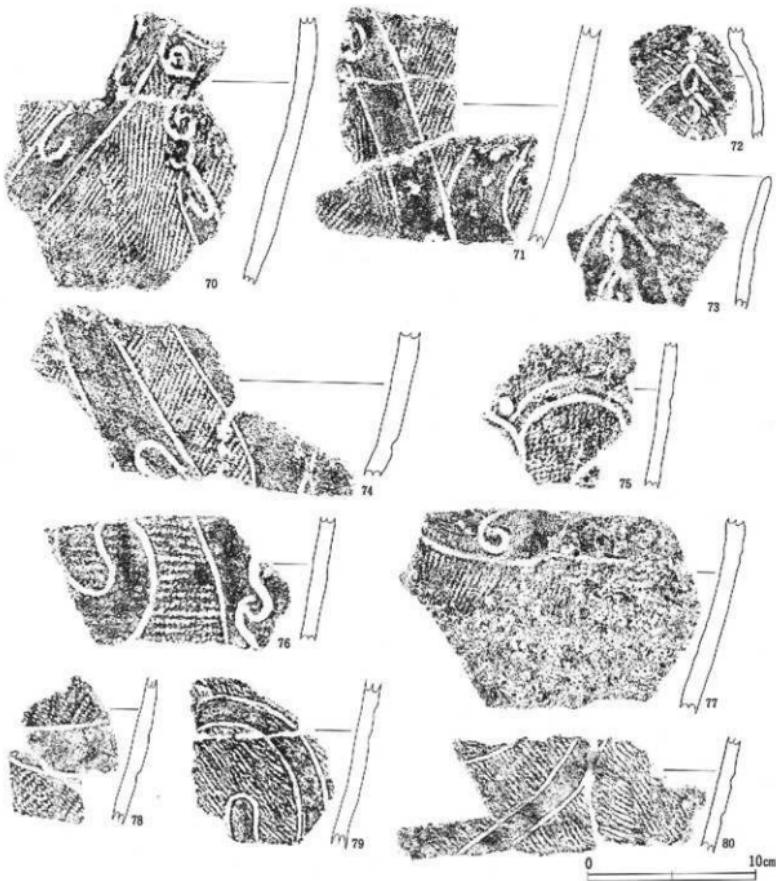
番号	出土地点	器種・部位	原体	文様の特徴	備考	分類
41	包含層A上層	深鉢 脚部	R.L.	ボタン状貼付文・隆起線	胎土に砂・小石を含む	1
42	包含層A下層	深鉢 脚部上半		隆起線・ボタン状貼付文・磨消繩文	胎土に砂・小石を含む	1
43	包含層A下層	深鉢 脚部	R.L.	隆起線に圓文を施文	胎土に砂・小石を含む	1
44	包含層A上層	深鉢 脚部	R.L.	隆起線に圓文を施文	胎土に砂・小石を含む	1
45	包含層A上層	深鉢 脚部	R.L.	隆起線	胎土に砂・小石を含む	1
46	包含層A下層	深鉢 脚部	R.L.	隆起線に圓文を施文	胎土に砂・小石を含む	1
47	包含層B T下層	深鉢 脚部	R.L.?	隆起線・磨消圓文	胎土に砂・小石を含む	1
48	包含層B T下層	深鉢 口縁部	R.L.	沈線・刺突	胎土に砂・小石を含む	2
49	包含層B T下層	深鉢 口縁部		溝巻文・連續状隆起線文・ボタン状貼付文	胎土に砂・小石を含む	2
50	包含層AT下層	深鉢 口縁部	L.R.	山形口縁・口縁に削・ボタン状貼付文・鈎突	胎土に砂・小石を含む	2
51	包含層A上層	深鉢 口縁部		沈線・隆起線	胎土に砂・小石を含む	2
52	不明	深鉢 口縁部		溝巻文・沈線・刺突	胎土に砂・小石を含む	2
53	包含層A下層	深鉢 口縁部		隆起線・刺突・沈線	胎土に砂・小石を含む	2
54	包含層A下層	深鉢 口縁部		隆起線・刺突	胎土に砂・小石を含む	2
55	包含層A下層	深鉢 口縁部		隆起線・刺突	胎土に砂・小石を含む	2
56	包含層A上層	深鉢 口縁部		ボタン状貼付文・沈線・刺突	胎土に砂・小石を含む	2

第28図 繩文土器(3)



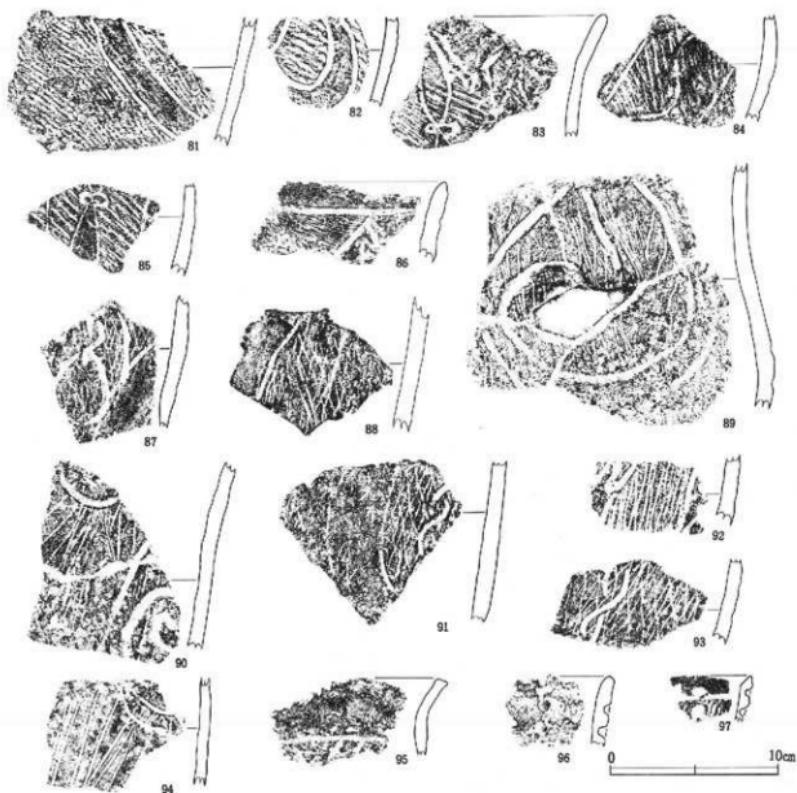
番号	出土地点	器種・部位	原体	文様の特徴	備考	分類
57	包合層A上層	深鉢 脊部	L R	山形口縁・刺突		2
58	包合層A上層	深鉢 口縁部		刺突・沈線	胎土に砂・小石を含む	2
59	包合層A下層	深鉢 口縁部	LR?	ボタン状貼付文・沈線	胎土に砂・小石を含む	2
60	包合層B T下層	深鉢 口縁部		ボタン状貼付文・沈線・孔	胎土に砂・小石を含む	2
61	雨裂堆埋土下位	深鉢 口縁部		ボタン状貼付文・沈線・隆起線	胎土に砂・小石を含む	2
62	包合層A上層	深鉢 口縁部		ボタン状貼付文		2
63	包合層A T上層	深鉢 口縁部	LR?	沈線 刺突文	胎土に砂・小石を含む	2
64	包合層A上層	深鉢 頭部		二重口縁・刺突・沈線	胎土に砂・小石を含む	2
65	包合層B T下層	深鉢 頭部	RL?	隆沈線・滑消繩文	胎土に砂・小石を含む	2
66	包合層A上層	深鉢 口縁部把手		刺突・沈線・孔	胎土に砂・小石を含む	2
67	包合層B T下層	深鉢 口縁部中央把手		孔	胎土に砂・小石を含む	2
68	包合層B T下層	深鉢 口縁部中央把手		沈線・刺突・突端部隆起線	胎土に砂・小石を含む	2
69	包合層A上層	深鉢 口縁部	L R	沈線	胎土に砂・小石を含む	2

第29図 繩文土器(4)



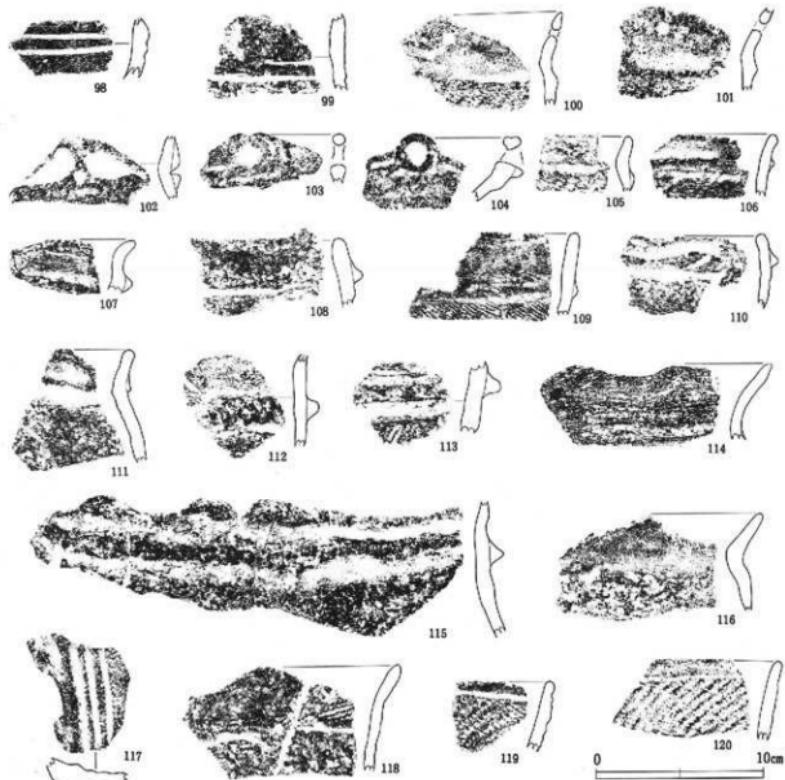
番号	出土地点	器種・部位	原体	文様の特徴	備考	類
70	包合層A上層	深鉢 脚部上半	L R	渦巻文・沈線・磨消繩文	胎土に砂・小石を含む	2
71	包合層A上層	深鉢 脚部?	R L	沈線・刺突・磨消繩文	胎土に砂・小石を含む	2
72	包合層A下層	深鉢 脚部上半		刺突・沈線	胎土に砂・小石を含む	2
73	包合層A上層	深鉢 口縁部		沈線・磨消繩文	胎土に砂・小石を含む	2
74	包合層A上層	深鉢 脚部	R L	沈線・磨消繩文	胎土に砂・小石を含む	2
75	包合層A下層	深鉢 脚部		沈線・刺突	胎土に砂・小石を含む	2
76	包合層A上層	深鉢 脚部	L R	沈線・磨消繩文	胎土に砂・小石を含む	2
77	包合層A上層	深鉢 脚部	RL?	沈線・磨消繩文	胎土に砂・小石を含む	2
78	包合層A上層	深鉢 脚部	L R?	沈線	胎土に砂・小石を含む	2
79	包合層A下層	深鉢 脚部	LR?	沈線	胎土に砂・小石を含む	2
80	包合層A上層	深鉢 脚部		沈線・磨消繩文	胎土に砂・小石を含む	2

第30図 繩文土器(5)



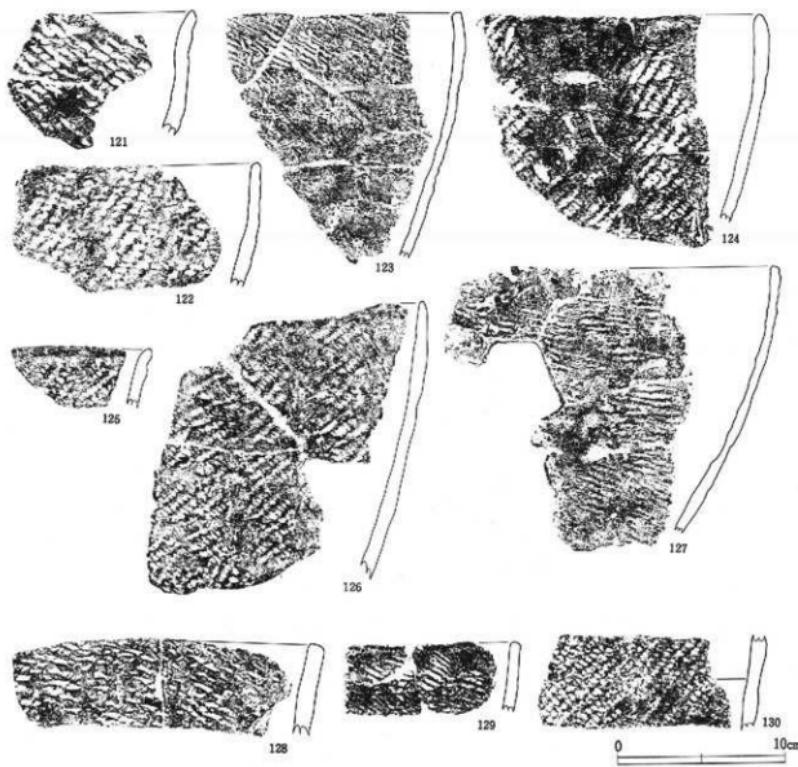
番号	出土地点	器種・部位	原体	文様の特徴	備考	分類
81	包含層A上層	深鉢 脚部	L.R?	沈線	胎土に砂・小石を含む	2
82	包含層A下層	深鉢 脚部	沈線	胎土に砂・小石を含む	2	
83	包含層A下層	口縁部	點文?	沈線	胎土に砂・小石を含む	2
84	包含層A下層	深鉢 脚部	點文?	S字状沈線	胎土に砂・小石を含む	2
85	包含層A上層	深鉢 脚部	點文?	沈線	胎土に砂・小石を含む	2
86	包含層A上層	深鉢 脚部	點文?	沈線	胎土に砂・小石を含む	2
87	包含層A上層	深鉢 口縁部	點文?	沈線	胎土に砂・小石を含む	2
88	包含層A下層	深鉢 脚部	點文?	沈線	胎土に砂・小石を含む	2
89	包含層A上層	口縁部	點文?	太い沈線	胎土に砂・小石を含む	2
90	包含層A上層	深鉢 脚部	點文?	太い沈線	胎土に砂・小石を含む	2
91	包含層A上層	深鉢 脚部	無文	沈線	胎土に砂・小石を含む	2
92	包含層A上層	深鉢 脚部	點文?	沈線	胎土に砂・小石を含む	2
93	包含層A上層	深鉢 脚部	無文	S字状沈線	胎土に砂・小石を含む	2
94	包含層B T下層	深鉢 脚部	沈線		胎土に砂・小石を含む	2
95	包含層A上層	口縁部	沈線・劍突列		胎土に砂・小石を含む	2
96	包含層A下層	口縁部	口縁に削み・劍突列		胎土に砂・小石を含む	2
97	包含層A上層	口縁部	L.R?	劍突列・沈線	胎土に砂・小石を含む	2

第31図 繩文土器(6)



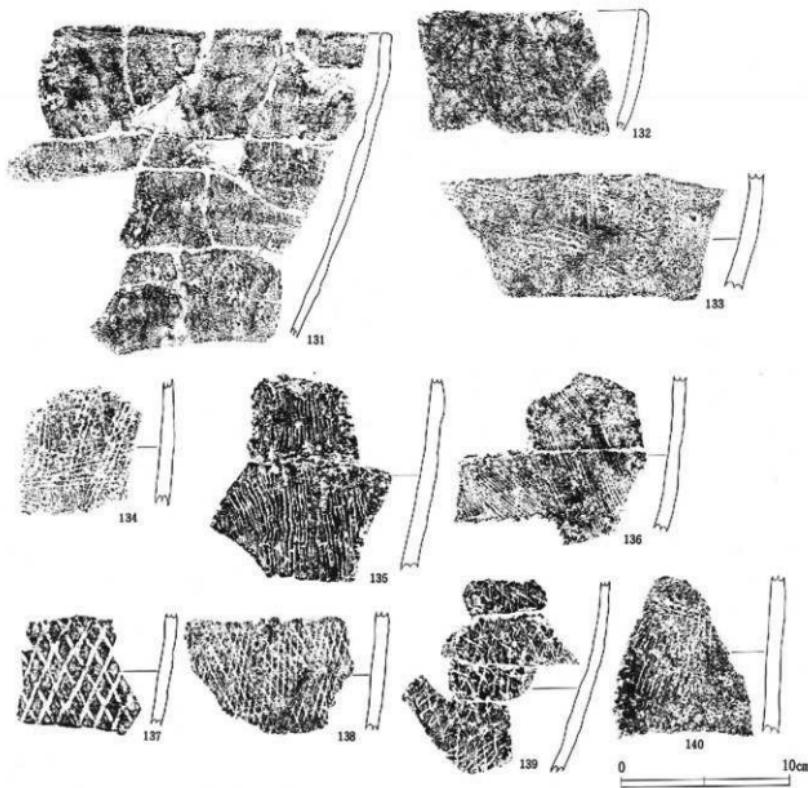
番号	出土地点	器種・部位	原体	文様の特徴		備考	分類
				1	2		
98	包含層A上層	深鉢	口縁部	沈線		胎土に砂・小石を含む	3
99	包含層A上層	深鉢	口縁部	沈線		胎土に砂・小石を含む	3
100	包含層A下層	深鉢	口縁部	R.L.	孔	胎土に砂・小石を含む	3
101	包含層A下層	深鉢	口縁部		孔	胎土に砂・小石を含む	3
102	包含層A下層	盃?	口縁部	隆起線・刺突		胎土に砂・小石を含む	3
103	包含層A下層	深鉢	口縁部		孔	胎土に砂・小石を含む	3
104	包含層A下層	深鉢	口縁部		孔・沈線	胎土に砂・小石を含む	3
105	包含層A下層	深鉢	口縁部	隆帶		胎土に砂・小石を含む	3
106	包含層A上層	深鉢	口縁部	隆帶		胎土に砂・小石を含む	3
107	包含層A下層	深鉢	口縁部	隆帶		胎土に砂・小石を含む	3
108	包含層A上層	深鉢	口縁部	隆線・波状口縁		胎土に砂・小石を含む	3
109	包含層A上層	深鉢	口縁部	R.L.	隆帶	胎土に砂・小石を含む	3
110	包含層A上層	深鉢	頸部	隆帶		胎土に砂・小石を含む	3
111	包含層A下層	深鉢	口縁部	隆帶		胎土に砂・小石を含む	3
112	包含層A上層	深鉢	頸部		隆帶に刻み	胎土に砂・小石を含む	3
113	包含層A上層	深鉢	頸部	R.L.	隆帶	胎土に砂・小石を含む	3
114	包含層B上層	深鉢	口縁部	隆帶		胎土に砂・小石を含む	3
115	包含層A上層	盃?	口縁部	隆帶		胎土に砂・小石を含む	3
116	包含層A上層	深鉢	口縁部	山形口縁		胎土に砂・小石を含む	3
117	包含層A下層	盃?	肩部?	沈線・隆帶		胎土に砂・小石を含む	3
118	包含層A上層	深鉢	口縁部	山形口縁		胎土に砂・小石を含む	3
119	包含層B上層	深鉢	口縁部	R.L.	沈線	胎土に砂・小石を含む	3
120	不明	深鉢	口縁部	R.L.	沈線	胎土に砂・小石を含む	3

第32図 繩文土器(7)



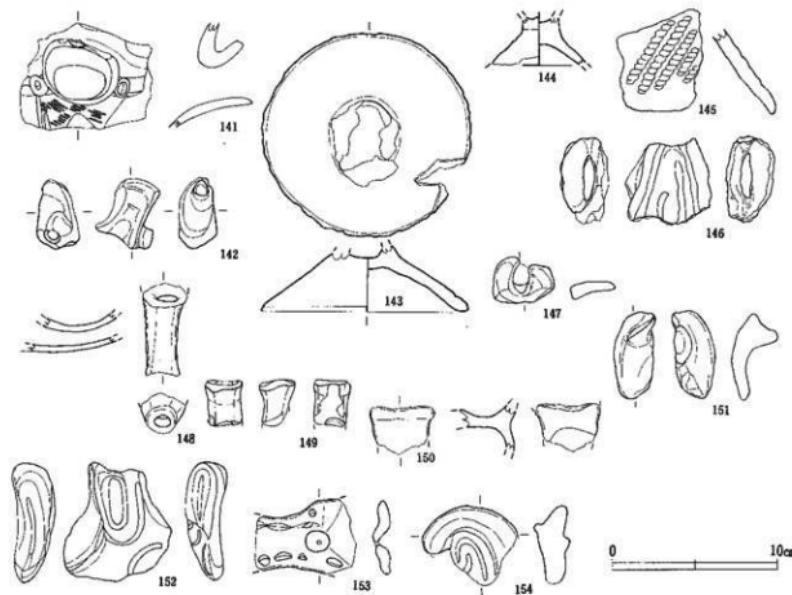
番号	出土地点	器種・部位	原体	文様の特徴	備考	分類
121	包含層A上層	深鉢 口縁部	RL	波状口縁		4
122	包含層A上層	深鉢 口縁部	RL			4
123	包含層B T下層	深鉢 口縁部	RL?			4
124	S K 7埋土下位	深鉢 口縁部	RL			4
125	包含層A T下層	深鉢 口縁部	RL			4
126	S K 7埋土下位	深鉢 口縁部	RL			4
127	包含層A上層	深鉢 口縁部				4
128	包含層B T最下部	深鉢 口縁部	LR?		胎土に砂・小石を含む	4
129	包含層B T下層	深鉢 口縁部				4
130	包含層A T下層	深鉢 脚部	RL		胎土に砂・小石を含む	4

第33図 繩文土器(8)



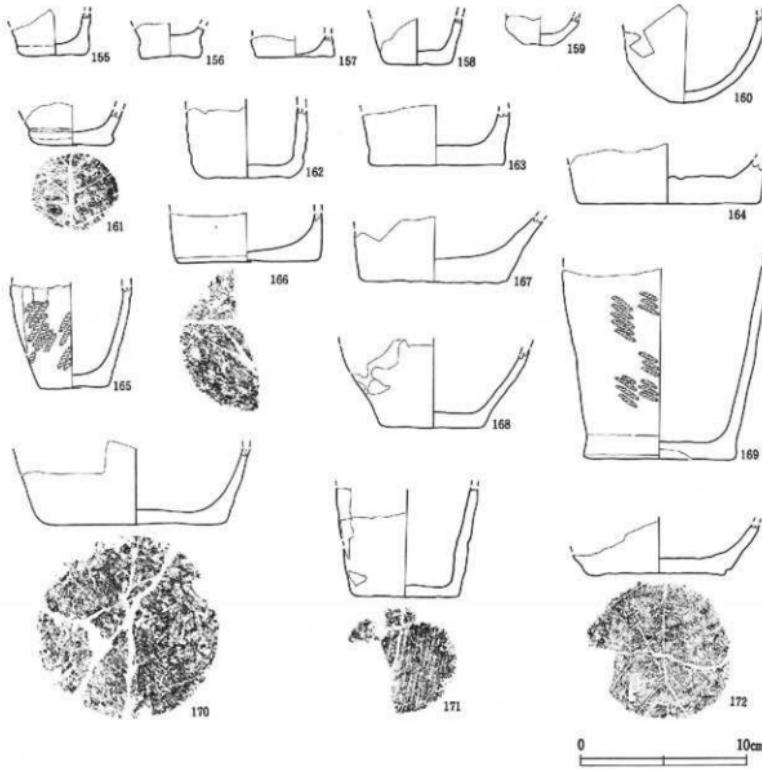
番号	出土地点	器種・部位	原体	文様の特徴	備考	備
131	包合層B上層	深鉢	口縁部～肩部	縦目状文	胎土に砂・小石を含む	4
132	包合層A上層	深鉢	口縁部	縦余文	縦目と口縁部欠損の可能性あり	4
133	包合層B下層	深鉢	肩部	縦目状文		4
134	包合層B下層	深鉢	肩部	縦目状文	胎土に砂・小石を含む	4
135	包合層A上層	深鉢	肩部	縦目状文		4
136	包合層A上層	深鉢	肩部	縦目状文	胎土に砂・小石を含む	4
137	包合層A上層	深鉢	肩部	縦目状文	胎土に砂・小石を含む	4
138	包合層A上層	深鉢	肩部	縦目状余文	胎土に砂・小石を含む	4
139	包合層A上層	深鉢	肩部	縦目状余文	胎土に砂・小石を含む	4
140	包合層B下層	深鉢	肩部	縦目状余文	胎土に砂・小石を含む	4

第34図 繩文土器(9)



番号	出土地点	器種・部位	原体	文様の特徴	備考	値
141	包含層A下層	注口	L R			5
142	包含層A上層	土器の把手		溝巻文		5
143	包含層A下層	蓋				5
144	S K 7 下位	蓋			内面指などで	5
145	包含層A下層	蓋				5
146	包含層B上層	土器の把手	R L			5
147	包含層A上層	片口?		沈線		5
148	包含層A上層	土器の把手?				5
149	包含層B上層	土製品				5
150	包含層B下層	土製品?				5
151	不明	土器の把手?				5
152	包含層A下層	土器の把手?		沈線		5
153	包含層A上層	土器の把手?		刺突		5
154	包含層A上層	土器の把手?		沈線		5

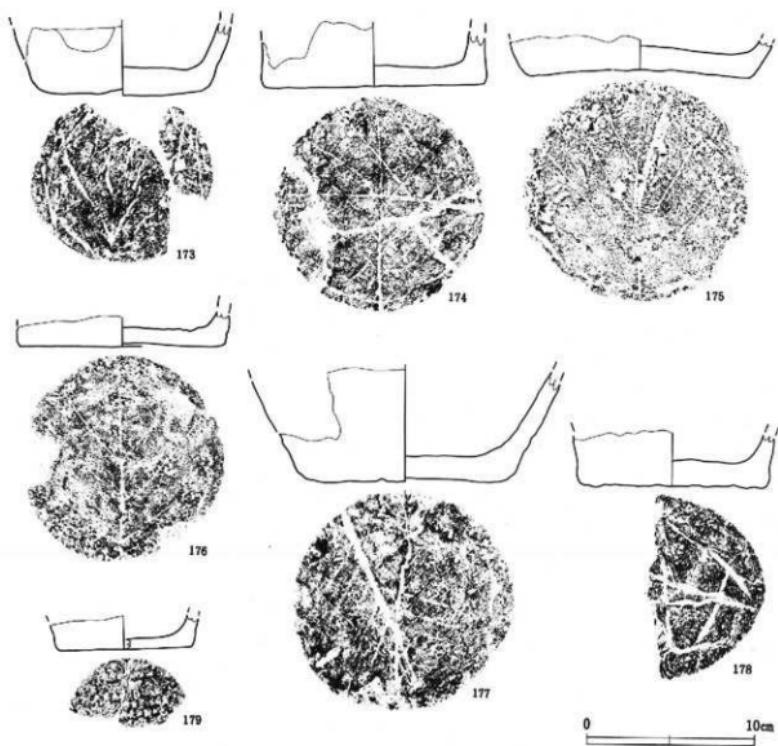
第35図 繩文土器10



番号	出土地点	器種・部位	原体	文様の特徴	備考	幅	底径	高さ
155	包含層B下層	小型土器底部			胎土に砂・小石を含む	6	4.3	(2.6)
156	包含層A下層	小型土器 底部				6	3.6	(1.7)
157	包含層A上層	小型土器 底部			すす付着	6	9.6	(1.3)
158	包含層A上層	小型土器 底部				6	4.0	(2.8)
159	包含層B T下層	小型土器			丸底を呈している	6	1.8	(1.6)
160	南製清理土	小型土器				6	4.0	(5.0)
161	包含層A下層	小型土器 底部			木葉模	6	5.0	(2.2)
162	包含層B最下部	深鉢 底部				7	6.6	(4.3)
163	包含層A下層	深鉢 底部				7	8.2	(3.3)
164	包含層A下層	深鉢 底部			網代痕?	7	11.0	(3.6)
165	包含層B最下部	小型土器 刃部～底部	R.L.			7	4.1	(6.3)
166	南製清理土	底部			木葉模	7	(8.6)	(3.0)
167	包含層A上層	深鉢 底部				7	8.6	(4.1)
168	包含層A T下層	深鉢 底部				7	6.4	(4.8)
169	包含層B最下部	深鉢 刃部～底部	L.R.			7	9.0	11.9
170	包含層B T最下部	深鉢 底部			木葉模	7	11.0	(4.5)
171	包含層A下層	小型の鉢 底部				7	6.6	(6.8)
172	包含層A下層	深鉢 底部			木葉模	7	8.8	(3.1)

第36図 縄文土器(1)

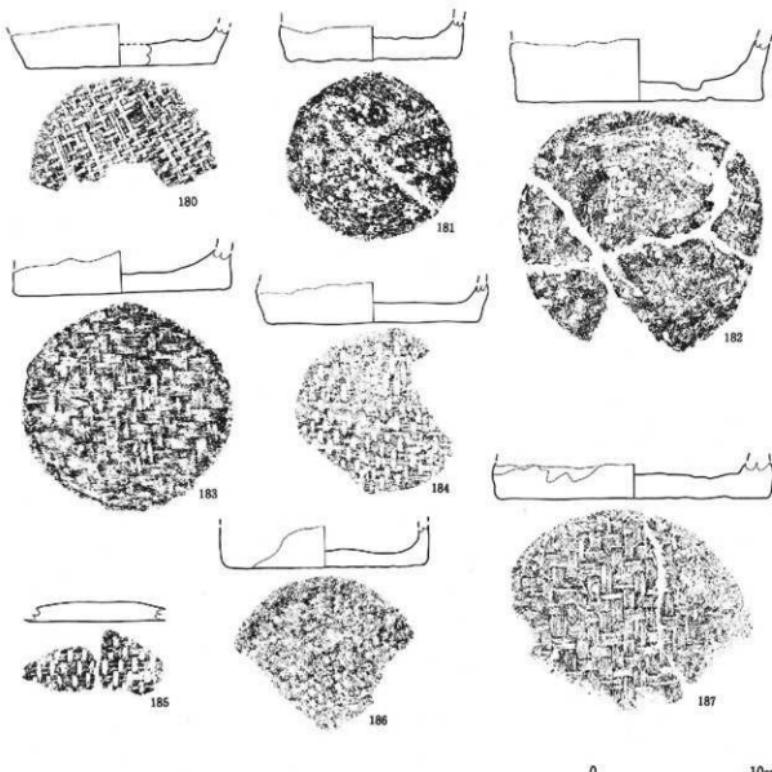
底径、高さの単位cm



番号	出土地点	器種・部位	原体	底面の痕跡	備考	分類	底径	高さ
173	包含層A T下層	深鉢 底部		木葉痕		7	10.5	(4.2)
174	雨製洗埋土	深鉢 底部		木葉痕		7	13.2	(3.6)
175	包含層A下層	深鉢 底部		木葉痕		7	13.2	(2.3)
176	S.K? 埋土下位	深鉢 底部		木葉痕		7	12.2	(1.8)
177	包含層A上層	深鉢 底部		木葉痕		7	13.0	(6.8)
178	包含層A T下層	深鉢 底部		木葉痕?		7	11.8	(3.3)
179	包含層A下層	深鉢 底部		側代痕		7	8.0	(2.0)

底径、高さの単位cm

第37図 繩文土器(12)



番号	出土地点	器種・部位	原体	底面の痕跡	備考	幅	底径	高さ
180	包含層A下層	深鉢 底部		網代底		7	11.4	(12.5)
181	包含層A上層	深鉢 底部		網代底		7	10.2	(2.3)
182	包含層A上層	深鉢 底部		網代底		7	14.8	(3.8)
183	包含層A上層	深鉢 底部		網代底		7	12.8	(2.5)
184	包含層B上層	深鉢 底部		網代底		7	12.6	(2.6)
185	S.K.4中位～下位	底部		網代底		7	(8.5)	1.2
186	包含層A下層	深鉢 底部		網代底		7	(12.0)	(2.5)
187	包含層B上層	深鉢 底部		網代底		7	16.6	(2.2)

底径、高さの単位cm

第38図 縄文土器(13)

## 2. 石器（第39～52図）

遺構内外・包含層から出土した石器類大コンテナ約4箱（42cm×32cm×30cm）である。そのうち、使用痕が認められない剥片石器・破損・風化が著しい石器・礫石器を除く183点を実測・掲載した。

分類にあたっては定型石器として石鎌・石錐・石匙・尖頭器・搔・削器に分け、これら以外の剥片石器は不定形石器として扱った。礫石器はその形状と使用痕によって磨製石斧・磨石・凹石・敲石・石皿に分類した。

### 石鎌（第39図～41図）

遺構内外・包含層から84点出土しており、全石器中（実測・掲載した石器）の割合は53.7%でもっとも多い。本遺跡から、出土した石鎌はほとんどがいわゆる無茎であり、有茎は1点だけである。

それらを以下のように分類した。

#### a類（第39図・1～36）

いわゆる凹基をなしているもので、抉入が深いものを本類とした。内鎌身が二等辺三角形状のもの（1～13・17・18・21・22）と両側縁部が内曲線を描いて胸中央付近で一端しまり、基部に向かって再び広がる抉り込みの深いもの（14～16・19・25～36）と大きく二つに分けられる。

#### b類（第40図・37～58）

いわゆる凹基をなしているもので、抉入がa類より比較的浅いものを本類とした。鎌身が正三角形状（37～41・43・45・46）と二等辺三角形状（42・44・47・49・51）の大きく二つに分けられる。50については、石鎌としては、剥離調整が未熟で未製品と考えられるが本類とした。51は本遺跡から出土した石鎌の中では大型である。

#### c類（第40図・59～67）

いわゆる平基をなしているものを本類とした。

鎌身が正三角形状（59～62・65）・鎌身が二等辺三角形状のものがある（63）。66は石錐の可能性もある。また、60・67は剥離調整が未熟で未製品のものと考えられるが本類とした。

#### d類（第40図・68）

いわゆる有茎をなしているものを本類とした。

#### e類（第40・41図・69～88）

a類～d類に属しないもの

形状は、石鎌に類するが、a類～d類と比較して形状が直である。又剥離調整も前述した石鎌と比較して粗い剥離調整を行っており、石鎌の未製品か、又石鎌と別な用途があった可能性もあるが、石鎌として本類とした。

#### f類（第41図・89～94）

基部が破損しているもの

89は基部が破損しているがa類に属すると思われる。

### 石錐（第41・42図・95～102）

遺構内外・包含層から8点出土している。ツマミが比較的大きいもの（95・98・99・100）、ツマミが比較的小さいもの（96・97・101・102）、刃部が短いもの（95～97・100）、刃部が長いものがある（101・102）。

### 石匙（第42図・103～107）

遺構内外・包含層から5点出土している。ツマミの位置が縱のもの（103～106）、ツマミの位置が横のも

のがある（107）。

尖頭器（第42図・108・109）

遺構外・包含層から2点出土している。全面に加工を施している。

石窓？（第42図・110）

S K4から出土している。一部破損しているが断面の形状から石窓とした。

搔・削器（第42・43図・111～124）

遺構内外・包含層から14点出土している。ほぼ全面に剥離加工が施されているもの（112）。剥片の1縁辺から3縁辺に加工が施されているものがある（111・113～118）。111は尖頭器の可能性がある。

不定形石器（第43・44・45図・125～153）

遺構内外・包含層から29点出土している。搔・削器類に属すると思われるが、前述したグループより剥離調整が粗いものを本類とした。全縁辺に加工しているもの（125・126・128～133・136・138・142・153）。1縁辺又は2縁辺に加工しているものがある（127・134・135・137・139～141・143～146・148～150）。152は垂れ飾りと考えたが、風化による穴の可能性が高い。

磨製石斧（第46図・154～159）

遺構内・包含層から出土している。完形品はない。154・155・156・157には研磨した面が見られる。160・161は一部研磨した面が見られるが、主な面は自然面である。風化によるものと考えられる。

凹石・瘤石・敲石（第46・47・48・49・50・51図・160～182）

遺構内外・包含層から出土している。自然礫を利用し、「すった」「すられた」「たたかれた」「たたいた」「つぶす」結果として生じた痕跡（擦痕・敲打痕等）を器面に残していると考えられるものを本石器群とした。

「たたいた」「たたかれた」結果として凹んだ痕跡があるもの（160～165・167～172）。凹がある中で、両面にあるもの（160・161・163・167～170）凹が複数あるもの（160・162・167・168・172）。

「たたいた」「たたかれた」結果として器面に凹んだ痕跡はないが、敲打痕があるもの（166・175・179・181・182）。

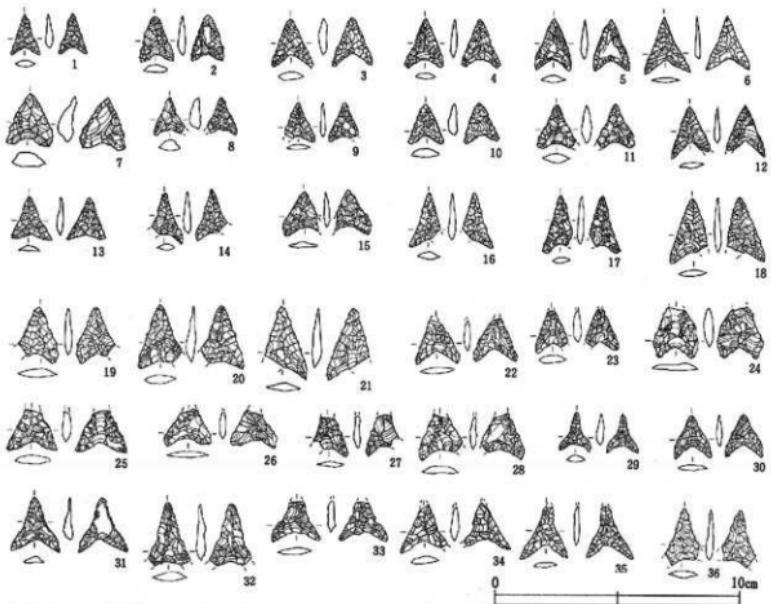
「すった」「すられた」痕跡があると思われるもの166・168・173～178・180・182であるが、174は前述した痕跡が見られなかったが、形状が丸みを帯びており、石質が安山岩の溶岩であることから、自然石と考えられず本石器群とした。

石皿（第52図・183）

包含層から1点出土している。四つの脚部がついていたものと思われる。この石皿の中央部の穴は、磨石等により「すられ」破損したものと思われる。側縁に縁を持つもので北上市の津山遺跡で出土した石皿と類すると思われる。

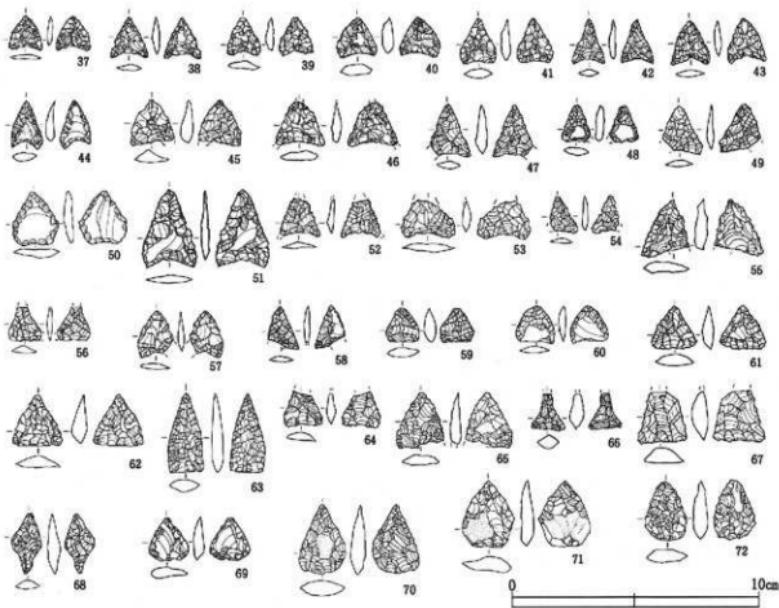
グラフについて（第53・54図）

本遺跡から出土した石器の器種と石材の個数の特徴をとらえようとグラフと表にしてあらわした。器種では、全石器中（掲載遺物）石鎚が大きな割合を示す。石材（掲載遺物）では、赤色頁岩・頁岩・黒曜石・安山岩の順である。



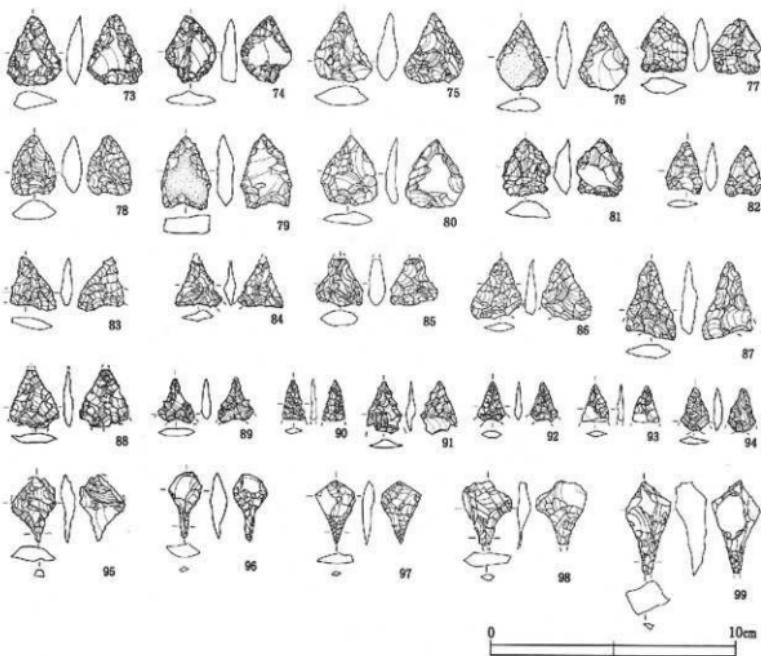
番号	出土地点	器種	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	石質	产地	類
1	雨森溝埋土下位	石鏟	1.7	1.2	0.3	0.3	赤色頁岩	北上山地	a
2	包合層B T最下部	石鏟	1.9	1.4	0.3	0.5	黒曜石		a
3	包合層A上層	石鏟	1.5	1.4	0.3	0.6	頁岩	北上山地	a
4	包合層B T下層	石鏟	2.0	1.6	0.3	0.5	頁岩	北上山地	a
5	包合層A 上層	石鏟	2.1	1.5	0.3	0.6	赤色頁岩	北上山地	a
6	雨森溝埋土下位	石鏟	2.3	1.8	0.2	0.5	赤色頁岩	北上山地	a
7	II C 2 a II 層	石鏟	2.15	1.9	0.6	2.0	玉ずい		a
8	SK 7 墓土	石鏟	1.4	1.2	0.5	0.5	玉ずい		a
9	包合層A 下層	石鏟	1.55	1.2	0.2	0.3	赤色頁岩	北上山地	a
10	II C 3 d 耕作土	石鏟	1.8	1.5	0.25	0.5	黒曜石		a
11	包合層A 上層	石鏟	1.6	1.5	0.4	0.7	赤色頁岩	北上山地	a
12	包合層A 上層	石鏟	2.1	1.5	0.3	0.5	赤色頁岩	北上山地	a
13	包合層B 上層	石鏟	1.8	1.6	0.2	0.5	赤色頁岩	北上山地	a
14	包合層A 下層	石鏟	2.0	1.4	0.3	0.4	黒曜石		a
15	包合層A 上層	石鏟	1.8	1.4	0.3	0.3	赤色頁岩	北上山地	a
16	包合層B T 上層	石鏟	1.9	1.0	0.3	0.5	珪質頁岩	北上山地	a
17	包合層B T 上層	石鏟	2.0	0.95	0.25	0.5	赤色頁岩	北上山地	a
18	雨森溝埋土	石鏟	2.65	1.45	0.25	0.6	赤色頁岩	北上山地	a
19	包合層A 下層	石鏟	2.3	(1.7)	0.3	0.9	黒曜石		a
20	包合層A 上層	石鏟	1.8	1.8	0.5	1.0	頁岩	北上山地	a
21	包合層A 下層	石鏟	2.1	1.7	0.35	1.1	赤色頁岩	北上山地	a
22	包合層B T 級下部	石鏟	1.8	1.7	0.25	0.5	頁岩	北上山地	a
23	雨森溝埋土下位	石鏟	1.7	1.4	0.3	0.5	赤色頁岩	北上山地	a
24	包合層B T 級下部	石鏟	2.1	1.9	0.2	1.4	黒曜石		a
25	包合層A T 下層	石鏟	(1.3)	1.5	0.3	0.9	珪質頁岩	北上山地	a
26	SK 6 墓土中位	石鏟	1.5	1.9	0.25	0.6	玉ずい		a
27	包合層B T 下層	石鏟	(1.7)	1.3	0.3	0.4	黒曜石		a
28	SK 3 墓土上位	石鏟	(2.0)	1.7	0.3	0.8	赤色頁岩	北上山地	a
29	包合層B T 級下部	石鏟	1.3	1.3	0.3	0.3	赤色頁岩	北上山地	a
30	包合層B T 級最下部	石鏟	1.8	1.5	0.25	0.4	頁岩	北上山地	a
31	包合層A 下層	石鏟	2.2	2.0	0.4	0.6	頁岩	北上山地	a
32	包合層A 上層	石鏟	(1.3)	1.9	0.3	1.2	頁岩	北上山地	a
33	II C 3 b 耕作土	石鏟	(1.8)	(2.0)	0.3	0.4	黒曜石		a
34	雨森溝埋土下位	石鏟	(2.0)	(1.9)	0.3	0.7	頁岩	北上山地	a
35	雨森溝埋土下位	石鏟	2.2	1.9	0.2	0.6	珪質頁岩	北上山地	a
36	包合層A 下層	石鏟	(2.4)	1.4	0.3	0.6	赤色頁岩	北上山地	a

第39図 石器(1)



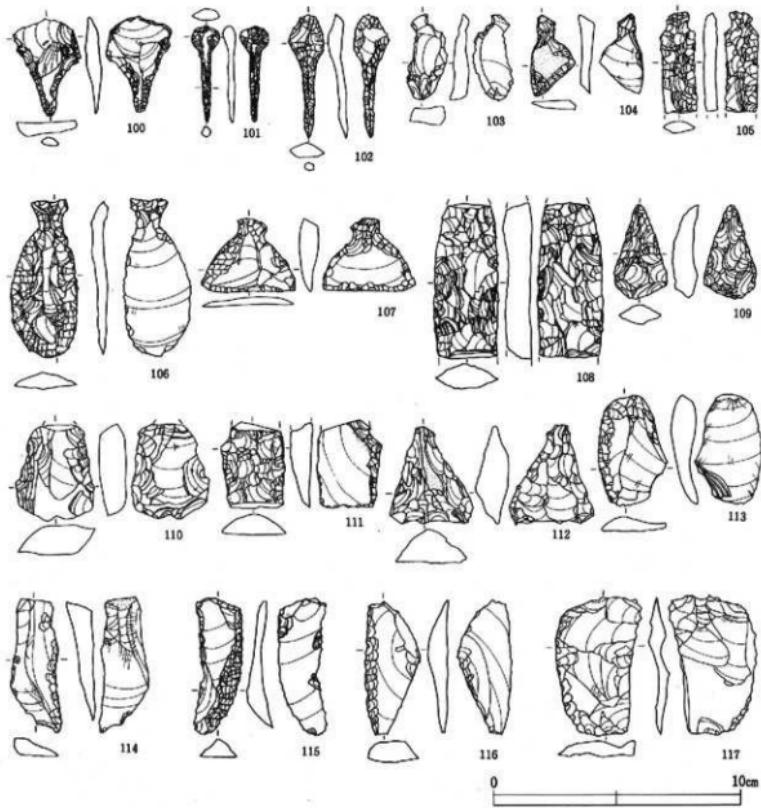
番号	出土地点	器種	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	石質	産地	形
37	包合層B上層	石鏃	1.3	1.4	0.2	0.3	黒曜石	b	
38	SK7埋土	石鏃	1.6	1.5	0.3	0.6	赤色頁岩	北上山地	b
39	包合層B上層	石鏃	1.6	1.4	0.4	0.4	黒曜石	b	
40	包合層A下層	石鏃	1.65	1.65	0.45	1.1	赤色頁岩	北上山地	b
41	包合層A下層	石鏃	1.7	1.5	0.4	0.8	赤色頁岩	北上山地	b
42	雨裂渓下層	石鏃	1.8	1.3	0.3	0.4	頁岩	北上山地	b
43	包合層A下層	石鏃	1.8	1.5	0.3	0.6	黒曜石	b	
44	包合層B上層	石鏃	2.0	1.3	0.3	0.9	玉ずい	b	
45	包合層A下層	石鏃	1.9	1.7	0.55	1.3	頁岩	北上山地	b
46	包合層B上層	石鏃	1.1	2.0	0.4	1.0	赤色頁岩	北上山地	b
47	包合層A下層	石鏃	(2.2)	(1.5)	0.4	1.0	玉ずい	b	
48	包合層B下層	石鏃	1.5	1.2	0.3	0.7	赤玉頁岩	北上山地	b
49	SK6埋土上位	石鏃	12.6	1.3	0.3	0.7	玉ずい	b	
50	包合層A上層	石鏃	2.2	1.9	0.4	2.1	赤色頁岩	北上山地	b
51	包合層A下層	石鏃	3.2	2.2	0.3	1.9	頁岩	北上山地	b
52	包合層B下層	石鏃	(1.6)	(1.7)	0.3	0.6	赤色頁岩	北上山地	b
53	包合層A上層	石鏃	1.65	2.2	0.4	1.2	珪質頁岩	北上山地	b
54	包合層B上層	石鏃	1.4	1.7	0.2	0.3	玉ずい	b	
55	包合層B下層	石鏃	2.3	1.9	0.45	1.5	赤色頁岩	北上山地	b
56	包合層B上層	石鏃	1.4	1.4	0.25	0.4	黒曜石	b	
57	包合層A上層	石鏃	2.0	1.4	0.3	0.6	赤色頁岩	北上山地	b
58	包合層B下層	石鏃	(1.8)	(1.1)	0.2	0.4	黒曜石	b	
59	包合層B下層	石鏃	1.4	1.3	0.4	0.8	黒曜石	c	
60	包合層A上層	石鏃	1.5	1.6	0.3	0.6	黒曜石	c	
61	SK6埋土上位	石鏃	1.8	1.8	0.5	1.3	頁岩	北上山地	c
62	包合層A上層	石鏃	2.1	2.0	0.6	1.9	赤色頁岩	北上山地	c
63	包合層A下層	石鏃	3.2	1.5	0.6	2.1	頁岩	北上山地	c
64	雨裂渓埋土下位	石鏃	1.6	1.5	0.3	0.9	黒曜石	c	
65	包合層B下層	石鏃	2.25	1.95	0.45	1.7	赤色頁岩	北上山地	c
66	包合層B下層	石鏃	(1.5)	1.3	0.6	0.7	赤色頁岩	北上山地	c
67	H C 2 d II層	石鏃	2.1	2.0	0.6	2.7	赤色頁岩	北上山地	c
68	雨裂渓埋土下位	石鏃	2.5	1.3	0.6	1.1	赤色頁岩	北上山地	d
69	包合層B下層	石鏃	1.7	1.6	0.4	0.7	頁岩	北上山地	e
70	SK4埋土下位	石鏃	2.8	1.9	0.7	2.9	頁岩	北上山地	e
71	包合層A下層	石鏃	2.8	2.1	0.6	3.7	赤色頁岩	北上山地	e
72	SK7埋土	石鏃	2.4	1.6	0.5	2.2	赤色頁岩	北上山地	e

第40図 石器(2)



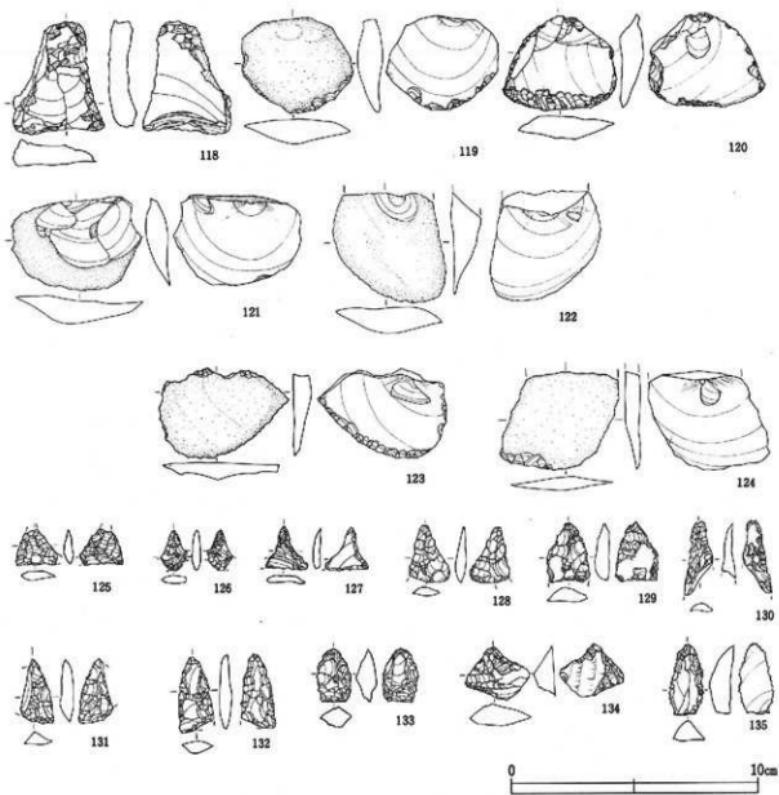
番号	出土地点	要種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	石質	产地	種
73	包含層A下層	石鏃	2.85	2.2	0.7	4.4	頁岩	北上山地	e
74	包含層B上層	石鏃	2.7	2.05	0.65	3.0	珪質頁岩	北上山地	e
75	S.K.6埋土位	石鏃	2.8	2.3	0.8	4.2	赤色頁岩	北上山地	e
76	包含層B上層	石鏃	2.9	2.0	0.5	3.1	赤色頁岩	北上山地	e
77	包含層B上層	石鏃	2.2	0.6	1.9	2.9	玉ずい		e
78	包含層A上層	石鏃	2.4	1.8	0.8	3.1	頁岩	北上山地	e
79	包含層A下層	石鏃	2.9	2.0	0.7	5.4	赤色頁岩	北上山地	e
80	雨烈流ベルト	石鏃	3.9	2.3	0.5	3.5	頁岩	北上山地	e
81	S.K.6埋土層	石鏃	2.3	1.9	0.7	2.9	玉ずい		e
82	包含層A上層	石鏃	2.1	1.5	3.5	0.8	玉ずい		e
83	包含層A上層	石鏃	2.3	1.9	0.5	1.4	赤色頁岩	北上山地	e
84	包含層A上層	石鏃	1.9	1.8	0.5	0.7	玉ずい		e
85	包含層A上層	石鏃	1.9	1.9	0.7	2.4	赤色頁岩	北上山地	e
86	包含層A上層	石鏃	2.3	2.0	0.4	1.7	赤色頁岩	北上山地	e
87	包含層A上層	石鏃	3.2	2.0	0.6	2.8	赤色頁岩	北上山地	e
88	S.K.4埋土上位	石鏃	2.4	2.0	0.4	1.1	凝灰岩	奥羽山脈	e
89	包含層A上層	石鏃	1.7	(1.4)	0.3	0.5	黒曜石	f	
90	包含層A下層	石鏃	(1.7)	0.9	0.2	0.3	赤色頁岩	北上山地	f
91	包含層B最下部	石鏃	2.1	1.4	0.3	0.9	玉ずい		f
92	包含層B上層	石鏃	(1.6)	(1.1)	0.3	0.4	頁岩	北上山地	f
93	包含層A下層	石鏃	(2.5)	1.1	0.25	0.3	赤色頁岩	北上山地	f
94	包含層A上層	石鏃	1.8	1.2	0.25	0.5	黒曜石	f	
95	包含層B上層	石鏃	2.7	1.85	0.6	2.4	赤色頁岩	北上山地	
96	包含層A下層	石鏃	2.8	1.4	0.6	1.4	頁岩	北上山地	
97	S.K.6埋土上位	石鏃	2.6	(1.5)	0.5	1.2	玉ずい		
98	S.K.7埋土	石鏃	(2.6)	2.1	0.6	2.9	赤色頁岩	北上山地	
99	包含層B-T最下部	石鏃	3.0	1.9	1.4	5.6	頁岩	北上山地	

第41図 石器(3)



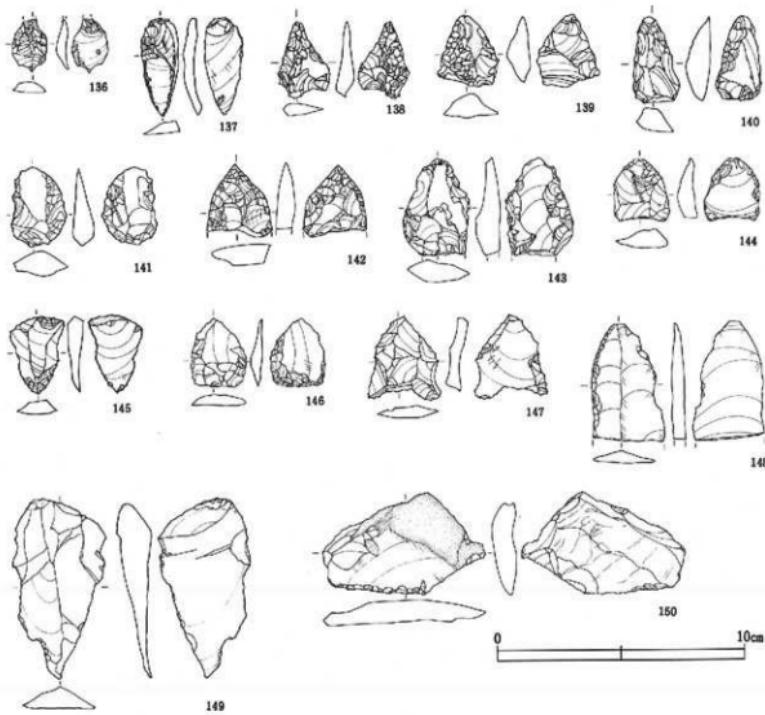
番号	出土地点	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	石質	産地
100	包含層A下層	石錐	4.0	2.5	0.4	4.6	頁岩	北上山地
101	包含層A上層	石錐	3.9	1.1	0.4	1.0	玉ずい	
102	SK 7 埋土	石錐	5.0	1.4	0.5	2.8	頁岩	北上山地
103	SK 4 埋土	石匙	3.5	1.6	0.7	4.6	赤色頁岩	北上山地
104	包含層B下層	石匙	3.3	1.8	0.6	2.4	赤色頁岩	北上山地
105	SK 7 埋土下位	石匙	(4.1)	1.3	0.5	4.0	頁岩	北上山地
106	II C 2 c 旧耕作土	石匙	6.4	2.7	0.7	11.4	頁岩	北上山地
107	包含層B上層	石匙	3.0	3.8	0.8	6.8	頁岩	北上山地
108	II C 3 a 旧耕作土	尖頭器	6.4	2.7	1.2	25.4	頁岩	北上山地
109	包含層B-T最下部	尖頭器	3.8	2.1	0.9	6.4	頁岩	北上山地
110	SK 4 埋土中位	石鑿?	3.8	3.3	1.2	20.7	頁岩	北上山地
111	兩次溝埋土下位	搔・削器	3.5	2.7	0.8	7.4	頁岩	北上山地
112	包含層B-T最下部	搔・削器	4.0	3.4	1.4	12.8	頁岩	北上山地
113	SK 4 埋土中位	搔・削器	4.5	2.3	0.9	11.6	頁岩	北上山地
114	II C 3 d 旧耕作土	搔・削器	5.5	2.1	0.9	20.0	頁岩	北上山地
115	包含層B下層	搔・削器	5.1	2.0	0.8	7.2	頁岩	北上山地
116	SK 3 埋土	搔・削器	5.4	2.2	0.8	8.4	頁岩	北上山地
117	包含層A下層	搔・削器	5.6	3.4	0.6	21.5	頁岩	

第42図 石器(4)



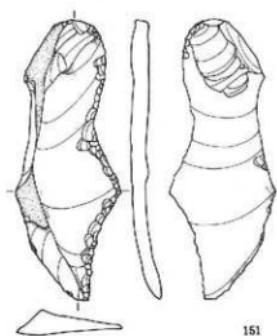
番号	出土地点	器種	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	石質	産地
118	包含層A上層	縫・削器	4.8	3.7	1.1	19.1	頁岩	北上山地
119	包含層B上層	縫・削器	3.9	4.7	1.0	19.3	頁岩	北上山地
120	包含層B T	縫・削器	3.85	4.65	9.50	15.2	頁岩	北上山地
121	包含層A上層	縫・削器	5.2	3.8	1.2	17.4	頁岩	北上山地
122	包含層B下層	縫・削器	(4.5)	4.55	1.2	19.5	頁岩	北上山地
123	S K 4 埋土下位	縫・削器	3.6	5.6	0.7	12.9	赤色頁岩	北上山地
124	包含層B上層	縫・削器	4.1	4.9	0.6	12.0	頁岩	北上山地
125	V B 3 b II層	不定形石器	1.75	1.6	0.5	0.9	赤色頁岩	北上山地
126	包含層B下層	不定形石器	1.7	1.1	0.3	0.3	黒曜石	
127	包含層B下層	不定形石器	1.8	1.7	0.3	0.8	黒曜石	
128	包含層B最下部	不定形石器	2.4	1.6	0.4	1.1	頁岩	北上山地
129	包含層A上層	不定形石器	2.35	1.7	0.6	2.5	赤色頁岩	北上山地
130	包含層B T	不定形石器	(2.4)	0.9	0.5	1.1	珪質頁岩	北上山地
131	包含層B T	不定形石器	2.65	1.4	0.55	1.5	赤色頁岩	北上山地
132	S K 6 埋土下位	不定形石器	3.5	1.4	0.5	8.6	頁岩	北上山地
133	S K 4 埋土中位	不定形石器	2.2	1.4	0.8	2.1	玉ずい	
134	包含層B下層	不定形石器	2.1	2.55	0.85	3.3	赤色頁岩	北上山地
135	包含層A下層	不定形石器	(2.9)	1.3	0.8	3.2	頁岩	北上山地

第43図 石器(5)

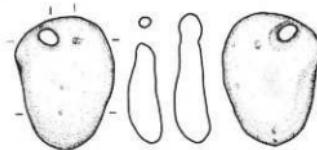


番号	出土地点	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	石質	産地
136	包含層B最下部	不定形石器	2.2	1.4	0.4	1.3	赤色頁岩	北上山地
137	包含層B最下部	不定形石器	4.0	1.4	0.5	3.1	黒曜石	
138	包含層A上層	不定形石器	3.1	1.7	0.7	3.1	赤色頁岩	北上山地
139	包含層A下層	不定形石器	2.7	2.4	0.9	6.1	赤色頁岩	北上山地
140	包含層B T	不定形石器	3.5	1.5	1.0	6.2	赤色頁岩	北上山地
141	包含層B上層	不定形石器	3.2	2.3	1.0	7.2	赤色頁岩	北上山地
142	雨森溝ベルト	不定形石器	3.1	2.6	0.8	6.2	珪質頁岩	北上山地
143	包含層B最下部	不定形石器	4.0	2.65	1.0	11.7	頁岩	北上山地
144	包含層B最下部	不定形石器	2.4	2.2	0.7	4.4	赤色頁岩	北上山地
145	包含層B T	不定形石器	3.2	2.2	0.6	4.2	頁岩	北上山地
146	包含層B最下部	不定形石器	2.7	2.3	0.4	3.2	頁岩	北上山地
147	S.K.8 埋土下位	不定形石器	3.0	2.6	0.4	5.6	頁岩	北上山地
148	S.K.8 埋土下位	不定形石器	(4.8)	2.8	0.5	6.7	頁岩	北上山地
149	包含層A T下層	不定形石器	7.2	3.0	0.9	24.9	頁岩	北上山地
150	包含層B最下部	不定形石器	4.2	6.7	1.0	26.3	頁岩	北上山地

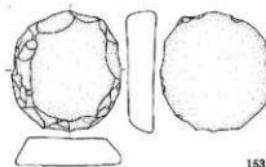
第44図 石器(6)



151



152

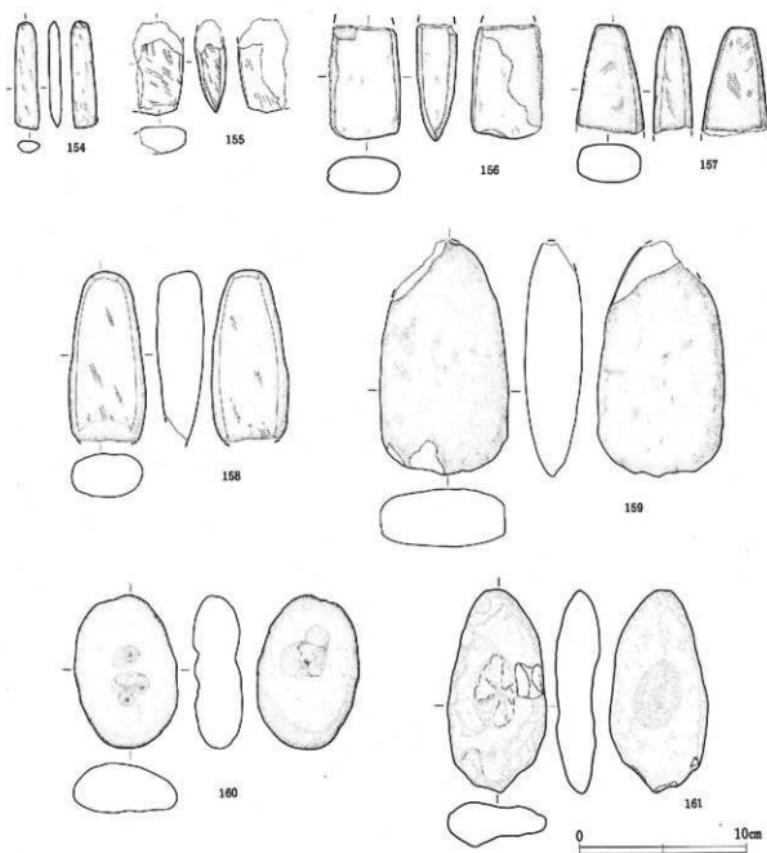


153

0 10cm

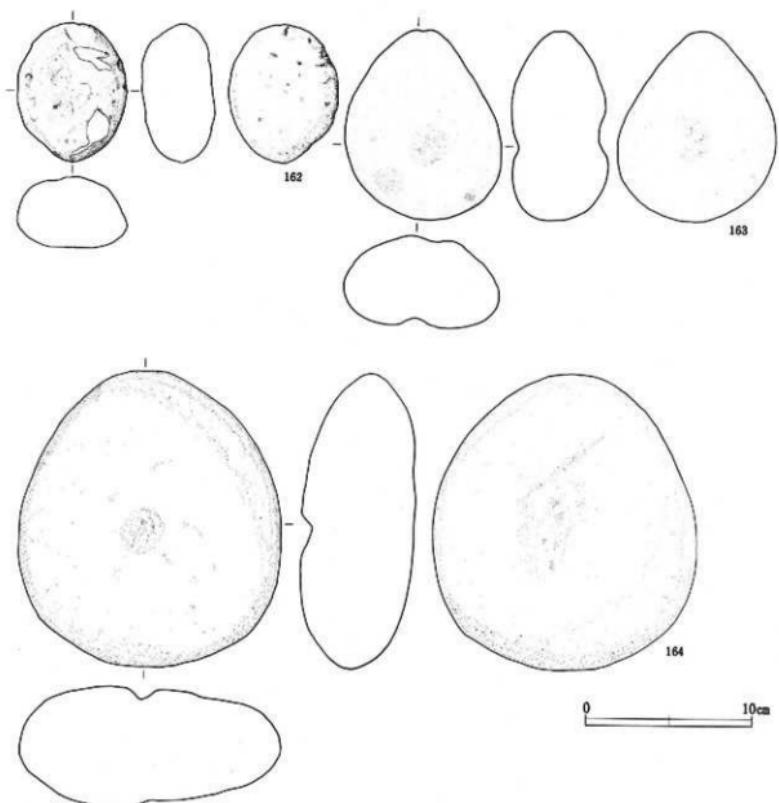
番号	出土地点	器種	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	石質	産地
151	包含層A上層	不定形石器	11.5	4.3	1.0	45.2	頁岩	北上山地
152	包含層A下層	不定形石器	5.4	3.6	1.3	33.0	頁岩	北上山地
153	包含層B T段下部	不定形石器	5.0	4.3	1.1	35.6	巖灰岩	奥羽山脈

第45図 石器(7)



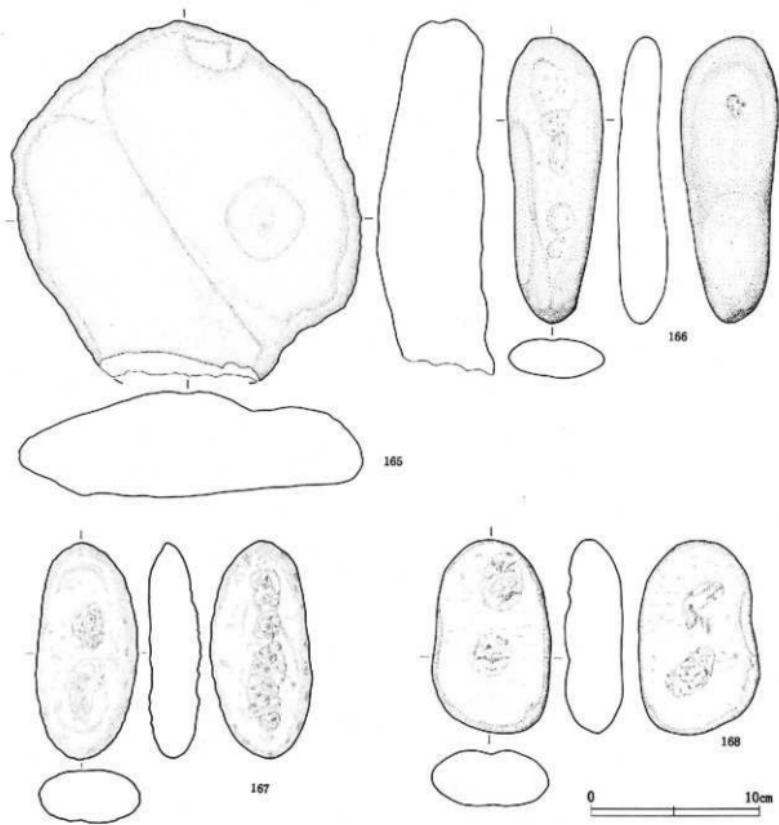
番号	出土地点	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	石質	産地
154	SK 4 埋土中位	磨姓石斧	6.5	1.4	0.7	12.1	頁岩	北上山地
155	包含層A T上層	磨姓石斧	(5.6)	(2.3)	(1.6)	43.4	頁岩	北上山地
156	包含層A 上層	磨姓石斧	(6.9)	4.3	2.2	122.4	頁岩	北上山地
157	包含層A 下層	磨姓石斧	(6.6)	4.0	2.3	99.1	頁岩	北上山地
158	SK 4 埋土上位	磨姓石斧	10.3	4.6	2.8	201.5	はんれい岩	北上山地
159	包含層A 下層	磨姓石斧	(14.2)	7.4	3.5	374.9	凝灰岩	奥羽山脈
160	包含層A 上層	凹石	9.2	6.2	3.0	245.8	頁岩	奥羽山脈
161	包含層B 最下部	凹石	12.3	5.9	2.7	216.9	凝灰岩	奥羽山脈

第46図 石器(8)



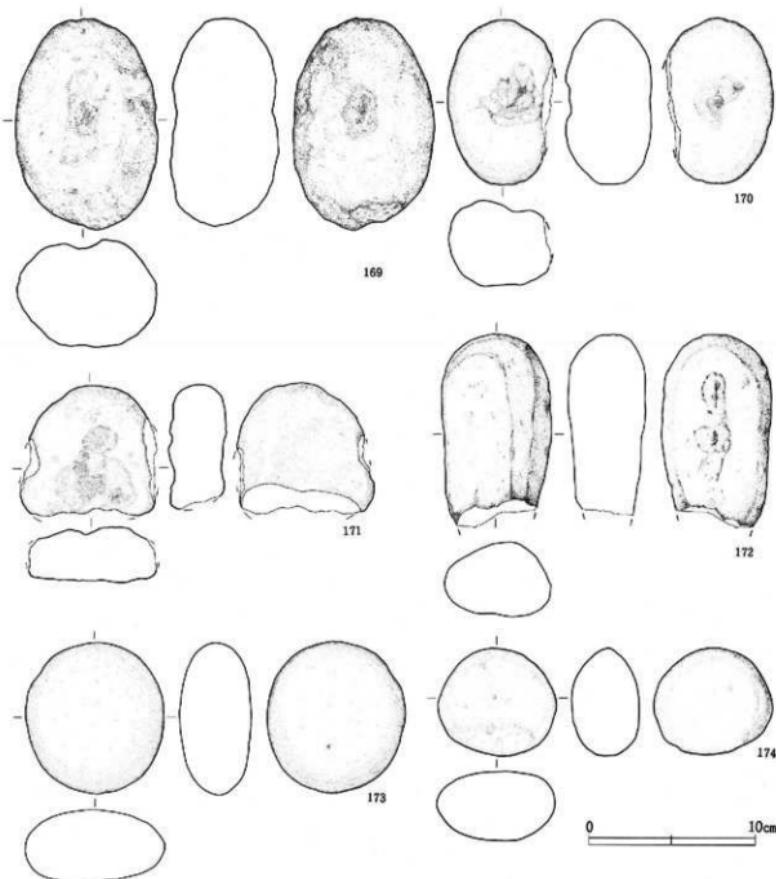
番号	出土地点	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	石質	産地
162	包含層A上層	凹石	8.3	6.6	4.3	72.5	安山岩(溶岩)	奥羽山脈
163	包含層A上層	凹石	11.5	9.4	5.8	490.2	安山岩(溶岩)	奥羽山脈
164	包含層A上層	凹石	17.8	15.7	7.2	1,979.2	安山岩(溶岩)	奥羽山脈

第47図 石器(9)



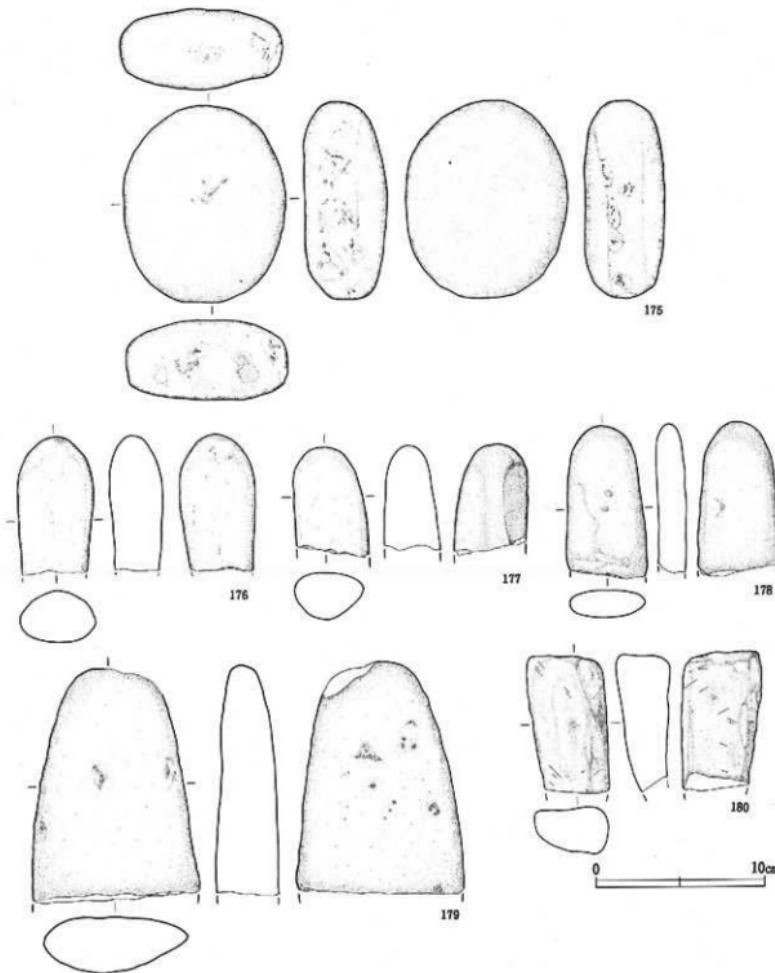
番号	出土地点	器種	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	石質	産地
165	包含層A上層	凹石	(21.4)	20.6	6.2	3,864.5	斑岩	奥羽山脈
166	包含層A上層	磨石・敲石	9.1	8.2	4.3	498.7	安山岩(流紋岩)	奥羽山脈
167	包含層B下層	凹石	13.0	6.0	3.2	342.4	斑岩	北上山地
168	SK7おとし穴状叢下	凹石・磨石	11.7	7.1	3.6	423.8	斑岩	奥羽山脈

第48図 石器(10)



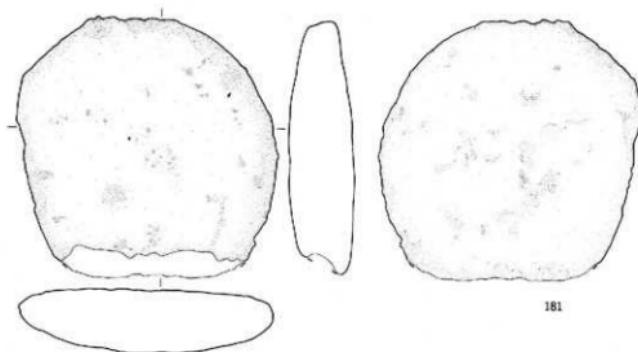
番号	出土地点	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	石質	产地
169	包含層A T下層	凹石	12.7	8.5	6.4	519.8	安山岩(溶岩)	奥羽山脈
170	包含層A T上層	凹石	10.0	(6.3)	5.2	390.1	安山岩	奥羽山脈
171	S.K.4下位	凹石	(7.6)	(7.8)	3.4	189.6	安山岩(溶岩)	奥羽山脈
172	雨裂溝堆土内	凹石	(11.3)	6.45	6.4	491.6	安山岩	奥羽山脈
173	包含層A下層	磨石	9.1	8.2	4.3	498.7	安山岩(溶岩)	奥羽山脈
174	包含層A上層	磨石	6.5	7.1	4.2	216.2	安山岩(溶岩)	奥羽山脈

第49図 石器(1)

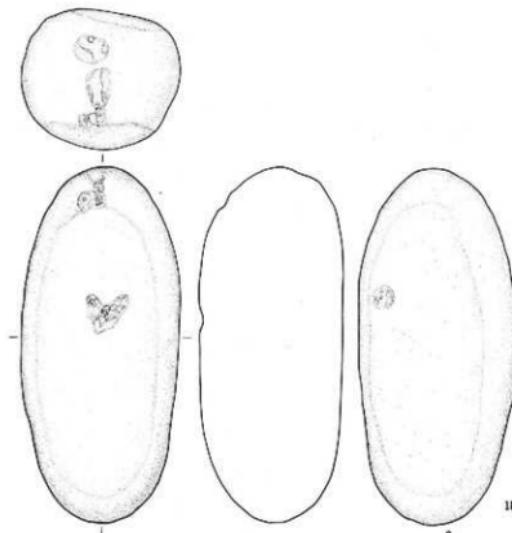


番号	出土地点	器種	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	石質	産地
175	包含層B T最下部	磨石・敲石	11.9	9.8	4.9	904.4	安山岩	奥羽山脈
176	包含層A下層	磨石	(8.3)	4.6	3.1	182.8	斑岩	北上山地
177	包含層A下層	磨石	(6.3)	4.4	2.8	105.6	安山岩	奥羽山脈
178	S K 3 埋土	磨石	(9.0)	4.8	1.6	99.4	斑岩	奥羽山脈
179	雨裂渓埋土	磨石	14.1	3.8	10.0	778.3	はんれい岩	北上山地
180	包含層A T上層	磨石	(8.3)	4.7	3.2	195.5	ホルンフェルス	北上山地

第50図 石器(2)



181

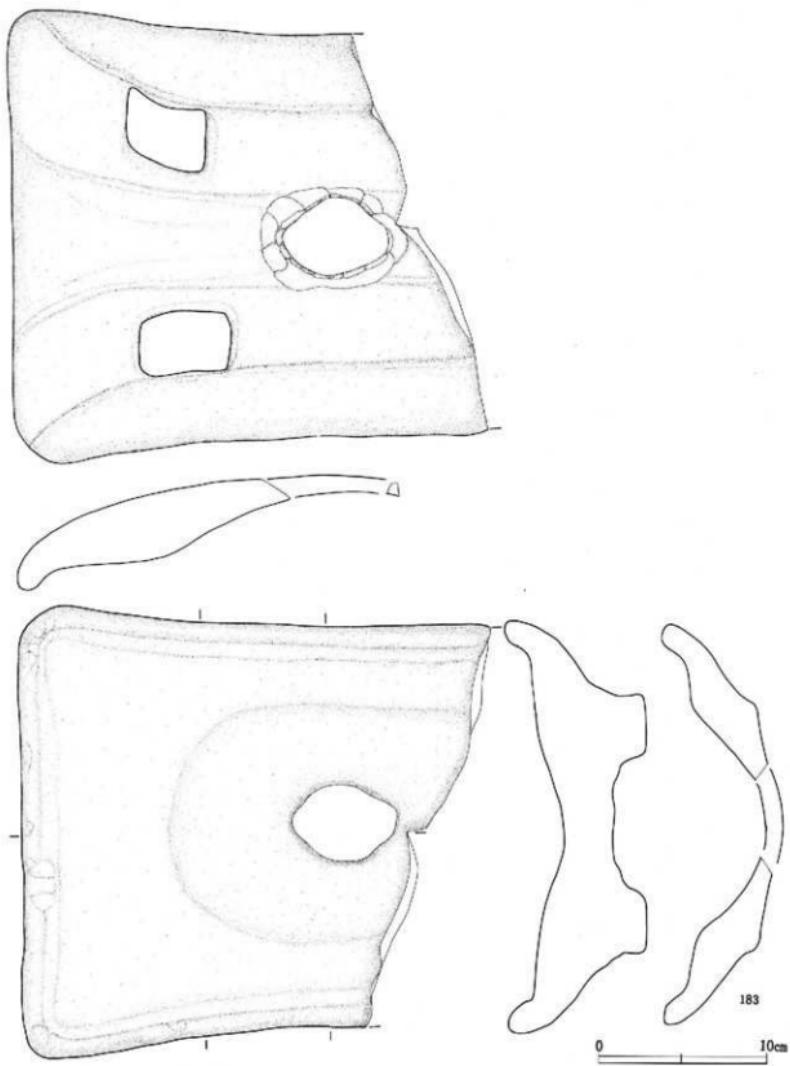


182

10cm

番号	出土地点	器種	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	石質	産地
181	包含層A上層	敲石	15.8	15.4	3.8	1,381.0	安山岩	奥羽山脈
182	包含層A下層	敲石・磨石	21.5	9.55	8.55	2,650.9	安山岩	奥羽山脈

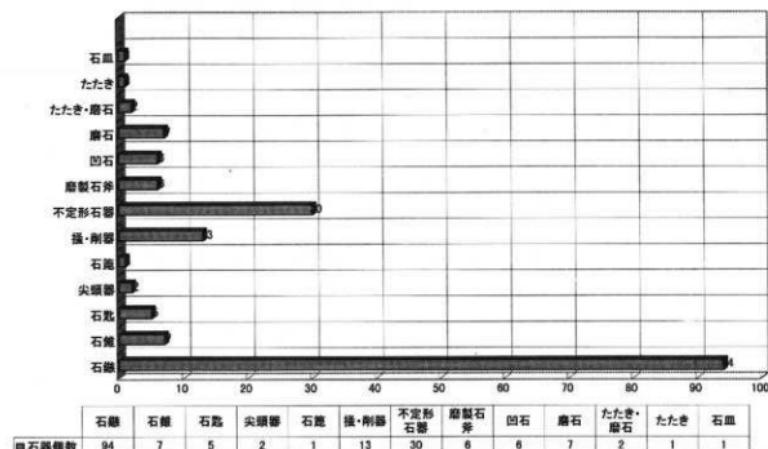
第51図 石器(13)



番号	出土地点	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	石質	産地
183	包含層B丁最下部	石皿	28.3	26.7	3.9	3,581.1	砂岩	奥羽山脈

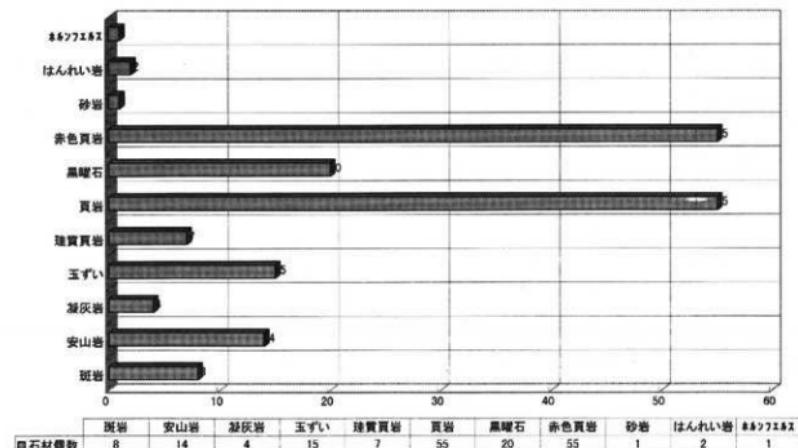
第52図 石器(14)

遺跡石器種一覧



第53図 石器グラフ(1)

遺跡石器石材個数一覧



第54図 石器グラフ(2)

### 3. かわらけ（第55図・1～11）

本遺跡から出土したかわらけは11点である。かわらけは、杉沢（岩理文1998）が著した「岩手県における中世後半のかわらけの様相」に従って分類した。杉沢が分類した基準は下記とおりである。

I A1類－法量：口径6.7cm～12.7cm、口径／底径1.5未満。形態：器高は低く、底径が大きい。内底から口縁への立ち上がりが急で口唇部が丸味を帯びる。調整：底部ロクロ糸切り痕が不明瞭なものもある。

I A2類－法量：口径6.7cm～12.7cm、口径／底径1.5未満。形態：器高は低く、底径が大きい。内底から口縁への立ち上がりは緩やかで口唇部は細かく尖り気味につくりだされている。調整：底部糸切り痕が不明瞭なものがある。

II A1類－法量：口径12.7cm以上、口径／底径1.5未満、器高2.3cm以上。量的には多くない。形態：口径に対し底径が大きい。内底から口縁への立ち上がりが急で口唇部が丸味を帯びる。調整：底部糸切り痕跡は明瞭。

II A2類－法量：口径12.7cm以上、口径／底径1.5未満、器高2.3cm未満。形態：口径に対し底径が大きい。内底から口縁への立ち上がりが緩やかで口唇部は細かく尖り気味につくりだされている。

I B 1類－法量：口径6.7～12.7cm、口径／底径1.5以上、器高2.3cm以上。形態：口縁に対し底径が小さい。内底から口縁への立ち上がりが急で口唇部は丸みを帯びる。調整：底部糸切り痕が不明瞭なものが多い。

I B 2類－法量：口径6.7cm～12.7cm、口径／底径1.5以上、器高1.9cm以上。形態：口縁に対し底径が小さい。内底から口縁への立ち上がりが緩やかで口唇部は細かく尖り気味につくりだされている。調整：底部糸切り痕は明瞭なものと不明瞭なものとがある。

II B2類－法量：口径12.7cm以上、口径／底径1.5以上、器高3.5cm以上。形態：口径に対し底径が小さい。内底から口縁への立ち上がりが緩やかで口唇部は細かく尖り気味につくりだされている。調整：底部糸切り痕は明瞭。

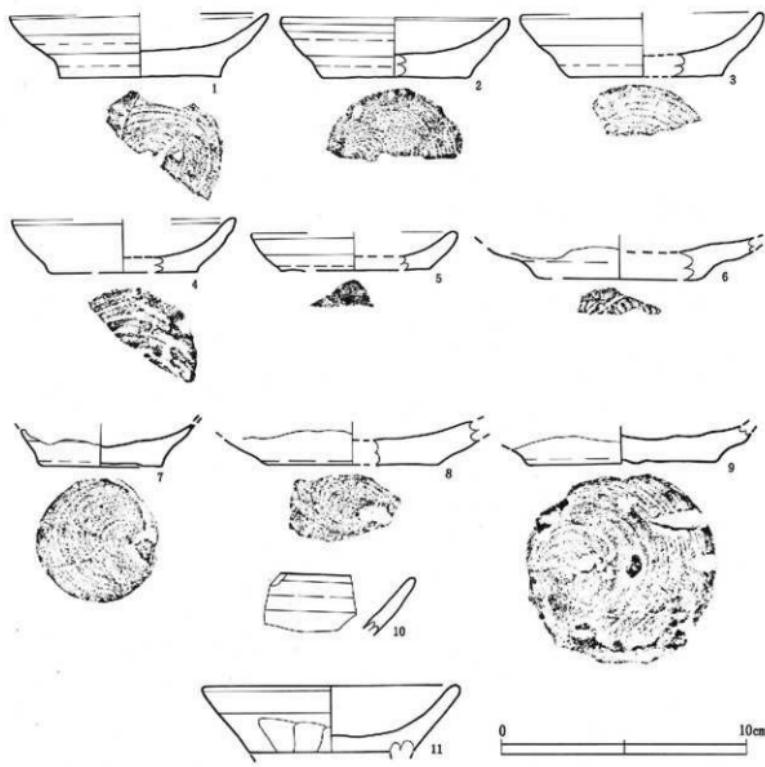
II B3類－法量：口径12.7cm以上、口径／底径1.5以上。形態：口径に対し底径が小さい。調整：底部を高台状につくる。

本遺跡のかわらけの法量は、口径が9.1cm～10.5cm・底径4.9cm～7.8cm・器高2.2cm～2.7cmの範囲に入る（第55図・1～11）。

反転実測をして、口径・底径の法量をだしたが、1～5・11は口径／底径の比率は1は1.6・2は1.55・3は1.58・4は1.50・5は1.39・11は1.56である。この結果から杉沢の分類と比較すると、1～4はI B2類に類すると考えられる。5はI A2類に類するとと思われる。11は底部に高台跡があり、内面・外面にすすぐ付着している。もともとは、内面・外面黒色処理を受けていたものが、再加熱により、黒色の部分が消えてしまった可能性も考えられる。また、質感も他のかわらけと異なり、ロクロ成形後不鮮明ではあるが、内面にミガキ等・外面にケズリ等の調整が施された感がある。素焼きの土器とした方が無難かもしれないが、かわらけとして掲載した。分類に加えることは控える。

1～10のかわらけは、ロクロ成形で、ロクロ成形後の内面・外面の調整は施されていない。胎土は、砂を含む。形状は、底部を高台状につくるものがある（1～4・6・7・9）。

時代時期は、中世に属すると思われる。



番号	出土地点	器形	口径cm	底径cm	高さcm	備考
1	SK7下位	I B 2類	(10.6)	(6.6)	2.6	内面・外面クロロ調整
2	SK7下位	I B 2類	(9.3)	(6.0)	2.5	内面・外面クロロ調整
3	SK7下位	I B 2類	(10.0)	(6.3)	2.6	内面・外面クロロ調整
4	II C 3 b底	I B 2類	(9.2)	(6.1)	2.2	内面・外面クロロ調整
5	II C 3 b黒色土上層	I A 2類	(8.5)	(6.1)	(1.5)	内面・外面クロロ調整
6	SK7下位		(6.7)	(1.8)		内面・外面クロロ調整
7	SK7下位		(4.9)	(1.8)		内面・外面クロロ調整
8	SK7底		(7.1)	(1.8)		内面・外面クロロ調整
9	II C 3 b II層			7.8	(1.5)	内面・外面クロロ調整
10	SK7下位				(2.9)	内面・外面クロロ調整
11	1号櫛底部		(10.5)	(6.7)	2.7	高台跡あり

第55図 かわらけ

#### 4. 陶磁器（図版第56図～第60図）

中世・近世・近代と思われる陶磁器片は、274点出土した。これらの内訳は、高麗産1点・中国産6点・肥前産71点・瀬戸美濃産26点・大堀相馬産21点・平清水産6点・堤産1点・産地不明（東北産？）104点である。出土した陶磁器片は、ほとんどが遺構外（耕作土・水田造成時の盛土からの出土が大半を占める）である。

出土した陶磁器の産地別に割合を見ると、肥前産37%・瀬戸・美濃産9%・大堀相馬産11%・平清水産2%・中国産2%・高麗産0.3%・堤産0.3%産地不明39%である。

肥前産陶磁器片の出土量の割合が多く、器種については、皿・碗の割合が多い。時期は、大橋康二編年のIV期がもっとも多い。いわゆる「くらわんか」と呼ばれる陶磁器片である。窯場は、長崎県波佐見町の波佐見窯から製造された。瀬戸・美濃産陶磁器片は、時代は近世の割合が多い。

本報告書で記載した陶磁器片は、遺構内・器形がはっきりしているもの・時代が近・現代より古いものを基準に掲載した。小破片等の陶磁器片については割愛した。本報告書で図示した遺物は62点である。

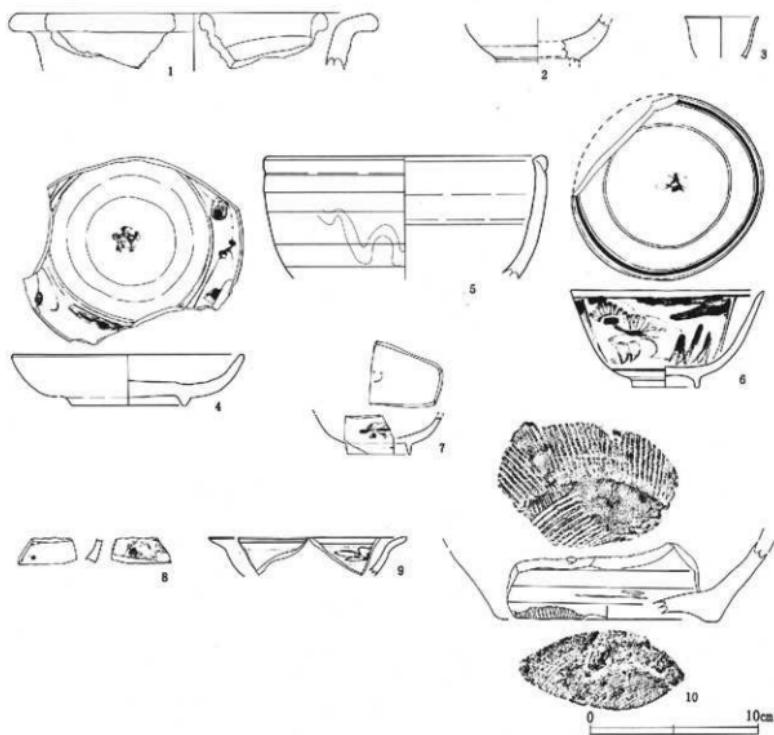
陶磁器片の時代時期にはついては、愛知県陶磁資料館・瀬戸埋文・佐賀県立九州陶磁資料館において遺物を実見していただき、その助言と参考文献等で時代時期を記載した。肥前産の陶磁器の編年は大橋康二氏の編年（大橋康二1993『肥前陶磁』考古学ライブラリー-55 ニューサイエンス社）に準じて記載した。

陶器片は24点掲載した。本遺跡の中で11は陶器の中でも、もっとも古い時代に製作された遺物で、12世紀初めから13世紀末瀬戸で生産された鉢目皿と呼ばれる口縁部である。12は肥前で製作された大橋康二編年のI期に属する胎土目跡のある皿である。いわゆる唐津と呼ばれるものである。13～17は17世紀中頃から後半にかけて、製作された瀬戸・美濃産の片口である。2・15・18～20は肥前で製作された、大橋康二編年のIII・IV期の皿・碗である。刷毛目・京焼風の特徴がある。21～28は18世紀～19世紀に製作された大堀相馬産の皿・碗・火入れ・花入れなどである。10・29・30は18世紀～19世紀にかけて製作された瀬戸・美濃産の壺？火入れ・擂鉢である。

磁器片は38点掲載した。本遺跡の中で、31はもっとも古い時代に属する遺物は高麗で製作された青磁香炉片である。中国産の磁器は32～35である。32は14世紀に製作された青磁碗である。33は14世紀に製作された白磁の水注である。34・35は16世紀に製作された染付皿である。

国内産の磁器片の割合は、肥前産の磁器が大半を占める。9・36・37は大橋康二編年II期に製作された染付皿である。いわゆる初期伊万里と呼ばれるものである。8・38～43は大橋康二編年III期に製作された染付碗・瓶・皿である。4・44～58は大橋康二編年IV期に製作された染付皿・碗・瓶である。44～52・55・58・59は波佐見窯産のいわゆる「くらわんか」と呼ばれるものである。

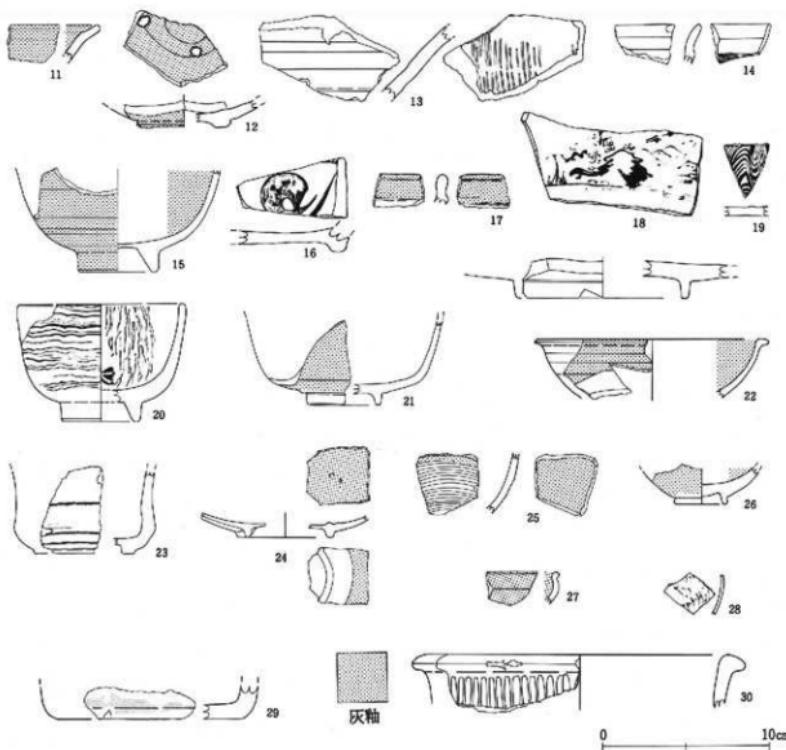
59・60は大橋康二編年V期に製作された瓶・鉢である。61は平清水産の碗である。6・62は瀬戸・美濃産の碗・皿である。62の胎土は半磁器と呼ばれるもので、おそらく、磁器を製作する段階で焼成等が不十分であったと思われる。



番号	出土地点	種別	器種	口径	底径	高さ	輪郭・窓付	色	質	製作地	製作年代	備考
1	堀埋土中位	陶器	碗	(10.6)		(3.5)	なまこ釉	褐灰色	埴?	18C?		
2	堀埋土中位	陶器	碗			(2.0)	長石釉	浅青綠色	肥前	1690~1780		
3	堀埋土中位	磁器	盃?	(4.4)		(3.1)	染付	白色	中國?	16C?		
4	堀埋土中位	磁器	皿	(13.7)	6.7	3.1	染付	灰白色	肥前	1690~1780	見込み地口無裏手。コニカル	
5	堀埋土中位	陶器	片口	(16.5)		(7.1)	胎釉	浅黄褐色	瀬戸美濃	17C中頃	外面胎だまり	
6	SK1	磁器	碗	11.4	4.0	5.9	染付	白色	瀬戸美濃	幕末		
7	SK1	磁器	碗			(3.7)	(2.3)	染付	白色	不明	近代	
8	SK1	磁器	皿			(1.5)	染付	白色	肥前	1690~1780		
9	SK7埋土上位	磁器	皿	(12.0)		(2.3)	染付	白色	肥前	1610~1650		
10	SK6埋土上位	陶器	擂鉢		(13.4)	(4.1)	鉄銷物	浅黄褐色	瀬戸美濃	18~19C		

口径、底径、高さの単位cm

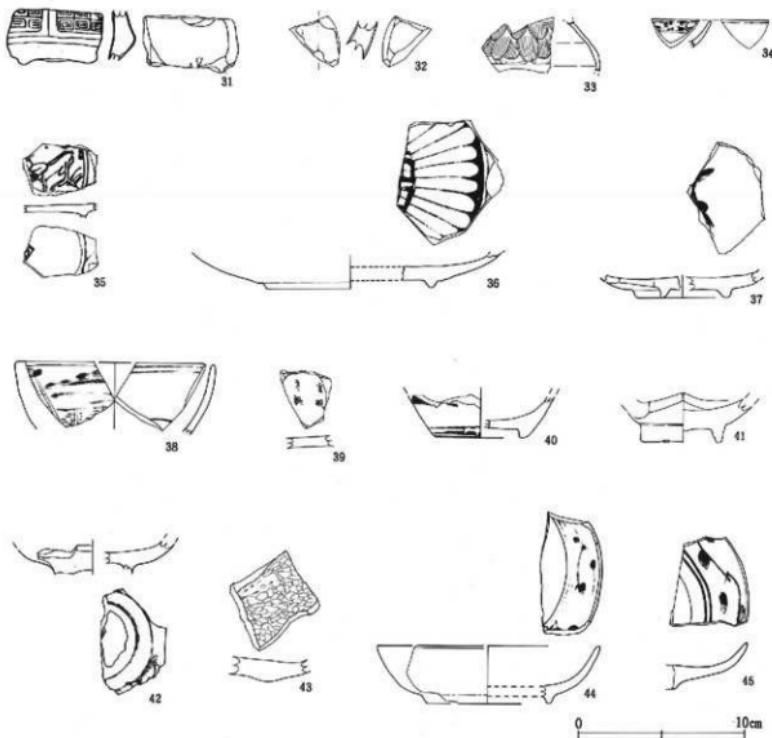
第56図 陶磁器(1)



番号	出土地点	種別	器種	口径	底径	高さ	輪郭・縁付	色 調	製作地	製作年代	備 考	
11	IVE2b盛土	陶器	皿			(2.1)	灰輪	灰白色	瀬戸	12C末~13初	鉢目皿	
12	縄中底部+レシナ	陶器	皿			(5.2)	(1.6)	灰輪	灰白色	肥前	1580~1600	胎土目
13	IVE2b盛土	鉢	鉢			(5.7)	鉄輪	浅黄褐色	瀬戸	17C中頃		
14	II C3b盛土	陶器	皿			(2.4)	石輪	浅黄褐色	瀬戸・美濃	17C後	いわゆる志野	
15	不明	陶器	碗			(2.3)	灰輪	浅黄褐色	肥前	17C中頃	呉器手鏡	
16	屋上瓦面トレンチ	陶器	鉢			(1.4)	灰輪	浅黄褐色	美濃			
17	不明	陶器	鉢			(2.0)	灰輪	浅黄褐色	17C後			
18	I C1c盛土	陶器	皿			(10.3)	(2.5)	灰輪	浅黄褐色	肥前	1680~1780	京焼風陶器
19	II C3b盛土	陶器	皿			(0.5)	かきわけ	黒褐色	肥前	1680~1780		
20	III D5c盛土	陶器	碗	(10.0)	(4.6)	7.1	刷毛目	黒褐色	肥前	1680~1780		
21	縄中底部+レシナ	陶器	火入れ?			(4.4)	(5.1)	灰輪	灰白色	大瀬相馬	18~19C	
22	II D5c盛土	陶器	皿	(7.0)		(3.5)	灰輪	灰白色	大瀬相馬	18~19C		
23	IVH1a盛土	陶器	花入れ?			(6.1)	(5.2)	灰輪	灰白色	大瀬相馬	18~19C	
24	III E2a盛土	陶器	皿			(5.3)	(1.5)	灰輪	灰白色	大瀬相馬	18C	
25	縄中底部+レシナ	陶器	碗			(3.6)	灰輪・鉄輪	灰白色	大瀬相馬	19C		
26	III F5b盛土	陶器	碗			(2.8)	(2.5)	灰輪	灰白色	大瀬相馬	18C	
27	III E2b盛土	陶器	皿			(2.0)	刷灰輪	灰白色	大瀬相馬	18C		
28	III E2b盛土	陶器	瓶?			(2.3)	灰輪	灰白色	大瀬相馬	18C~19C		
29	I C1c盛土	陶器	壺?			(11.2)	(1.9)	物輪	浅黄褐色	瀬戸・美濃	18C~19C	
30	IVD1e盛土	陶器	火鉢	(10.0)		(3.2)	綠物	浅黄褐色	瀬戸	19C初		

口径、底径、高さの単位cm

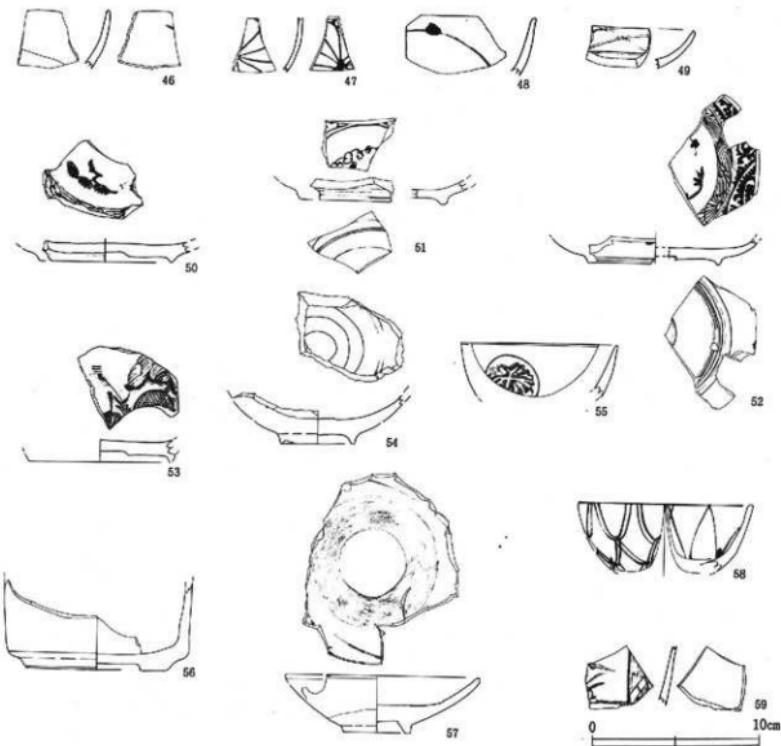
第57図 陶磁器(2)



番号	出土地点	種別	器種	口径	底径	高さ	釉色・焼付	色調	製作地	製作年代	備考	
31	ⅡD1b耕土	磁器	香炉		(3.2)	青磁釉	灰白色	高麗	13C	留文帶		
32	VH3e耕土	磁器	碗		(2.3)	青磁釉	白色	中国	14C	鏡連弁文		
33	ⅢD3b盛土	磁器	水注		(3.4)	透明釉	白色	中国	14C	麻剣		
34	ⅢD	磁器	皿		(1.6)	染付	白色	中国	16C	明染付		
35	ⅡB盛土	磁器	皿		(1.2)	染付	白色	中国	16C	明染付		
36	IVD1d盛土	磁器	皿	(10.0)	(2.1)	染付	白色	肥前	1610~1650	菊花文		
37	ⅢE5a盛土	磁器	皿	(4.2)	(1.4)	染付	明緑灰色	肥前	1610~1650			
38	ⅡC3b耕土	磁器	碗	(12.2)		(3.9)	染付	白色	肥前	1650~1690		
39	龜山遺跡レシナ	磁器	皿		(0.6)	染付	白色	肥前	1650~1690	宣明年製款		
40	ⅡD4b盛土	磁器	瓶	(5.4)	(3.0)	染付	灰白色	肥前	1650~1690			
41	龜山遺跡レシナ	磁器	碗	(4.9)	(2.9)	透明釉	白色	肥前	1650~1690			
42	ⅡC2b盛土	磁器	皿	(4.6)	(1.7)	染付	灰白色	肥前	1650~1690			
43	ⅢD3e盛土	磁器	皿		(1.3)	染付	白色	肥前	1650~1690	扇刻		
44	ⅢD5e盛土	磁器	皿	(13.4)	(7.5)	(3.5)	染付	灰白色	肥前	1690~1780	見込み蛇の目輪剥ぎ	
45	VF2a盛土	磁器	皿		(1.6)	染付	灰白色	肥前	1690~1780			

口径、底径、高さの単位cm

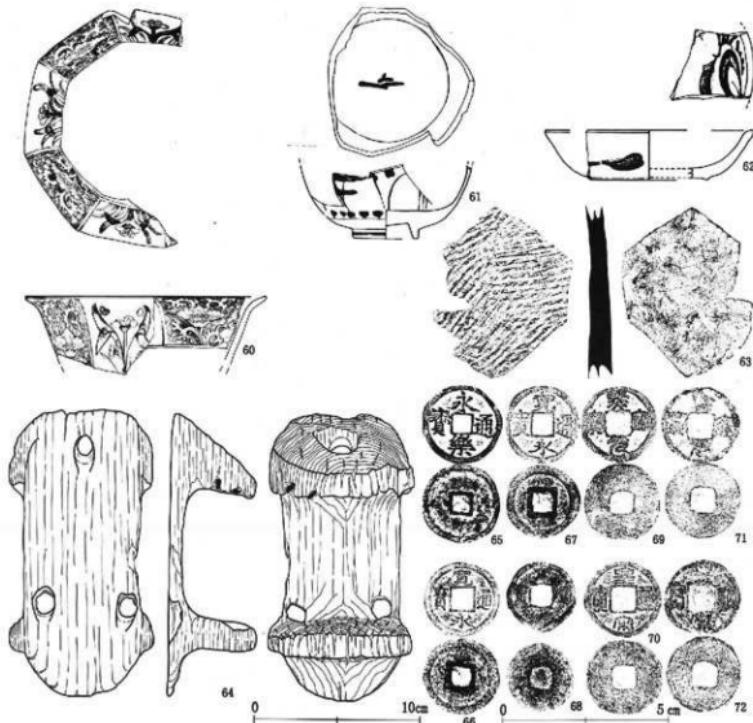
第58図 陶磁器(3)



番号	出土地点	種別	委種	口径	底径	高さ	輪裏・染付	色 製	製作地	製作年代	備 考	
46	IVE1a地山	磁器	皿			(3.5)	染付	白色	肥前	1690~1780		
47	IVD1d盛土	磁器	碗			(3.4)	染付	白色	肥前	1690~1780		
48	IVD1e盛土	磁器	碗			(3.4)	染付	灰白色	肥前	1690~1780		
49	VFl1盛土	磁器	皿			(2.3)	染付	灰白色	肥前	1690~1780		
50	III D4c盛土	磁器	皿			(8.0) (0.7)	染付	白色	肥前	1690~1780	蛇の目凹形高台	
51	II Cl a盛土	磁器	皿			(8.8) (1.1)	染付	白色	肥前	1690~1780	蛇の目凹形高台	
52	III D3D盛土	磁器	皿			(4.0)	染付	白色	肥前	1690~1780	蛇の目凹形高台	
53	III D2b盛土	磁器	皿			(8.5) (1.4)	染付	白色	肥前	1690~1780	蛇の目凹形高台	
54	III D4c盛土	磁器	皿	(10.2)	(4.5)	(2.4)	染付	灰白色	肥前	1690~1780	見込み蛇の目輪剥ぎ	
55	IVD1e盛土	磁器	碗			(9.3)	(3.2)	染付	灰白色	肥前	1690~1780	コンニャク印判
56	III D2b盛土	磁器	火入れ			(8.4)	(5.3)	透明釉	白色	肥前	1690~1780	蛇の目凹形高台
57	IVD1d盛土	磁器	皿	(11.8)	4.1	3.4	染付	白色	肥前	1690~1780	見込み蛇の目輪剥ぎ	
58	勅御郎トレンチ	磁器	碗	(10.4)		(4.2)	染付	灰白色	肥前	1780~1860		
59	不明	磁器	猪口			(4.0)	染付	白色	肥前	1780~1860		

口径、底径、高さの単位cm

第59図 陶磁器(4)



番号	出土地点	種別	器種	口径	底径	高さ	動脈・駆付	色	製作地	製作年代	備考
60	IVF5a盛土	磁器	鉢	(14.5)	(4.7)	染付	白色	肥前	1780~1860	八角鉢	
61	IVD1c盛土	磁器	碗	(3.8) (4.5)	染付	灰白色	平滑水	19C?			
62	IVD1e盛土	磁器	皿	(12.8) (7.5)	3.5	染付	灰白色	美濃	18C末~19C初	半磁器	

番号	出土地点	器種	外面調整	内面調整	種類	備考
63	SK7下位	甕・壺?	タキ	タキ	須恵器	器高10cm

口径、底径、高さの単位cm

番号	器種	出土地点	備考
64	下駄	1号掘状遺溝上位	釘がさっている

番号	銭名	出土地点	鋳造年代	直径cm	重さ g	その他
65	永寧通寶	II C 3 c 盛土	明1408年(初鋳年代)	2.1	1.42	
66	寛永通寶	II C 3 e 塚山面	新寛永1697~	2.2	2.34	
67	寛永通寶	II C 3 b 地山面	古寛永1636~1659	2.2	2.96	
68	不明	不明		2.1	1.42	
69	熙寧元寶	1号掘埋土中位	北宋1068年(初鋳年代)	2.4	3.08	
70	皇宋通寶	1号掘埋土中位	北宋1038年(初鋳年代)	2.4	2.91	
71	不明	1号掘埋土中位		2.1	0.01	
72	不明	1号掘埋土中位		2.2	1.6	

第60図 陶磁器(5)

## VIII まとめ

### 1. 遺構

#### 土坑

本遺跡の調査では、土坑が7基確認された。時代別には、縄文時代1基・中世4基・近世1基・近代1基である。土坑の性格・用途について詳細は不明であるが中世の土坑4基（SK3・SK4・SK6・SK7）については、縄文時代後期初頭～前葉にかかる土器片・石器が大量に出土したが、SK7埋土下位からかわらけが出土したことから、周辺の遺構の位置・関係から中世の土坑と考えられるだろう。執筆者の力量のなさから、何らかの目的で掘られた土坑と積極的な判断・断言は出来ないが、粘土採掘坑の可能性を含んでいる土坑と言えるのではないだろうか。

#### 堀・堀状遺構

本遺跡の調査では、2条の堀・堀状遺構を確認した。1号堀は、地山を掘り込んで深さ約2.5m～2.0m・長さ約50mの大規模な堀状遺構である。当時この堀を掘った人々の労苦と西館跡の城主の権力を感じさせるものである。この堀を検出したことにより、城館の規模を推定するに至った。

1号堀状遺構は、調査の不手際と設定した試掘溝が崩落した事もあり、人為的に掘り込んだ遺構なのか、判別出来なかった。

#### 溝跡

曲輪内を南北に延びる溝である。底面に焼土遺構を伴うもので、時代時期・性格等を把握するに至らなかった。曲輪面が水田造成時に著しく削平を受けた事を考えると、本来の溝の深さも深かったものと考えられる。断言は出来ないが、堀の可能性も考えられるだろう。

### 2. 遺物包含層

縄文土器・石器類が大量に出土した遺物包含層が本遺跡で2ヶ所確認された。「遺物包含層A」は、縄文時代後期初頭～前葉にかけての土器片・石器を出土している。「遺物包含層B」についても、同時期の土器片・石器類を出土しているが、下層また隣接する土坑の埋土下位からかわらけが出土しており、縄文時代後期初頭～前葉にかけて形成された遺物包含層と言えず、中世に形成された遺物包含層と考えた方が妥当であろう。「遺物包含層A」では中世に属する遺物が確認されず、又埋土も違う事から、土器片・石器類は同時代の遺物であるが、中世に形成されたものではないと考えている。遺物の摩滅が著しく、何回かの堆積によって形成されたものと推測する。時代時期については、縄文時代後期初頭～前葉以降と考えるべきであろう。

本遺跡では、縄文時代後期初頭～前葉の堅穴住居跡等の遺構は確認できなかったが、周辺に前述した遺構・遺物が存在する可能性は高いと言えるだろう。

### 3. 遺物

#### 縄文土器

縄文時代後期初頭～前葉にかけての土器が大コンテナで22箱出土。摩滅が著しく、完形品がまったく存在しなかつたが、連鎖状隆起線文を持つ門前式土器と呼ばれる土器片・縄文時代後期前葉に属する宮戸I型式と呼ばれる土器片が出土した。

### 石器

大コンテナ4箱出土。定型石器の中で石鎚が大きな割合を占める。尖頭器・石匙・石錐・磨石・凹石・石皿等が出土した。

### 須恵器

1点のみ出土。壺・壺類の胴部と思われる。

### かわらけ

11点出土。ロクロ成形のかわらけで、中世に属すると思われる。

### 陶磁器

274点出土。高麗青磁香炉片（13世紀）・中国産磁器片（14世紀～16世紀）・瀬戸・美濃産陶磁器片（13世紀～19世紀）・肥前産陶磁器片（16世紀末～19世紀）・大堀相馬（18世紀～19世紀）等がある。

### 古貨幣

永楽通寶・熙寧元寶・皇宋通寶・寛永通寶・銭文不明などを合わせると11点出土した。

### 下駄

掘状造構の埋土上位から出土した。

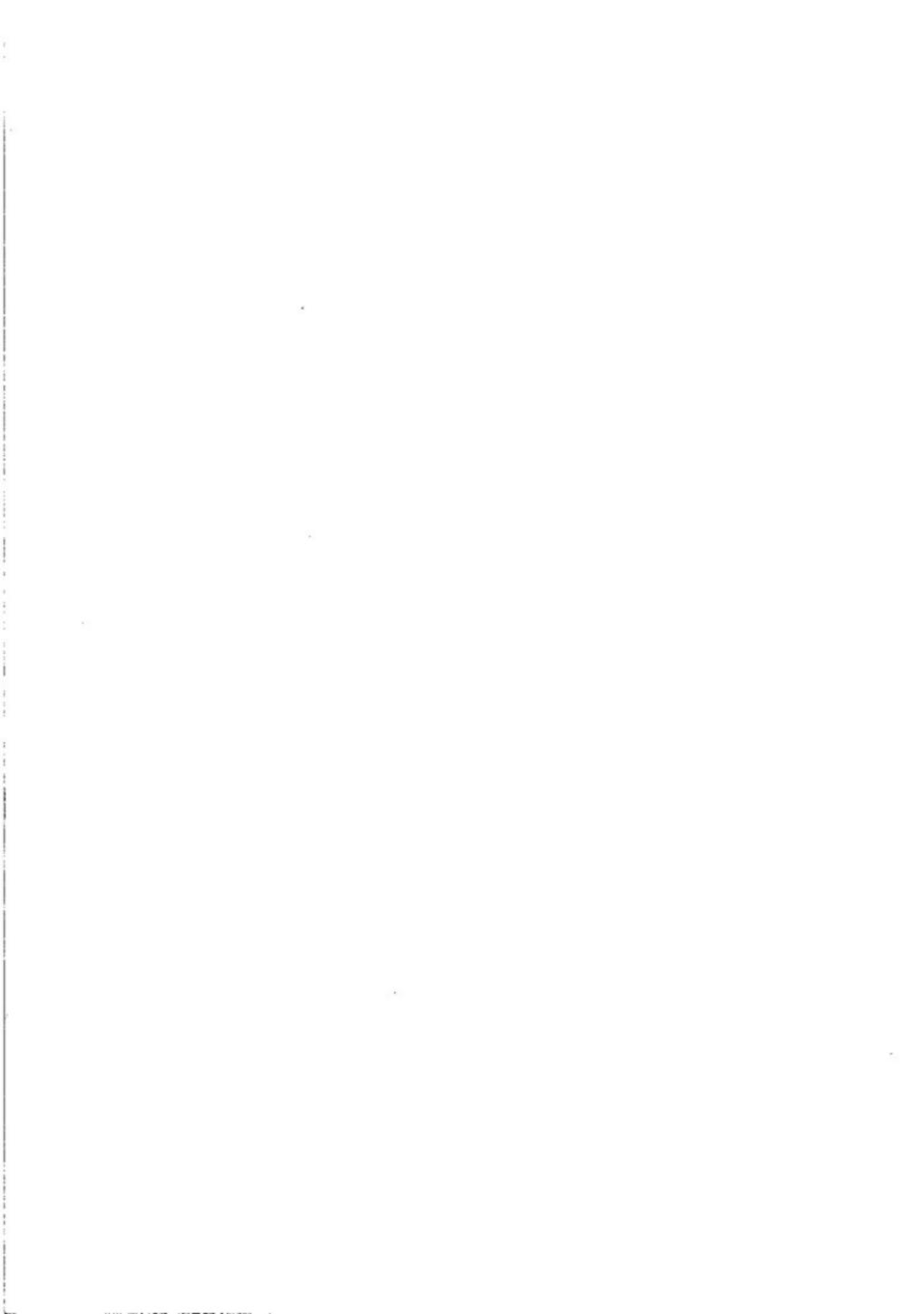
## 4. おわりに

調査の結果、以上のような造構や遺物が確認され、本遺跡の性格・内容の一端が明らかになった。執筆者の力量不足もあり、比較・検討・考察は十分と言えず、土器編年・分類・造構の性格の位置づけに誤りがあると思うが、ご容赦願いたい。この報告書が広く活用され、埋蔵文化財に対する一助となれば幸いである。

<参考・引用文献>

- 大迫町教育委員会（1969）『立石遺跡』
- 紫城 正隆（1972）『史料 仙台領内古城・館』第一巻
- 前沢町教育委員会（1976）『前沢町史』中巻 前沢町
- 前沢町教育委員会（1981）『前沢町史』下巻 前沢町
- 大槌町教育委員会（1976）『崎山弁天遺跡』
- 北上市教育委員会（1976）『八天遺跡』
- 高橋信雄・小田野哲憲・熊谷常正（1982）『岩手の土器』岩手県立博物館
- 熊谷 常正（1986）『門前式土器の検討』『岩手県立博物館研究報告』4
- 小林 透雄・小川 忠博（1989）『縄文土器大観』第4巻 小学館
- (財) 岩埋文（1988）『笹間館発掘調査報告書』 第124集
- 大橋 康二（1989）『肥前陶磁』（考古学ラブライ-55）ニューサイエンス社
- 鈴木道之助（1991）『石器入門事典（縄文）』柏書房
- (財) 岩埋文（1994）『白木野 I・II・III 遺跡発掘調査報告書』 第200集
- 西田 宏子・大橋 康二（1995）『別冊太陽 古伊万里』平凡社
- (財) 岩埋文（1996）『江川鉄山跡発掘調査報告書』 第237集
- 大橋 康二（1997）『別冊太陽 染付の柿』平凡社
- (財) 岩埋文（1997）『白井坂 I・II 遺跡発掘調査報告書』 第248集
- (財) 岩埋文（1997）『松本館跡発掘調査報告書』 第256集
- 杉沢昭太郎（1998）『紀要Ⅸ・岩手県における中世後半のかわらけの様相』『紀要XⅧ』(財) 岩埋文
- 注 (財) 岩埋文は財団法人 岩手県文化振興事業団 埋蔵文化財センターの略語

# 写 真 図 版





石鎌・石匙・石錐・尖頭器・搔・削器



陶器（瀬戸・美濃・肥前・大垣相馬産・13C～19C）

写真図版1 石器・陶器



磁器（高麗・中國・肥前産・13C～18C）

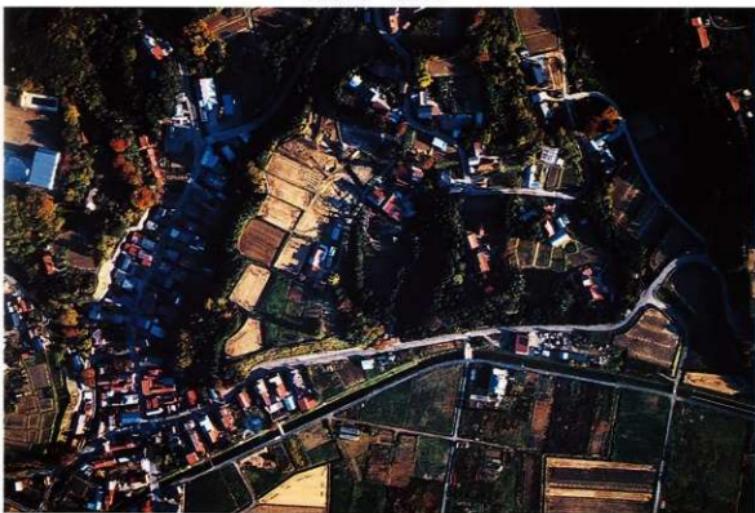


磁器（肥前・瀬戸・美濃・平清水産・18C～19C）

写真図版2 磁器



遺跡遠景 北西から



遺跡全景 真上から

写真図版3 空中写真



1号堤状遺構、曲輪（平成10年度調査区）北西から



平成10年度調査区 南西から

写真図版4 空中写真



1号塚 中央部 西から



1号塚 西側 北東から

写真図版 5 1号塚跡



1号堤 東側 西から



1号堤 断面 西から

写真図版 6 1号堤跡断面



1号堀 断面 西から



1号堀 遠景 北東から



1号堀 遠景 北から



SKI 断面 南から



SKI 完掘 南から

写真図版 7 1号堀跡・土坑



SK 2 剖面 南から



SK 2 完掘 真上から



曲輪 調査前 南東から



曲輪 調査前 南東から



遺物包含層 土坑群調査前 南東から



1号壙状遺構 調査前 南東から



作業風景 (雜物撤去)



作業風景 (雜物撤去)

写真図版 8 土坑・調査前風景



1号堤状造構調査前 上流部 北西から



1号堤状造構調査前 中流部 北西から



堤状造構調査前 下流部 北西から



地形測量



1号堤状造構 上流部断面 北西から



1号堤状造構 上流部断面西 北西から

写真図版9 調査前風景・1号堤状造溝断面



曲輪斜面部トレンチ遠景 北東から



曲輪斜面部トレンチ 北から



曲輪斜面部トレンチ 北から

写真図版10 曲輪試掘



1号堤状造構上流部 崩落 北西から



曲輪トレンチ 南東から



曲輪トレンチ 西から



1号溝 埋土断面 南西から



1号溝 北から



1号溝 中央部 北から

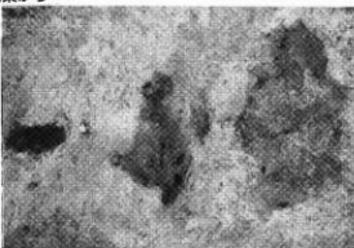
写真図版11 1号溝跡・曲輪トレンチ



1号溝 南東から



1号溝 南東から



1号溝内焼土 南から

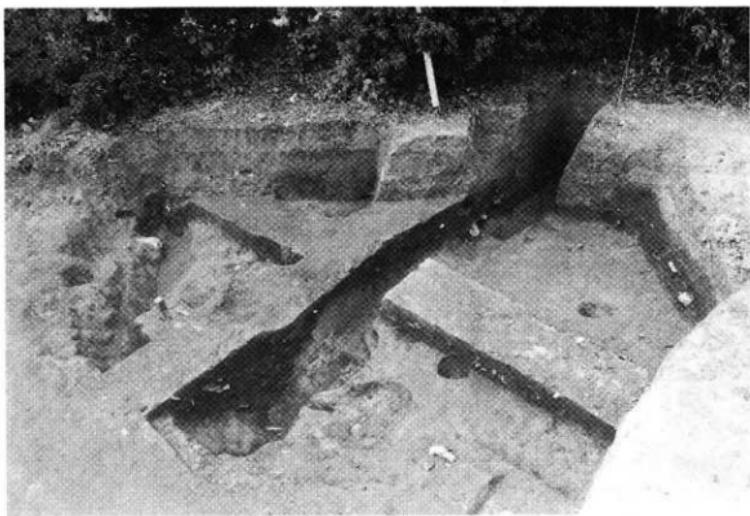


1号溝内焼土 断面 南東から

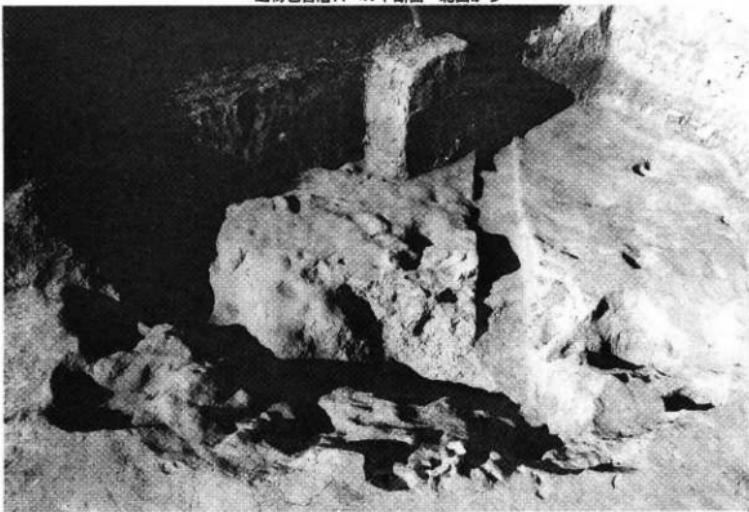


遺物包含層A出土状況

写真図版12 1号溝

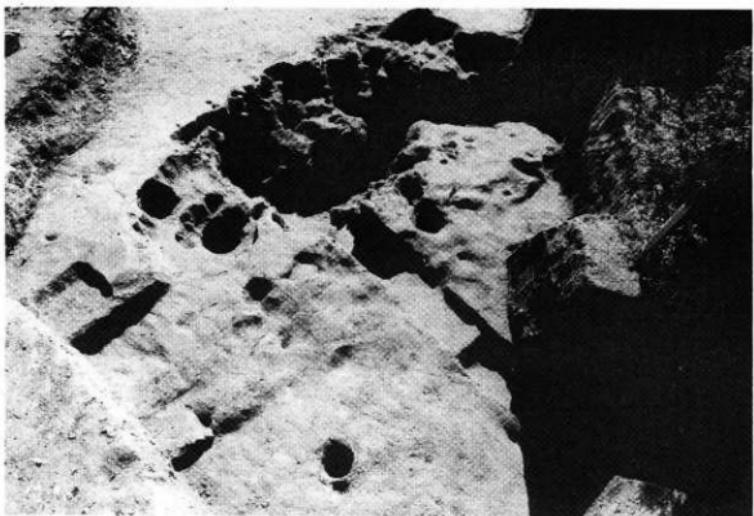


遺物包含層A ベルト断面 北西から



遺物包含層A 完整 北から

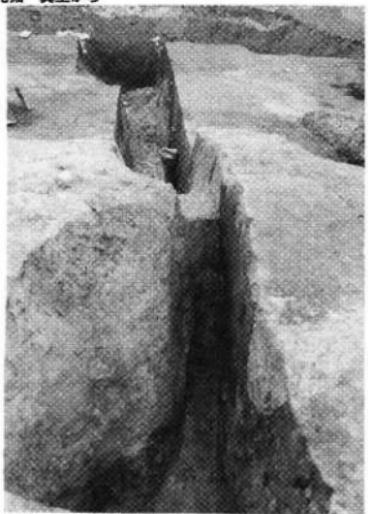
写真図版13 遺物包含層A



遺物包含層A 完掘 真上から



SK3・SK7包含層Bトレンチ断面 南西から



SK3・SK7包含層Bトレンチ断面 北東から

写真図版14 遺物包含層A完掘・土坑・包含層B断面



SK 3 完掘 真上から



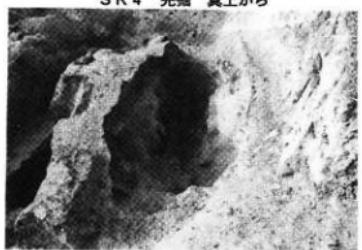
SK 4 埋土断面 北西から



SK 4 完掘 真上から



SK 6 埋土断面 北東から



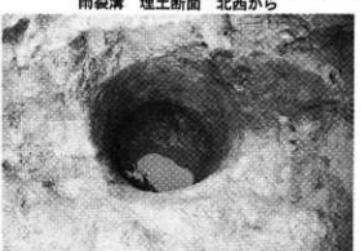
SK 6 完掘 北東から



雨裂溝 埋土断面 北西から



雨裂溝 完掘 北東から



SK 8 完掘 真上から

写真図版15 土坑群・雨裂溝・完掘・断面



土坑群・遺物包含層B・雨裂溝 近景 南東から



土坑群・遺物包含層・雨裂溝 遠景 南東から

写真図版16 土坑群・雨裂溝・遺物包含層

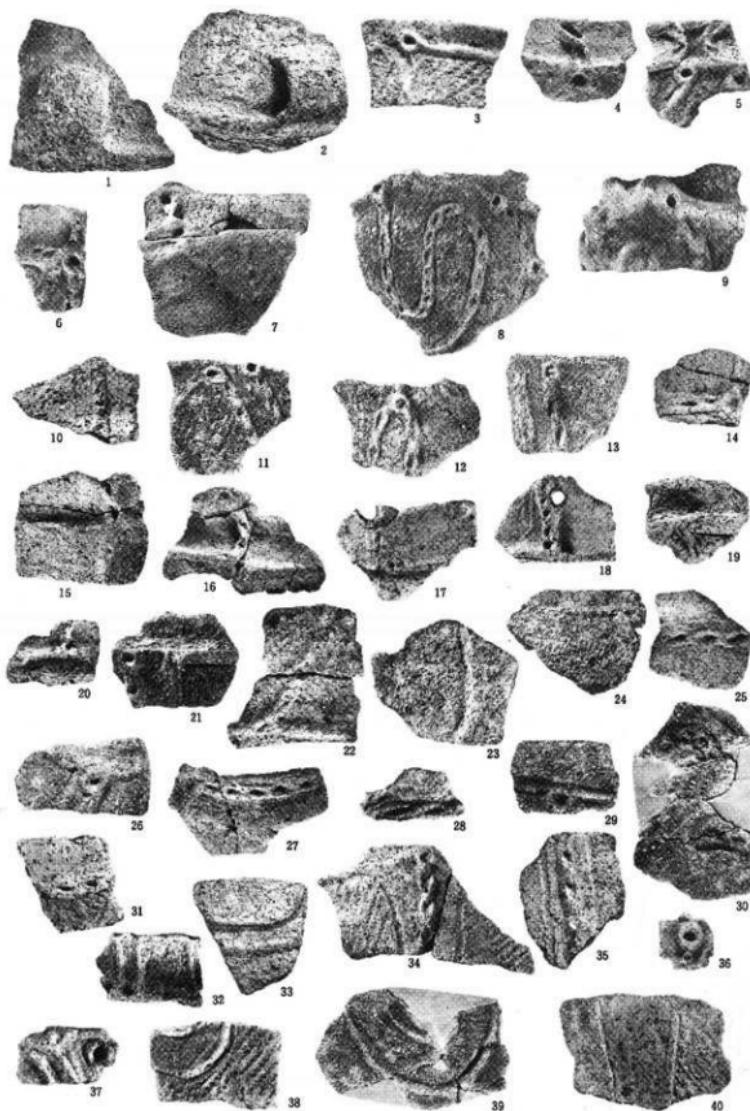


遺物包含層B 出土遺物状況

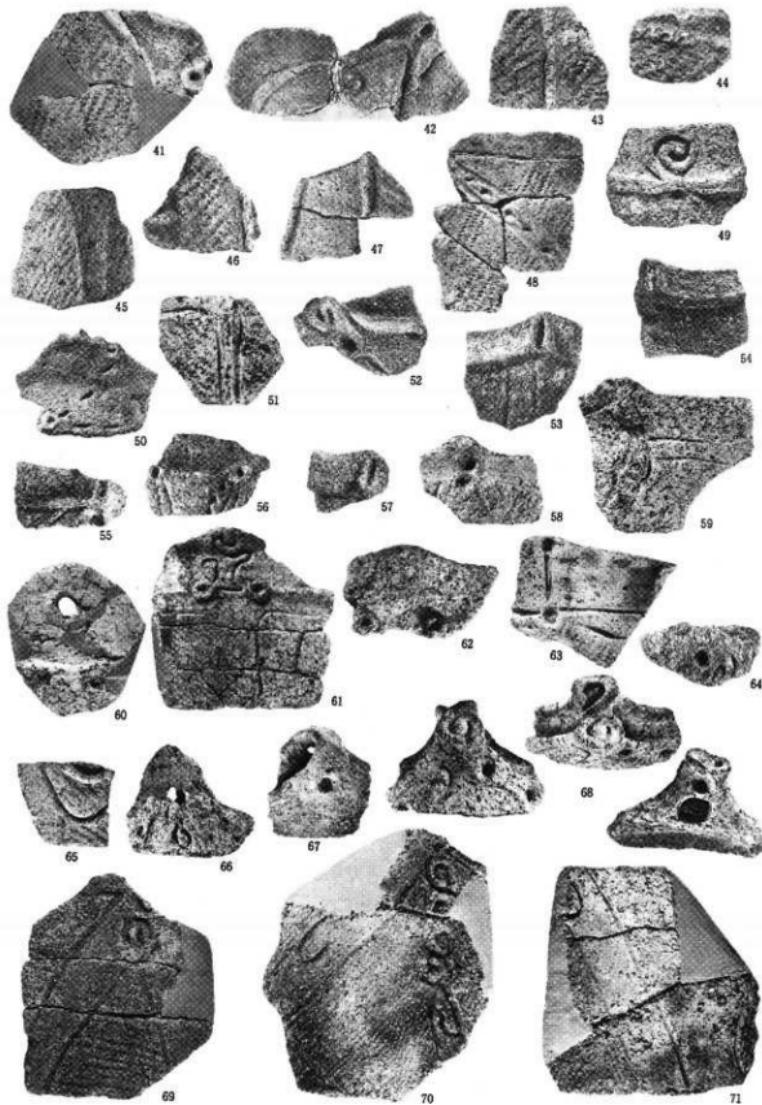


SK3・SK4・SK7・雨製漬・包含層B 完掘 南西から

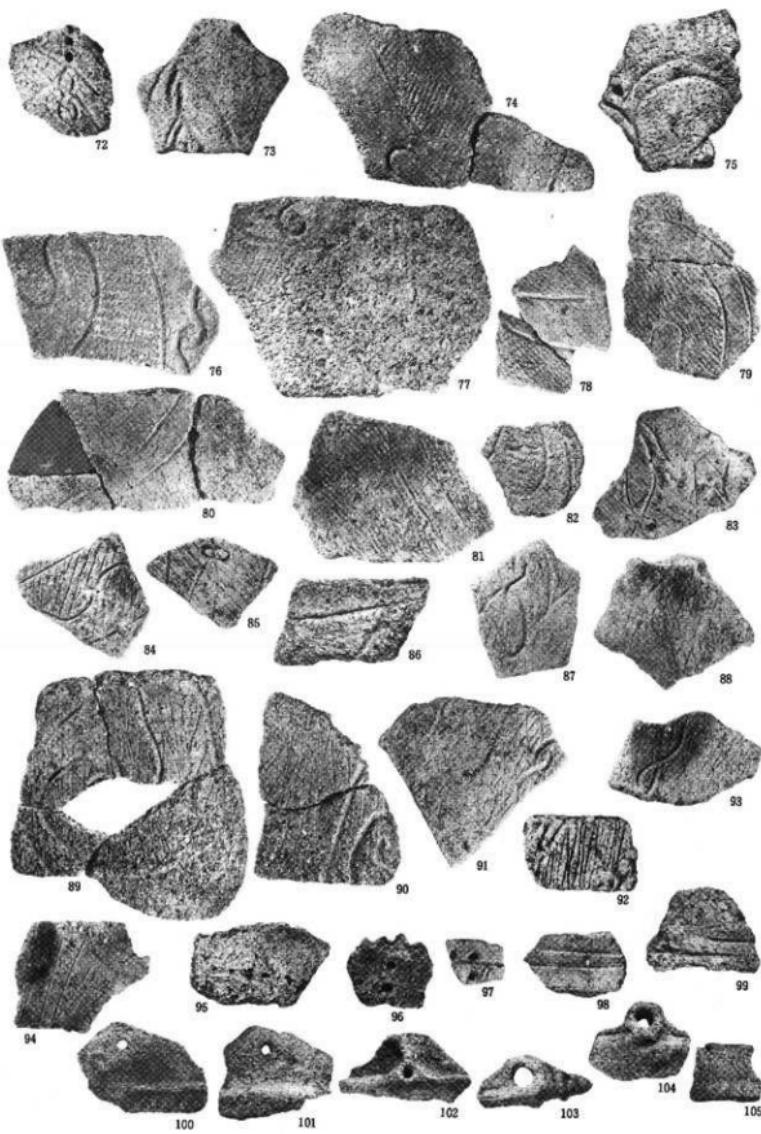
写真図版17 遺物包含層B出土状況・土坑群・包含層B完掘



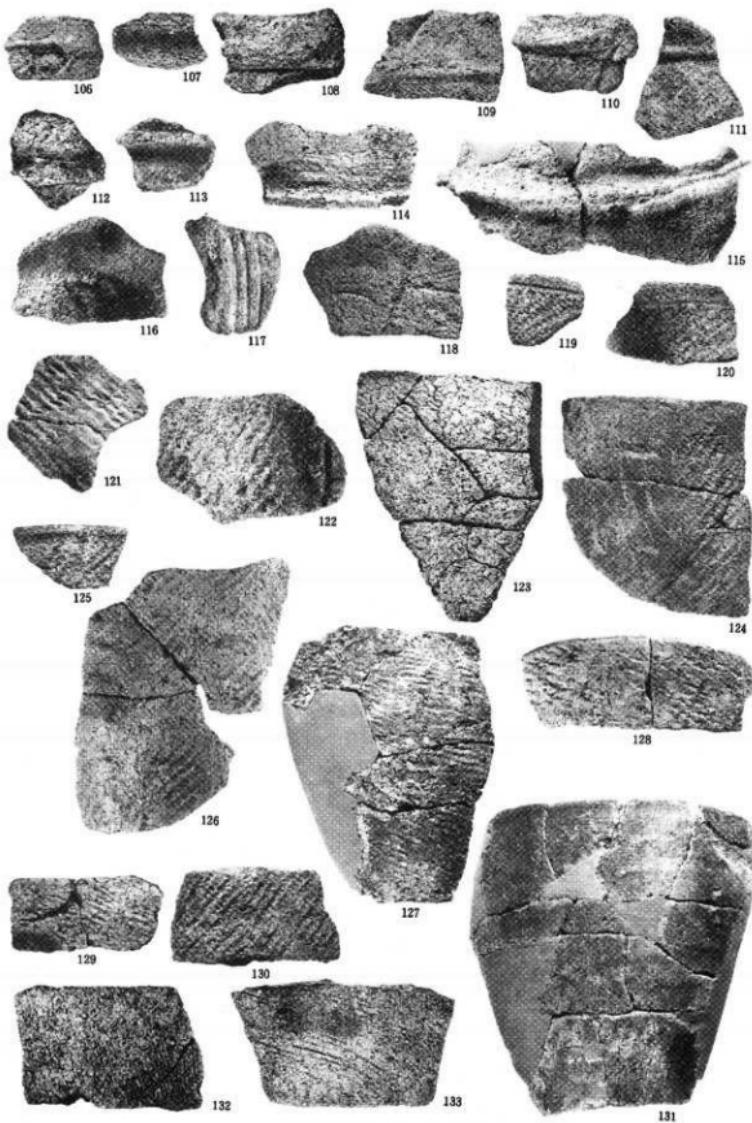
写真図版18 縄文土器(1)



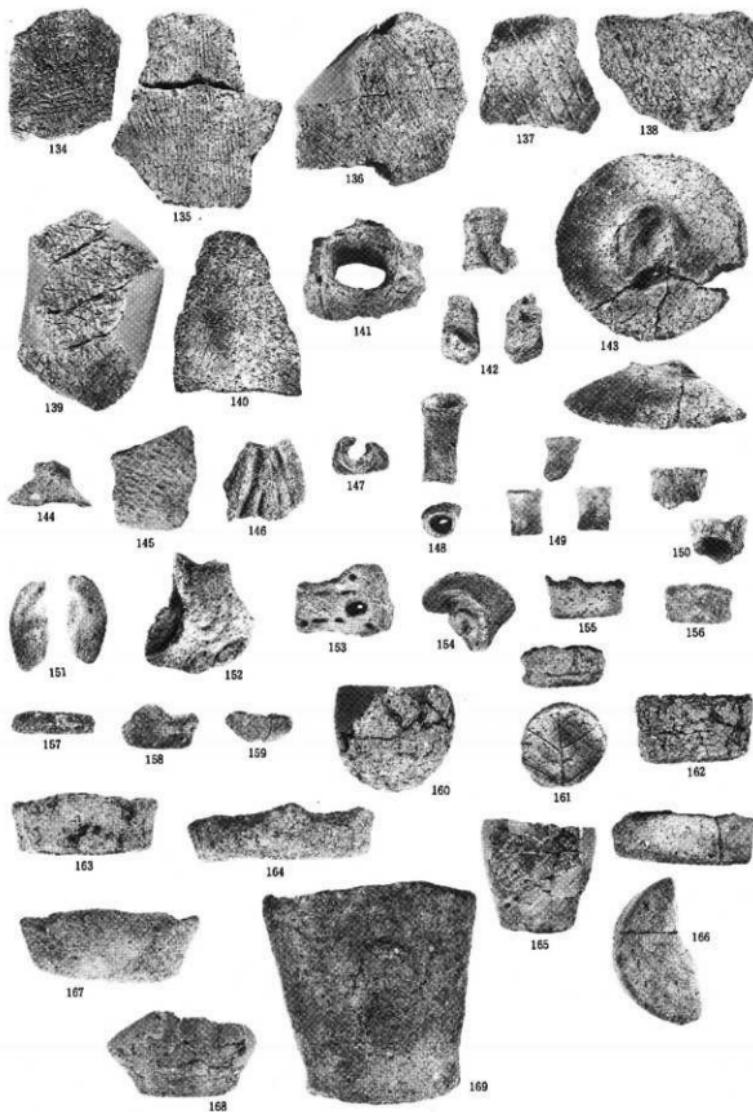
写真図版19 縄文土器(2)



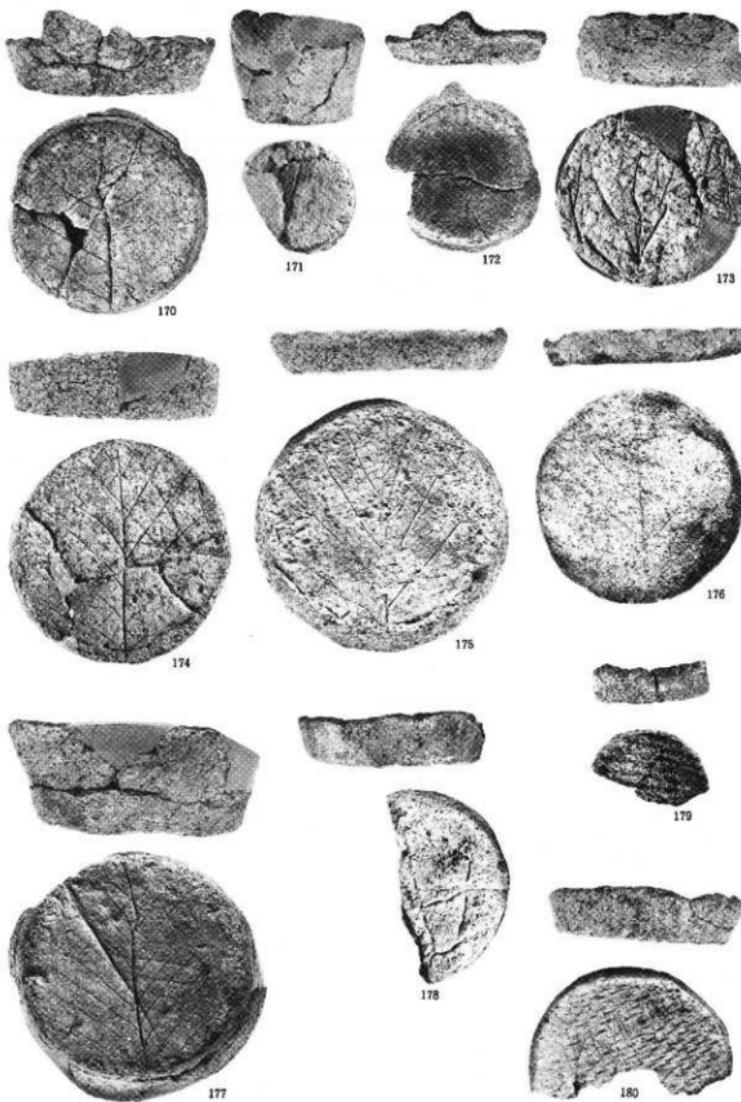
写真図版20 繩文土器(3)



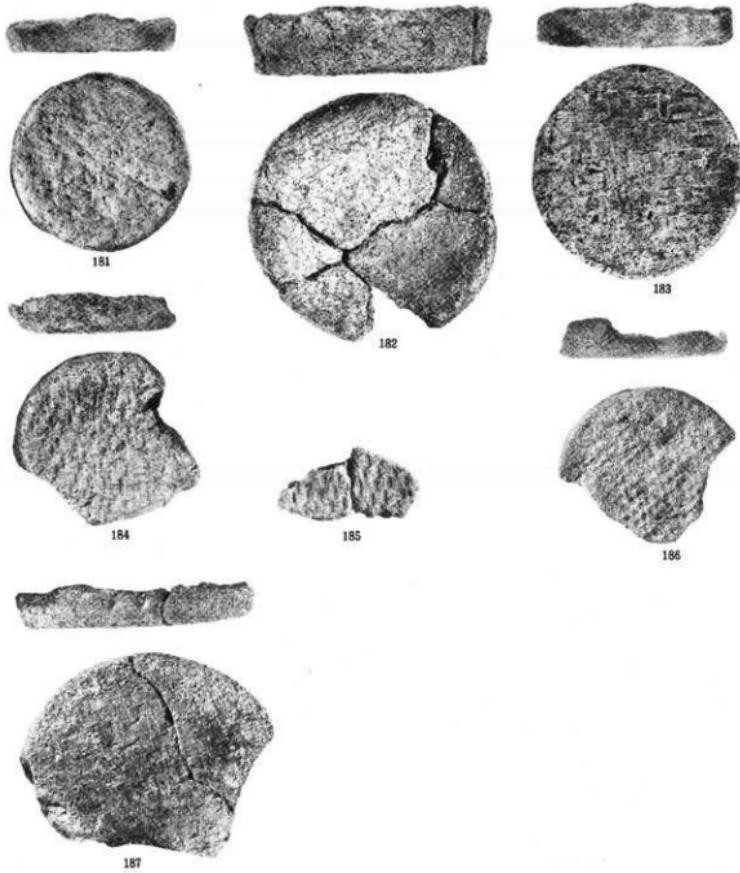
写真図版21 縄文土器(4)



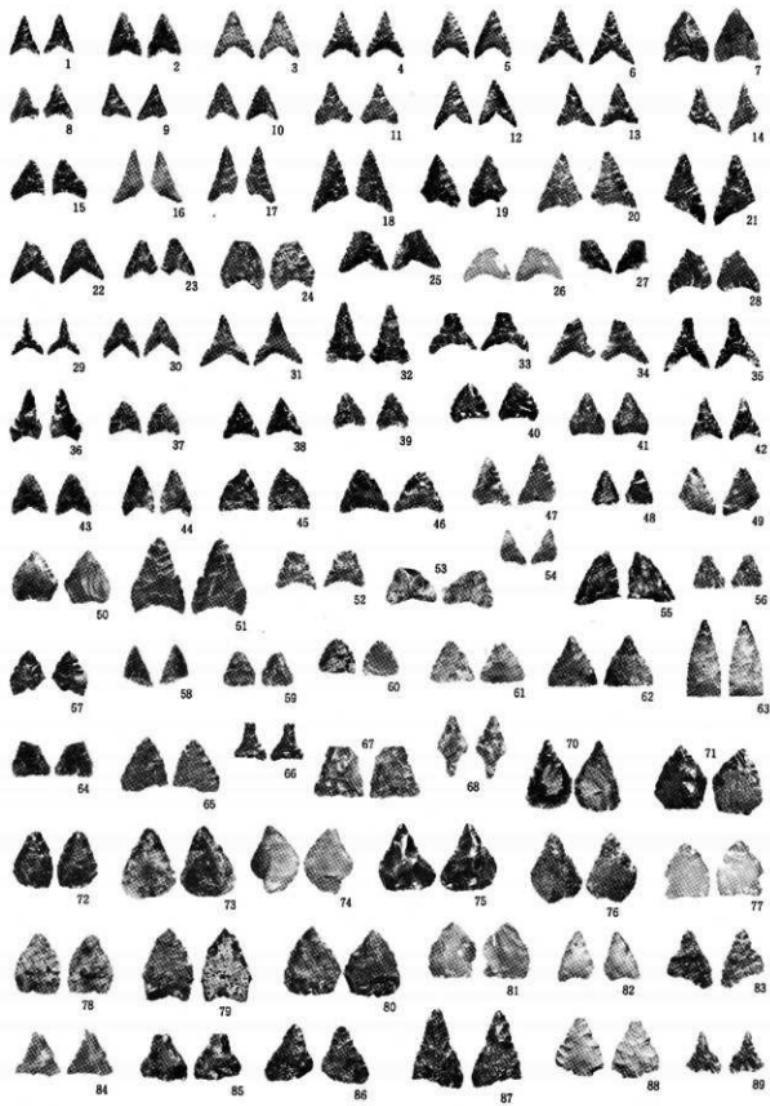
写真図版22 繩文土器(5)



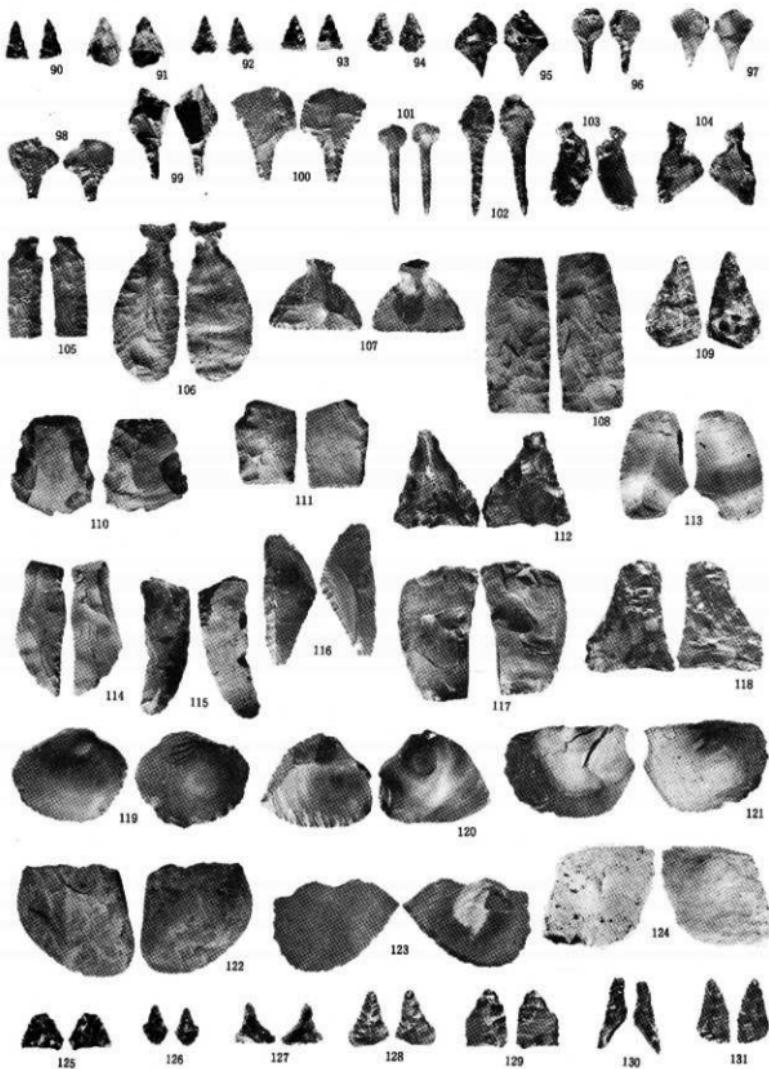
写真図版23 繩文土器(6)



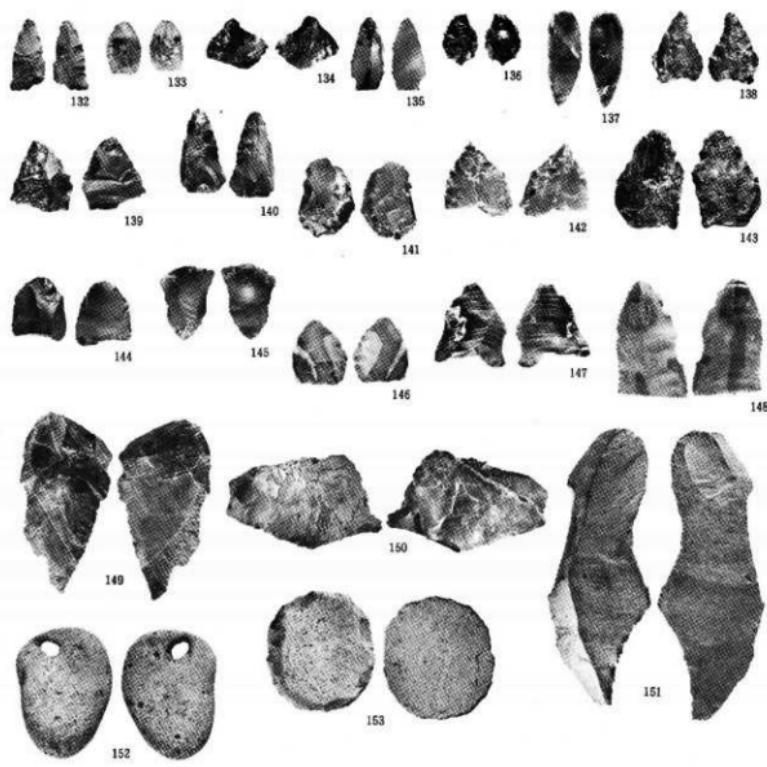
写真図版24 織文土器(7)



写真図版25 石器(1)



写真図版26 石器(2)



写真図版27 石器(3)



写真図版28 石器(4)



写真図版29 石器(5)



175



176



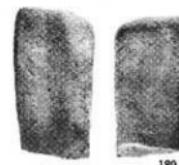
176



177



178



180



181



182



179



写真図版30 石器(6)

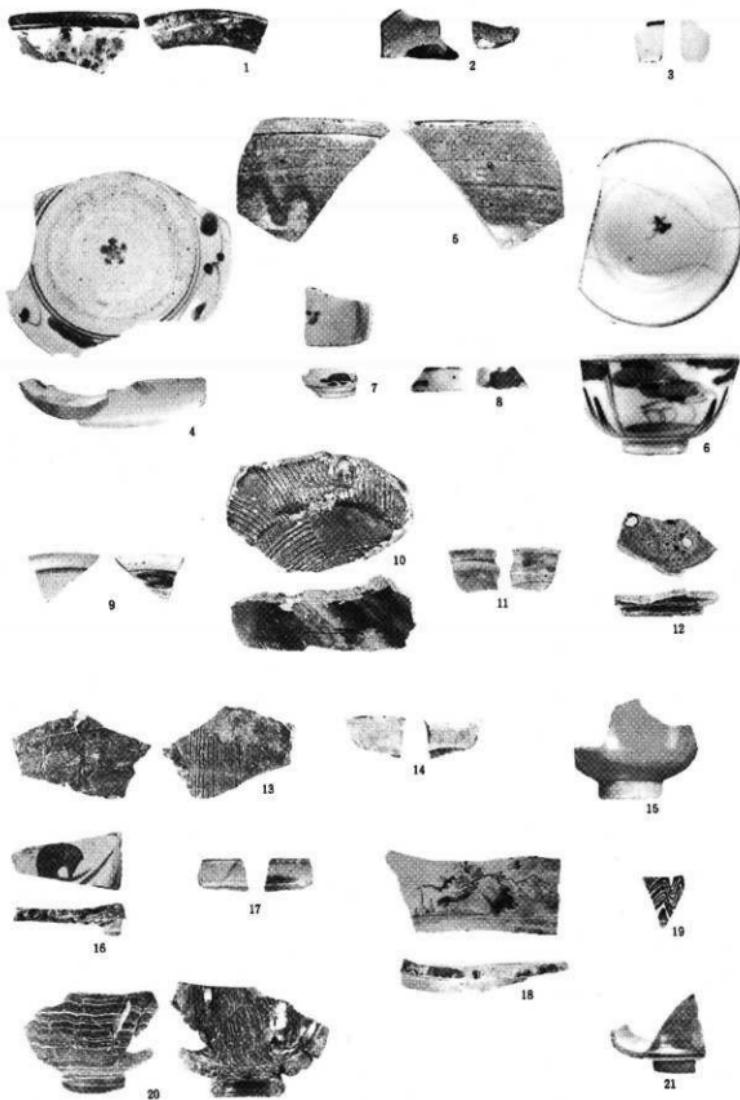


183

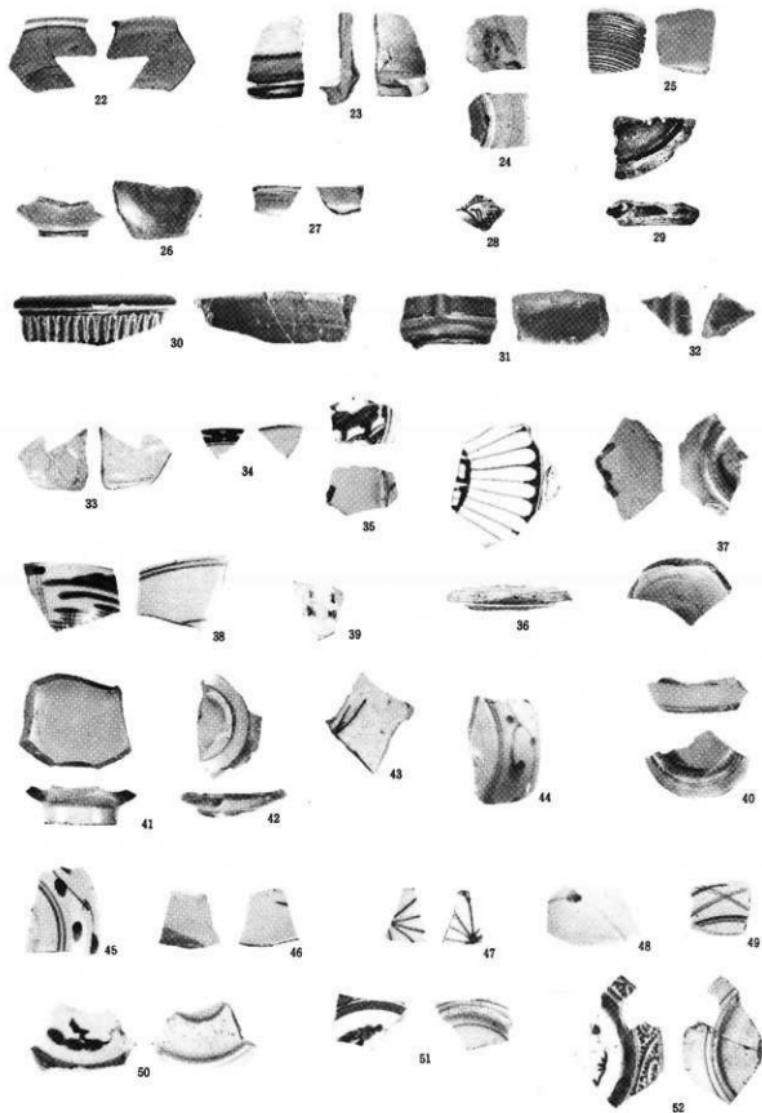
写真図版31 石器(7)



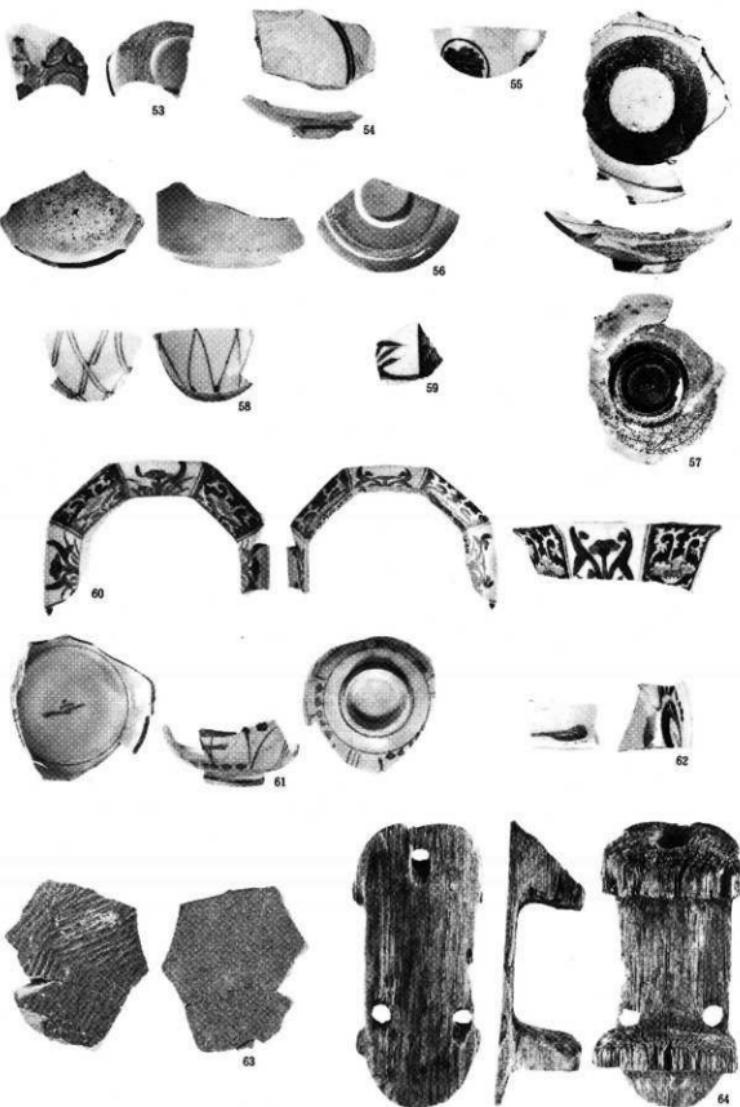
写真図版32 かわらけ



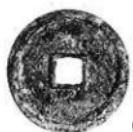
写真図版33 陶磁器



写真図版34 陶磁器



写真図版35 陶磁器・その他



写真図版36 古貨幣

## 報告書抄録

ふりがな	にしだてあとはくつちょうさほうこくしょ						
書名	西館跡発掘調査報告書						
事業名	一般県道前沢・東山線 緊急地方整備工事に伴う緊急発掘調査						
卷次							
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第329集						
編著者名	菊池貴広						
編集機関	(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター						
所在地	〒020-0853 盛岡市下飯岡11-185 TEL 019-638-9001・9002						
発行年月日	西暦 2000年3月24日						

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
西館跡	岩手県胆沢郡 前沢町生母字西 館46番地ほか			39° 03分 01秒	141° 10分 43秒	1997.08.01 ～1107 1998.08.03 ～1111	8,850m <sup>2</sup>	一般県道 前沢・東山 線に伴う 緊急発掘 調査報告書

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西館跡	城館跡	縄文時代 中世	土坑1基 溝一条 堀一条 漏斗遺構一条 土坑4基	縄文土器（後期初頭 ～前葉） 石器（石鎚・石錐・ 石匙・石皿等） 陶磁器（中世～近世） かわらけ（中世）	縄文土器・石器が山 土した遺物包含層 中世の堀

## 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員

所長	佐藤 基	嘱託	藤島 恵子
副所長	伊藤 直司	"	新田 トヨ重
[管理課]			
課長	川浪 清徳	"	佐々木 光
主査	立花 多加志	"	佐々木 重
主事	日影 駿夫	[調査第二課]	
[調査第一課]			
課長	小田野 哲恵文	課長	高橋 與右衛門
課長補佐	佐々木 清文	課長補佐	中川 重紀
主任文化財	酒井 宗孝	主任文化財	高橋 義介
専門調査員	小山内 透	専門調査員	古館 貞身
文化財	中田 治	文化財	身瀬 幸一
専門調査員	吉田 充勉	専門調査員	眞芳眞
"	田中 兼一郎	"	佐々木 雅
"	小笠原 健達	"	太郎
"	鳥居 進	"	昭彦
"	濱田 俊由	"	忠昭
"	佐安 俊正	"	里義
"	木戸口 正勝	"	俊佳里
"	小野寺 正直	"	香彦
"	阿千羽 淳靖	"	規恵
"	高佐曾 武雄	"	和黙微
"	半蔵 潤一	付員	田川
"	菊池 卓貴	専門限職	木澤
"	本上 直浩	"	谷口
"	多村 雄一	"	田川
"	山根 直治	"	木澤
期専門限職員	佐藤 球一	"	木田
"	佐藤 美治	"	田川
"	佐藤 子み	"	平布
"	佐藤 德敷	"	山熊
"	佐藤 敦幸	"	吉北
"	佐藤 幸	"	吉

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 329集

## 西館跡発掘調査報告書

一般県道前沢・東山線 緊急地方整備工事に伴う緊急発掘調査

印刷 平成12年3月17日

発行 平成12年3月24日

発 行 勘 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185

T E L 019-638-9001

F A X 019-638-8563

印 刷 勘 博光出版

〒020-0122 盛岡市みたけ5丁目8番43号

T E L 019-641-0671

©(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2000

